

# 令和6年度 交流及び共同学習実施報告書



山梨県教育委員会

# 令和6年度 交流及び共同学習 実施報告書

## 目 次

### 【県立】

|                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| ○盲学校            | ・ ・ ・ ・ ・ 1     |
| ○ろう学校           | ・ ・ ・ ・ ・ 1 2   |
| ○甲府支援学校         | ・ ・ ・ ・ ・ 2 8   |
| ○あけぼの支援学校       | ・ ・ ・ ・ ・ 3 6   |
| ○わかば支援学校        | ・ ・ ・ ・ ・ 4 5   |
| ○わかば支援学校ふじかわ分校  | ・ ・ ・ ・ ・ 6 5   |
| ○やまびこ支援学校       | ・ ・ ・ ・ ・ 7 3   |
| ○富士見支援学校        | ・ ・ ・ ・ ・ 8 1   |
| ○富士見支援学校旭分校     | ・ ・ ・ ・ ・ 8 2   |
| ○ふじざくら支援学校      | ・ ・ ・ ・ ・ 8 3   |
| ○かえで支援学校        | ・ ・ ・ ・ ・ 9 3   |
| ○高等支援学校桃花台学園    | ・ ・ ・ ・ ・ 1 0 4 |
| ○特別支援学校うぐいすの杜学園 | ・ ・ ・ ・ ・ 1 1 2 |

### 【国立大学法人】

|                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| ○山梨大学教育学部附属特別支援学校 | ・ ・ ・ ・ ・ 1 1 4 |
|-------------------|-----------------|

※ 各支援学校の「教科等区分」の表記については、次のものを示しています。

- ・ 自立：自立活動
- ・ 特活：特別活動
- ・ 総合：総合的な学習（探究）の時間
- ・ 生単：生活単元学習
- ・ 遊び：遊びの指導
- ・ 職家：職業・家庭
- ・ 保体：保健体育
- ・ 作業：作業学習

## I 学校概要

## 1 学校の概要

|             |                         |
|-------------|-------------------------|
| 学 校 名       | 山梨県立盲学校                 |
| 所 在 地       | 〒400-0064 甲府市下飯田2丁目10-2 |
| 電話番号        | 055-226-3361            |
| 校 長 名       | 白倉 明美                   |
| 交流及び共同学習主任名 | 市川 いつか                  |

## 2 学校教育目標

自己実現・社会的自立ができる力を養い、健康で心豊かな人間を育成する。

## II 交流及び共同学習推進協議会の経過

## 1 交流及び共同学習推進会議構成員

| No. | 所 属・職 名            | 備 考 |
|-----|--------------------|-----|
| 1   | 池田地区自治会連合会・会長      | 会長  |
| 2   | 池田地区社会福祉協議会・会長     |     |
| 3   | 池田地区シニアクラブ連合会・会長   |     |
| 4   | 池田地区ボランティア推進会・会長   |     |
| 5   | 山梨ライトハウス青い鳥成人寮・施設長 |     |
| 6   | 甲府西幼稚園・園長          |     |
| 7   | 甲府市立池田小学校・校長       | 副会長 |
| 8   | 甲府市立西中学校・校長        |     |
| 9   | 山梨県立甲府西高等学校・校長     |     |
| 10  | 山梨県立甲府城西高等学校・校長    |     |
| 11  | 山梨県立盲学校・PTA会長      |     |
| 12  | 山梨県立盲学校・校長         |     |
| 13  | 山梨県立盲学校・教頭         |     |
| 14  | 山梨県立盲学校・事務長        |     |

## 2 経過

| 開催月日  | 協 議 会 の 内 容                      |
|-------|----------------------------------|
| 6月19日 | 令和5年度の様子、令和6年度交流及び共同学習の計画        |
| 1月28日 | 令和6年度交流及び共同学習の実践報告、来年度に向けての課題の検討 |

## III 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

## 1 目 的

- (1) 幼児児童生徒の生活経験を広げ、社会性・協調性を育てる。
- (2) 相互の理解を深め、社会で共に生きて行くという意識を高める。
- (3) 視覚障害教育に対する理解と啓発を促す。

## 【各学部の目的】

## (1) 幼稚部

- ①自由あそびや集団での活動をとおして、生活経験の広がりを図る。
- ②継続した交流活動の中で、友だちとふれあう楽しさを味わわせる。
- ③同年齢の集団における活動の中で、雰囲気を感じたり、自分の気持ちを表現したりできるようにする。

(2) 小学部

- ①休み時間や給食・教科交流・学校行事などの交流及び共同学習を通して、生活経験を広め、集団のルール等の社会性を育てる。
- ②継続した交流活動の中で、友達とふれあう楽しさを味わわせながら、より良い関わりを育てる。
- ③同年齢の集団における活動を通して、自分の感情や意思を表現したり、もてる力を発揮したりする中で、お互いの関係を深めさせる。

(3) 中学部

- ①学校行事・課外活動などを通して、生活経験を豊かにし、相手を思いやる心や協力する態度を育てる。
- ②共に活動することを通して視覚障害や障害についての相互理解を深め、主体的に行動しようとする意欲を高める。
- ③様々な人たちとの関わりを通して、視覚障害について、多くの人への啓発を促す。

(4) 高等部

- ①学校行事・生徒会活動等により社会経験を広め、積極的に社会に参加しようとする態度を育てる。
- ②共に活動することを通して視覚障害や障害について相互理解を深め、生きる力を付けようとする意欲を高める。
- ③様々な人たちとの関わりを通して、視覚障害について多くの人への啓発を促す。

(5) オンライン交流

盲学校の在籍人数は、インクルーシブ教育システムの推進により、全国的に減少傾向にあり、特に準ずる教育課程で学ぶ単一障害児童生徒は、学部により1名という盲学校も少なくない。

同じ視覚障害のある同じ学年の交流授業を通して、意見交換と学びを深め、視覚障害のある友達と出会い、共に励みにしている。今後も効果的に行っていききたい。

## 2 提携校

| 学部         | 交流及び共同学習提携校                                                       |
|------------|-------------------------------------------------------------------|
| 幼稚園部       | 甲府西幼稚園                                                            |
| 小学部        | 甲府市立池田小学校<br>〈オンライン〉<br>沖縄県立沖縄盲学校 栃木県立盲学校 長野県長野盲学校<br>東京都立久我山青光学園 |
| 中学部        | 甲府市立西中学校                                                          |
| 高等部（本科普通科） | 山梨県立甲府城西高等学校 山梨県立甲府西高等学校<br>〈オンライン〉<br>東京都立八王子盲学校 福井県立盲学校         |

## 3 実施状況

| 学部 | 月日               | 提携校    | 実施学年         | 教科等区分 | 実施内容            |
|----|------------------|--------|--------------|-------|-----------------|
| 幼  | 通年               | 甲府西幼稚園 | 今年度対象なし      | 体験あそび | 自由遊び<br>おあつまり活動 |
|    | 10月30日<br>11月29日 |        | 4、5歳児<br>3歳児 |       | 盲学校交流体験会        |

|   |                                   |                      |           |                     |                                          |
|---|-----------------------------------|----------------------|-----------|---------------------|------------------------------------------|
| 小 | 1・2学期                             | 甲府市立<br>池田小学校        | 全学年       | 音楽・道徳<br>総合<br>特別活動 | 音楽、道徳、総合（修学旅行報告）<br>体育（運動会練習）            |
|   | 11月 3日                            |                      |           |                     | 池田小運動会                                   |
|   | 3学期                               |                      |           |                     | お礼状作成                                    |
|   | 学期に1回                             | 東京都立久我<br>山青光学園      | 2学年       | 国語・自立               | 自己紹介<br>質問にこたえる<br>学校の行事紹介<br>（オンラインで実施） |
|   |                                   | 栃木県立<br>盲学校          |           | 国語・自立               | 自己紹介<br>質問にこたえる<br>学校の行事紹介<br>（オンラインで実施） |
|   |                                   | 長野県<br>長野盲学校         | 4学年       | 総合・特活               | 自己紹介・学校行事紹介<br>（オンラインで実施）                |
|   |                                   | 沖縄県立<br>沖縄盲学校        |           | 国語・総合               | 国語・総合<br>（伝統工芸品等）<br>（オンラインで実施）          |
| 中 | 2学期                               | 甲府市立<br>西中学校         | 1・3<br>学年 | 特別活動                | 本校学園祭での作品展示                              |
|   | 9月20日                             |                      | 1・3<br>学年 | 特別活動                | 学園祭参観                                    |
|   | 10月<br>19・22日<br>11月 1日           |                      | 1・3<br>学年 | 音楽                  | 合唱祭練習参加及び本番参観                            |
| 高 | 11月 1日                            | 山梨県立<br>甲府城西<br>高等学校 | 1学年       | 総合                  | 本校教員による交流事前学習                            |
|   | 12月 8日                            |                      | 2・3<br>学年 | 総合                  | 盲学校体験交流会                                 |
|   | 6月30日                             | 山梨県立<br>甲府西<br>高等学校  | 1学年       | 総合                  | 探究について、交流校生徒からのインタビュー                    |
|   | 7月23日                             |                      | 2・3<br>学年 | 総合                  | 総合的な探究の時間の発表参観                           |
|   | 2学期                               |                      | 2・3<br>学年 | 特別活動                | 本校学園祭での作品展示                              |
|   | 1月31日                             | 東京都立<br>八王子盲学校       | 2・3<br>学年 | 総合                  | 総合的な探究の時間での交流（オンラインで実施）                  |
|   | 5月 9日<br>7月11日<br>10月24日<br>2月 6日 | 福井県立<br>盲学校          | 2学年       | 総合                  | 総合的な探究の時間での交流（オンラインで実施）                  |
| 全 | 10月 5日                            | 山梨県立<br>甲府西<br>高等学校  | 全学年       | 特別活動                | 本校学園祭で吹奏楽部演奏                             |

## 4 学校間交流の様子

### (1) 幼稚部

今年度の幼稚部は5歳児2名が在籍している。例年は甲府西幼稚園と定期的に交流を行う幼児がいるが、幼児の構成と実態から昨年度に引き続き、実施はなかった。

「盲学校交流体験会」は甲府西幼稚園の幼児が年齢に応じ段階的に視覚障害について体験する機会として、本校職員が講師となり毎年実施している。今年度も感染防止対策を考慮し、盲学校と甲府西幼稚園に会場を分けて実施した。10月に年中組の白杖歩行体験と年長組の点字体験、11月に年少組のアイマスク体験を行った。甲府西幼稚園の先生方の協力を得ながら、園児が視覚障害について知る良い機会となった。



「アイマスク体験」



「点字体験」

### (2) 小学部

今年度の小学部には2学年2名、3学年3名、4学年2名、5学年1名、6学年2名の計10名が在籍している。全員が池田小学校（以下「池田小」と記載）と交流及び共同学習を行った。池田小の運動会への参加、作品交流を実施した。学年により教科等の交流も行った。

また、2年生1名と、4年生は県外の視覚支援学校の同学年児童と、オンラインで交流及び共同学習を行った。

#### ① 池田小学校との交流

学年ごとに音楽や道徳、総合的な学習の時間等で交流を行った。4年生は甲府市の音楽会に向けて一緒に練習をし、本番のビデオ録画にも参加した。6年生は総合的な学習の時間に修学旅行の報告を行った。

交流運動会では毎年、個々の実態に合わせて参加種目や方法、合理的配慮等を検討し、練習及び運動会に参加している。練習期間は、ほぼ毎日池田小に通い練習を積み重ねた。当日はリレーやダンスなどの表現活動、玉入れなどの競技で練習の成果を発揮することができた。練習や運動会の際には、互いにあいさつしたり声をかけ合ったりするなど、児童同士の交流が見られた。

六星祭(本校学園祭)では、池田小の児童が授業で制作した絵画や習字などを展示している。また、池田小では本校の児童が作った作品を展示する機会を設け、多くの児童や保護者の方に作品を見てもらっている。視覚障害のある児童が授業の中でどのような材料や手法で、何を作っているのかを知ってもらいたい良い機会となっている。

池田小4年生交流体験会は、池田小4年生が本校に来校し、点字体験や白杖体験、ボッチャを本校の児童も交えて行った。

#### ② 県外の盲学校との交流（オンラインでの交流）

4年生は教科学習において沖縄盲学校と長野盲学校とオンライン交流及び共同学習を行った。国語で取り組んだ「新聞を作ろう」や「未来につなぐ伝統工芸」に関わって、互いの成果を発表し、互いの発表の良いところの意見交換を行うことができた。また、長野盲学校とは、手紙のやり取りや自己紹介、互いの地域の様子（気温等）、郷土料理や学校行事について話をした。遠足で行った場所や体験したこと、行事の内容を聞き、「行ってみたい」「やってみたい」と感想を伝え合った。

2年生は、栃木盲学校と久我山青光学園と3校でオンライン交流を行った。互いに自己紹介をし、学校行事の紹介をした。主に各校の学園祭について紹介し、質問や感想発表を行った。



「運動会参加」



「交流展示」



「オンライン交流」

### (3) 中学部

1 学年 1 名、3 学年 2 名が、甲府市立西中学校の学園祭を参観した。開会式での本校生徒の紹介や、交流校生徒との挨拶など、交流をすることができた。学年発表は、ダンスや歌などが組み込まれており、見ごたえのある内容で、本校生徒にとり意義のある参観になった。

1 学年 1 名が、学年合唱の練習と本番に参加した。練習の前には挨拶をするなど、直接的な交流をすることができ、本校生徒が中学校での学校生活の一部を体験することができた。3 学年 2 名は本番を参観した。学年合唱では、迫力のある歌声を直接聴くことができ、音楽のもつエネルギーを体感することができた。

作品展示では、交流校の学園祭で本校生徒の美術作品を展示してもらった。夏野菜を題材として版画作品の展示を通して、交流することができた。また交流校生徒の作品を本校学園祭で展示し、交流校での美術の様子を知ることができた。



### (4) 高等部

#### ① 甲府城西高校との交流

##### ・本校教員による事前学習会

体験交流会の事前学習として、本校の教員 3 名が交流校で事前学習会を実施した。本校紹介、点字、サウンドテーブルテニス、盲導犬について、講義をした。盲導犬を連れていったので、より体験的な学習となった。

##### ・盲学校体験交流会

甲府城西高校 1 年生約 30 名が来校し、点字とサウンドテーブルテニスの体験活動などを本校生徒と行った。点字体験では本校生徒が点字の添削をしたり、サウンドテーブルテニス体験では生徒同士が練習試合をしたりして、直接的な交流をすることができた。こうした体験が共生社会についての学びを深める良い機会となった。



## ②甲府西高校との交流

### ・学習発表会参観

総合的な探究の時間において、視覚障害者の空間認知についての探究学習を行っていた交流校の生徒から、本校生徒がインタビューを受けた。当事者としての体験などを伝えることで、相手の障害理解の一助となることができた。また、交流校の総合的な探究の時間の学習発表会を参観し、同年代の生徒たちの学習の様子を知ることができた。

### ・本校学園祭での交流演奏会

六星祭の交流演奏会は、甲府西高校の吹奏楽部に依頼した。本校の校歌や各種大会で演奏した曲、ディズニーの曲を含め、本校の児童が踊りだしたくなるような演奏をしてくれた。



## ③作品展示

本校学園祭「六星祭」に、甲府城西高校から絵画5点、甲府西高校から書道条幅9点の作品の展示を行った。

スペースに限りがあるため、作品数を絞っての展示であったが、迫力のある素晴らしい作品を鑑賞できた。



「甲府西高校書道作品」



「甲府城西高校絵画作品」



## ④オンラインでの交流

県外の盲学校2校とのオンライン交流を行った。視覚障害のある同年代の仲間との交流を通して、他県の盲学校の授業や修学旅行について知ることができた。

### ・東京都立八王子盲学校との交流

2年生3名、3年生1名が、総合的な探究の時間の中で実施した。校外学習時の公共交通機関の利用方法や、スマートフォンの地図アプリの効果的な使用法について報告した。交流校の生徒は、修学旅行などの報告をした。交流校は林間学校で北杜市に宿泊しており、現地についての情報交換などを行うことができた。

### ・福井県立盲学校との交流

2年生2名が、総合的な探究の時間の中で行った。本校生徒は、夏季休業中に行った村役場でのインターンシップについて報告をした。その経験から見つけた課題について話すことで、視覚障害のある生徒が社会に必要なスキルなどについて有意義な話し合いを行うことができた。

## 5 成果と課題

### (1) 幼稚部

昨年度に続き今年度も定期的な交流を行う幼児はいなかったが、甲府西幼稚園の園児が視覚障害体験で来校した際に本校在籍児がプレゼントを渡す機会を持つことができた。また、作品展示を通しての交流は継続して行うことができた。次年度は定期的な交流を行う幼児が在籍する予定である。子供同士の関わり、運動会や音楽会への参加等による成果が期待される。

### (2) 小学部

#### ①池田小学校との交流

交流を継続していることで学年を追うごとに、お互い友達とのかかわり方に主体性がでてきた。授業内だけでなく、休み時間に子供同士で会話し遊ぶ姿が見られた。

交流運動会では、練習から参加し、本番では練習の成果を発揮することができた。

交流活動を通して、同年齢の友達と一緒に行事を成し遂げたり、友だちと触れ合う楽しさを味わったりすることは、児童にとって大きな成長につながっている。

池田小4年生福祉体験では本校及び視覚障害に関心をもっていただく、よい機会となった。

今後もよりよい交流ができるように、双方の実態等を考慮し、交流内容等や関わり方などを検討し実施していきたい。

#### ②他県の視覚支援学校とのオンラインでの交流

今年度も継続して交流学习に取り組むことができ、実施に向けて担任同士の丁寧な事前の打ち合わせができた。昨年、学習進度の違いが課題だったので、今年度は学期末に交流を行ったことで、互いに単元を終えて「まとめ」を伝えることができた。また、「質問してもいいですか」など話始めて良いかの確認や、「そうなんですね」のように相槌を声に出して行うなど画面を通して意見交換を行う際のよりよい方法なども考えて交流ができるようになってきた。同学年の児童となかなか話すことのできない状況があるので、他県の友達とコミュニケーションをとることができたことは、貴重な経験である。

### (3) 中学部

新型コロナウイルス感染症対策が大幅に緩和されたため、学園祭や合唱祭への参加や参観という直接交流ができたため、生徒にとって有意義な交流となった。特に学園祭参観では、同年代の演技の仕方などを直接見たり聞いたりすることができ、自分たちの学園祭の発表での参考になった。来年度もまた合唱祭への参加、学園祭の参観を実施できるようにしたい。

### (4) 高等部

#### ①甲府城西高校との交流

体験交流会では、はじめの会は交流校、終わりの会は本校が担当するなど、両校が協力して実施することができ、実りある交流をすることができた。また、はじめの会ではアイスブレイクとしてゲームを取り入れるなど和気あいあいとした雰囲気の中、充実した時間を過ごすことができた。昨年度、今年度と2年連続で、本校が主催校となり、交流校に共生社会への理解を深める体験等を実施してきた。来年度は、本校生徒が交流校で体験など活動を行い、普通校の様子を知る機会となるように検討していきたい。

#### ②甲府西高校との交流

総合的な探究の時間の学習発表会は、各発表者が自分でテーマを決め、様々なアプローチで内容を掘り下げていくものであり、学習方法として非常に参考となった。来年度も参観できるように交流校と検討したい。

本校学園祭では、新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、コロナ禍以前に長年交流していた吹奏楽部に発表を依頼した。間近で迫力ある演奏を鑑賞することができ、会場の皆が楽しむことができた。演目も工夫していただき本校の幼児生が踊って楽しむ様子もみられた。来年度も本校学園祭での発表をお願いしたい。

#### ③作品展示

本校学園祭での作品交流は、校舎内の教室を使用し作品を展示した。タイトル等を点字表記し、鑑賞時には教師が説明を加えた。同年代の生徒の作品を見る良い機会となった。

#### ④オンラインでの交流

本校生徒はインターンシップや校外学習について課題などを発表したもので、その課題が来年度に改善できるように指導を継続していく。改善の過程や成果を他県の盲学校と共有することができるようになりたい。

## Ⅳ 地域における交流活動（地域交流）

### 1 目 的

- (1) 幼児児童生徒の生活経験を広げ、社会性・協調性を育てる。
- (2) 相互の理解を深め、社会で共に生きていくという意識を高める。
- (3) 視覚障害教育に対する理解と啓発を促す。

### 2 交流先

| 学 部            | 地域交流先                                                       |
|----------------|-------------------------------------------------------------|
| 幼稚部            | 池田地区文化協会                                                    |
| 小学部・中学部<br>高等部 | 情報文化センター・青い鳥成人寮、池田地区ボランティア推進会<br>池田地区シニアクラブ、池田地区文化協会、池田地区住民 |
| 寄宿舎            | 池田地区シニアクラブ                                                  |

### 3 実施状況

| 学部                           | 月 日                    | 地域交流先                  | 実施学年         | 指導区分                  | 内容                                                          |
|------------------------------|------------------------|------------------------|--------------|-----------------------|-------------------------------------------------------------|
| 小                            | 7 月 3 日                | 地域住民                   | 小学部<br>児童    | 特活                    | 地域の方々と季節の行事（七夕）について学習した                                     |
| 中                            | 6 月 5 日<br>通年          | 情報文化<br>センター           | 1 学年         | 自立                    | 点字図書館の見学                                                    |
| 中<br>高普<br>通科                | 1 1 月 6 日              | 地域住民                   | 中・高普<br>通科生徒 | 自立                    | 地域の方々と共に、学校周辺の<br>点字ブロック点検を行った                              |
| 理療<br>関係<br>学科               | 通年                     | 地域住民                   | 全学年          | 臨床実習                  | 理療治療を実施した                                                   |
|                              | 6 月 7 日                | 地域住民                   | 全学年          | 臨床実習                  | 「検校祭」における治療奉仕を<br>実施した                                      |
|                              | 1 0 月 2 8 日            | 県庁職員                   | 全学年          | 臨床実習                  | 県庁職員に治療奉仕を実施し<br>た                                          |
|                              | 3 月 2 日                | 地域住民                   | 全学年          | 臨床実習                  | 「健康まつり」での治療奉仕                                               |
| 小<br>・<br>中<br>・<br>高普<br>通科 | 1 0 月 1 9 日<br>～ 2 0 日 | 池田地区文<br>化協会及び<br>地域住民 | 全学年          | 体験あそび<br>図工・美術<br>家庭等 | 「池田地区文化祭」での幼児児<br>童生徒の作品展示                                  |
|                              | 1 月下旬～<br>2 月下旬        | 地域住民                   | 全学年          | 体験あそび<br>図工・美術<br>家庭等 | 山梨中央銀行下飯田支店にて<br>幼児児童生徒の作品展示                                |
|                              | 3 月 2 日                | 池田地区文<br>化協会及び<br>地域住民 | 全学年          | 体験あそび<br>図工・美術<br>家庭等 | 池田地区「健康まつり」にて幼<br>児児童生徒の作品展示                                |
| 寄宿                           | 6 月<br>1 2 月           | 池田地区<br>シニアクラブ         | 舎生           | 余暇活動                  | 6 月と 1 2 月に花植えを実施<br>した。交流たよりを発行し、回<br>覧板を通して活動の様子を伝<br>えた。 |

### 4 地域交流の様子

#### (1) 小学部

地域の方々と季節の行事である「七夕」についての学習をし、七夕飾りを作った。多くの方に参加していただき、七夕飾りを作りながら会話し交流することができた。「子どもたちから元気をもらった」などの感想もいただいた。



## (2) 中学部本科普通科

地域の方々と共に、学校周辺の点字ブロックの点検を行った。2つのグループを作り、自己紹介をしたあと、それぞれのルート上の点字ブロックの点検を行った。点検をしながら、趣味や仕事などについて話すことができた。本校の地域活動に長年参加してくださっている方もいらっしゃり、地域の協力や理解があって、本校が教育活動を行えることが理解できた。点検作業では、破損個所の記録をとった。

今年度も7月、9月、11月、1月、3月のボランティア推進会による点字ブロック清掃には本校からも校長や教頭、渉外交流共学係が参加し、早朝より地域の方々と一緒に盲学校周辺を歩きながら、ゴミ拾いや点字ブロックの点検を行った。地域の方より庭で育てた鉢花をいただいた日もあり、地域の方々との繋がりを感じることができた。



「点字ブロック点検」



「破損箇所」

## (3) 高等部理療関係学科

感染症対策をしっかり行い、通年を通して臨床実習を実施することができた。生徒たちにとっては、日頃学習をしている内容を地域の方々に実践できる貴重な機会であり、実践内容からカンファレンス、まとめ、研究成果の発表へと繋げている。また、今年度の検校祭では例年実施していた治療奉仕以外に、地域の方々をお招きして盲学校で行っている理療教育について知っていただくためのイベントを行った。このイベントでは、「杉山和一検校の遺徳を偲び、古から現代へとつなぐ盲学校での職業教育」というテーマのもと、生徒たち自身がそれに見合う教材を選んで展示し、杉山和一検校から受け継ぐ「管鍼法」での授業内容についての発表を行った。地域の方々からは、「検校の意味がわかった。」「初めて見る鍼道具に感心しました。」「体の痛みがなくなり楽になった。」などの感想をいただき、大盛況のもと終えることができた。さらに、3月の健康まつりにも参加させていただく予定であるので、治療奉仕という形での交流を深めたい。



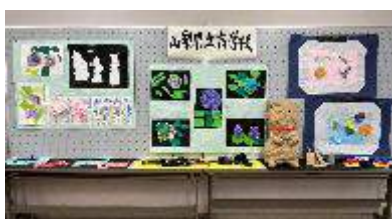
理療治療は、盲学校を身近に感じてもらえるよい機会であり、地域とのつながりを広げ、深めていくことができる大切な取り組みになっている。今後も理療を通じた地域との交流活動を通し、地域に開かれた学校を目指していきたい。

理療治療は、盲学校を身近に感じてもらえるよい機会であり、地域とのつながりを広げ、深めていくことができる大切な取り組みになっている。今後も理療を通じた地域との交流活動を通し、地域に開かれた学校を目指していきたい。

## (4) 作品交流

10月の池田地区文化祭と、3月の健康まつりでは、幼児児童生徒の作品を展示し、多くの方々に見てもらう機会となった。また、地域の銀行のロビーにも、毎年作品を展示している。見学者からいただいた感想は、幼児児童生徒へのよい励みとなっている。

本校の学園祭ではライトハウス青い鳥成人寮のみなさんの陶芸作品を展示させていただいている。



「池田地区文化展」



「山梨中央銀行  
下飯田店」



「青い鳥成人寮の作品」

#### (5) 寄宿舍

6月は松葉ボタン、12月はビオラの花植えを行い、交流することができた。シニアクラブの方から花の特徴や植え方の手順を教えていただき、作業中は談笑する場面も見られ、笑顔いっぱいの交流会となった。

花植えの活動報告と舎生の感謝の気持ちを「寄宿舍だより」に載せ、自治会の各所へ配布し、盲学校寄宿舍の様子や舎生とシニアクラブの方々がふれ合う様子を周知することができた。



「6月花植え」



「12月花植え」



### 5 成果と課題

#### (1) 小学部（季節の行事「七夕」）

今年度、初めて季節の行事の学習で交流を行った。7月初めの暑い時期だったが、エアコンのある室内での活動だったので、子どもたちにとっても地域の方々にとってもよかった。来年度は中学部本科普通科と合同で、2学期末に季節の行事の学習を考えている。

#### (2) 中学部本科普通科（点字ブロック点検）

歩きながら点検をしたため、落ち着いて話すことができなかった。また、雨天の場合は中止になる可能性があることから、小学部と合同で2学期末に季節の行事の学習を行うことを考えている。

#### (3) 高等部理療関係学科

検校祭、池田地区健康まつり、日頃の臨床実習等を通して池田地区の方々との交流を図ることができた。生徒のコミュニケーション能力の向上や、地域と盲学校がつながるよい機会となっている。このような交流の場は、生徒にとっては、自分自身のこと表現することで障害の受容につながり、職業自立を目指す上で人間関係の構築の重要性について気付くことができる機会となっている。日々の様々な学習の中から、常に地域に目を向け、心を寄せる姿勢や地域で暮らしていく姿勢を学ぶことができたのではないかとと思われる。

今後の課題として、生徒数の減少傾向により、治療奉仕に対するニーズに応えきれないことがあるが、これについては職員の参加等で補っていききたい。他の人との関わりをもつことが苦手な生徒に対しては、職員自身が生徒と地域の方との間に入り、少しでも関心をもてるようにはたらきかける役割を担っていくことが大事ではないかと考える。今後も、地域社会に貢献しながら、地域の方との大切な交流の場として、治療奉仕の継続につとめたい。

#### (4) 作品交流

地域の方に感想をいただくことが幼児生の励みとなっている。また、盲学校の幼児生の学習成果を地域の方に知っていただく機会にもなっている。

青い鳥成人寮の方の陶芸作品を本校学園祭に展示させていただき見て触って鑑賞することができありがたい。今後も続けていきたい。

#### (5) 寄宿舍

花植えを通して、シニアクラブの方々から花に関することを教えていただいたり、舎生から積極的に質問をしたりするなど、とても有意義な交流となった。舎生からは「花の特徴を知ることができて勉強になった」「植え方を教えてもらったから上手にできた」「慣れてきてたくさん植えることができた」「理科の学習にも活かしていきたい」という感想が聞かれ、この活動の大切さを改めて実感する機会となった。

来年度も同様の内容を計画し、舎生にとって地域の方々との繋がりを感じ、地域社会の一員であることの自覚を深め、地域の方々とかかわる上でのコミュニケーション力を高める機会としていきたい。

(6) その他 地域の方々とのつながりや回覧板を活用したお便り配布等

地域役員の方より、池田地区ふる里まつりへのお誘いを受けた。夏季休業中であったが、本校からは校長、教頭、交流係、保護者と子供たちが参加した。

地域の回覧板により学校からの文書も回していただき、地域の方々へ伝えることができた。来年度以降も、学校での取組の様子について回覧板を通して地域の方に知っていただきたい。

また、ホームページ上でのブログへの掲載等の発信により、広く知っていただける機会を大切にしたい。

芸術鑑賞教室に青い鳥成人寮の本校卒業生である皆さんも参加した。浅川那由多さんのヴァイオリン演奏に感激する様子が見られた。

## V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

### 1 目的

- (1) 居住する地域の児童生徒と共に学び、好ましい人間関係を築く。
- (2) 交流及び共同学習を通して地域の児童生徒やその保護者、教職員の本校児童生徒への理解が深まるようにする。
- (3) 生涯を通じて、地域と結びついていく基盤を作る。

### 2 実施状況

| 学部・学年   | 交流及び共同学習先校名       | 回数 | 実施（活動）内容                        |
|---------|-------------------|----|---------------------------------|
| 小学部 4 年 | 甲府市立伊勢小学校         | 3  | 音楽：合唱、リズムで自己紹介<br>書写：書初めの練習「花火」 |
|         | 富士吉田市立<br>下吉田東小学校 | 1  | 音楽：自己紹介、リコーダー                   |

### 3 成果と課題

今年度は4年生2名が居住地校交流を行った。1名は1、2年時にも行っており、1年ぶりの交流となった。交流先の児童とは久しぶりの活動であったが、交流先の児童から積極的に話しかけられ、和やかな雰囲気では話せる姿が見られた。もう1名は今年度から居住地校交流を行った。初めての交流に向けて点字の50音表をお土産に用意するなど、はりきっていた。

授業は単発で参加できる内容を用意していただき、ありがたかった。本校の児童生徒が使用する教科書は点字や拡大に対応した教科書会社を採択しており、居住地校とは異なる教科書を使用している教科もあった。担任間で打ち合わせをする際に教科書会社の確認をする必要がある。

居住地校交流については、地域とのつながりも大事にしたいという保護者の思いもあり学校間で連携しつつ保護者主体で行っている。続けていくことで、地域での共生の基盤を築いていってほしい。

## I 学校概要

## 1 学校の概要

|             |                     |
|-------------|---------------------|
| 学 校 名       | 山梨県立ろう学校            |
| 所 在 地       | 〒405-0016 山梨市大野1009 |
| 電話番号        | 0553-22-1378        |
| 校 長 名       | 中村 知佳               |
| 交流及び共同学習主任名 | 渡邊 絵里那              |

## 2 学校教育目標

- ◎幼児児童生徒のたくましく生きる力と豊かな言語力を育む  
 一人一人の特性に応じた適切な指導及び必要な支援の充実を図る  
 自身の力を発揮し、自分が自分らしく生きる力を育成する  
 物事に対し、周囲の人とともに取り組む力を育成する

## II 交流及び共同学習推進会議の経過

## 1 交流及び共同学習推進会議構成員

| No. | 所 属・職 名               | 備 考 |
|-----|-----------------------|-----|
| 1   | 山梨市大野区・区長             | 会長  |
| 2   | 山梨市社会福祉協議会・会長         | 副会長 |
| 3   | 峡東教育事務所・主幹・指導主事       |     |
| 4   | 山梨市教育委員会学校教育課・課長      |     |
| 5   | 社会福祉法人加納岩福社会加納岩保育園・園長 |     |
| 6   | 山梨市立山梨小学校・校長          |     |
| 7   | 笛吹市立春日居中学校・校長         |     |
| 8   | 山梨県立山梨高等学校・校長         |     |
| 9   | 山梨県立ろう学校・校長           |     |

## 2 経過

| 開催時期  | 内 容             |
|-------|-----------------|
| 5月28日 | 第1回交流及び共同学習推進会議 |
| 1月22日 | 第2回交流及び共同学習推進会議 |

### Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

#### 1 目 的

##### （１）幼稚部

同年齢の集団との様々な活動を通して、幼児の生活に広がりをもたせ、豊かな心を育てる。

##### （２）小学部

大きな集団の中での活動を重ねることで、生活経験の拡充を図り、社会性・協調性を養う。  
また、豊かな言語環境の中でコミュニケーション能力を高める。

##### （３）中学部

同年代の大きな集団との活動を通して、学習経験・生活経験を豊かにし、社会性・協調性を伸ばす。また、自己について考え、社会的自立を図ろうとする態度を育てる。

##### （４）高等部

同年代の生徒との活動を通して、生活経験を豊かにし、好ましい人間関係を築く力を育てる。また、自己理解や障害認識を深め、社会参加に必要となる思考力や判断力、表現力を養う。

#### 2 提携校

| 学 部 | 交流及び共同学習提携校        |
|-----|--------------------|
| 幼稚部 | 社会福祉法人加納岩福祉会加納岩保育園 |
| 小学部 | 山梨市立山梨小学校          |
| 中学部 | 笛吹市立春日居中学校         |
| 高等部 | 山梨県立山梨高等学校         |

#### 3 実施状況

| 学部 | 時期     | 提携校                        | 実施学年 | 指導区分       | 内容              |
|----|--------|----------------------------|------|------------|-----------------|
| 幼  | 5月21日  | 社会福祉法人<br>加納岩福祉会<br>加納岩保育園 | 全クラス | 人間関係<br>環境 | 自由遊び、設定遊び他      |
|    | 6月12日  |                            |      |            | 自由遊び、設定遊び他      |
|    | 10月23日 |                            |      |            | 雨天により中止         |
|    | 11月12日 |                            |      |            | みんなで遊ぼう（運動遊び）   |
|    | 12月10日 |                            |      |            | 自由遊び、設定遊び他      |
|    | 1月28日  |                            |      |            | 自由遊び、設定遊び他      |
|    | 2月 4日  |                            |      |            | 自由遊び、設定遊び他      |
| 小  | 前期     | 山梨市立<br>山梨小学校              | 全学年  | 特別活動       | メッセージカードの交換     |
|    | 5月14日  |                            | 2 学年 | 特別活動       | 「聴こえの学習会」（教員のみ） |
|    |        |                            |      | 生活         | さつまいもの苗植え       |

|   |              |                    |     |       |                         |
|---|--------------|--------------------|-----|-------|-------------------------|
| 小 | 5月16日        | 山梨市立<br>山梨小学校      | 3学年 | 総合・生活 | 農家体験（ぶどう）               |
|   | 6月5日         |                    | 1学年 | 生活    | 「春を探そう」（万力公園）           |
|   | 6月25日        |                    | 6学年 | 社会    | 租税教室                    |
|   | 7月9日         |                    | 4学年 | 音楽    | 学習発表、リコーダーの合奏           |
|   | 9月12日        |                    | 3学年 | 総合・生活 | 農家体験（ぶどう）               |
|   | 9月12日        |                    | 4学年 | 特別活動  | 遠足（富士山レーダードーム館、湧水の里水族館） |
|   | 10月          |                    | 全学年 | 体育    | 持久走大会試走                 |
|   | 10月31日       |                    | 全学年 | 体育    | 持久走大会                   |
|   | 11月28日       |                    | 5学年 | 社会    | オンライン自動車工場見学            |
|   | 11月11日       |                    | 2学年 | 生活    | さつまいも堀り                 |
|   | 11月19日       |                    | 全学年 | 特別活動  | 交流ふれあい祭り                |
|   | 1月           |                    | 1学年 | 図工    | 造形活動                    |
| 中 | 5月           | 笛吹市立<br>春日居<br>中学校 | 全学年 | 自立活動  | 自己紹介カードの交換              |
|   | 6月12日        |                    | 全学年 | 特別活動  | 福祉交流委員会との交流・部活動交流       |
|   | 9月20日        |                    | 全学年 | 特別活動  | 春日居中学校学園祭への参加           |
|   | 10月 5日       |                    | 全学年 | 特別活動  | ろう学校学園祭に招待・美術作品交流       |
|   | 10月 1月       |                    | 全学年 | 国語    | 美術・席書き大会の作品交流・鑑賞        |
| 高 | 5月31日        | 山梨県立<br>山梨高等学校     | 全学年 | 放課後   | 顔合わせ会                   |
|   | 6月26日<br>27日 |                    | 全学年 | 自立活動  | 山梨高校学園祭「梨窓祭」            |
|   | 11月 1日       |                    | 全学年 | 体育    | 山梨高校「梨窓 WALK」（強歩大会）     |

## 4 学校間交流の様子

### （1）幼稚部

- ・今年度は、猛暑により6月の活動を室内遊びに変更して実施した。10月の交流が雨天により中止となったため、11月の交流日に同様の内容で実施した。
- ・5月及び12月の交流では、加納岩保育園の園庭にて、保育園の縦割りグループで、自由遊びや設定遊び（5月しっぽとり・12月けいどろ）を行った。リズム体操は、本校の幼児もあそびの準備運動などに取り入れて練習したことで、大勢の中でも楽しく体を動かす様子が見られた。今年度は、手話歌（5～11月「ぼくのミックスジュース」12～2月「ホッホッホ」）に取り組んだ。加納岩保育園でも事前に練習してくださり、一緒に元気よく楽しく歌ったり、手話表現をしたりすることができた。

- ・ 6月の交流は、加納岩保育園の遊戯室にて室内遊びを行った。室内遊びでは、音楽遊び（「あのはしがおちるまえに」）やゲーム（「椅子取りゲーム」）、風船運びリレーを行った。5月の園庭での自由遊びで、ろう学校の子と加納岩保育園の子と一緒に遊ぶ様子が見られなかったが、6月の室内遊びでは積極的に関わって活動する様子が多く見られた。
- ・ 11月の交流では、ろう学校の体育館でゲーム大会（リレー、玉入れ、綱引き、風船運びリレー）を行った。大勢で活動を行うことができ、迫力のある雰囲気の中で競技を楽しむことができた。

#### ・ 各クラスの様子

##### もも組

初めての交流だったが、積極的に加納岩保育園の子と関わる様子が見られた。一人学級なので同学年の友達と関わるのが良い刺激になった。

##### たんぽぽ組

加納岩保育園に行くことを毎回楽しみにしていた。昨年度よりも見通しをもって交流に参加することができ、ゲームやリズム体操を元気に行うことができた。

##### すみれ組

これまでの交流の積み重ねにより、活動に見通しを持ち、落ち着いて参加することができた。緊張したりいつもと違う雰囲気を感じたりしながらも、みんなの前で自己紹介をしたり、色々な遊びに参加したりすることができた。



加納岩保育園園庭での「リズム体操」



室内での「風船運びリレー」

#### (2) 小学部

- ・ 1年生は、生活科の授業で万力公園に行き、春探しや遊具遊び、動物の観察をした。初めての交流のため、緊張や不安を感じる様子が見られたが、山梨小学校の児童にたくさん声をかけられ、安心しながら活動する様子が見られた。交流後、次の交流を楽しみにしたり山梨小学校の児童を意識しながら学習に励んだりする様子が見られた。
- ・ 2年生は、難聴を理解するための授業やさつまいもの苗植え・収穫を行った。難聴を理解するための授業は、交流前にろう学校の教員が山梨小学校の児童に向けて難聴児の聞

こえやコミュニケーションについて伝えた。口形が同じ言葉のクイズや簡単な手話などに興味をもつ姿が見られた。さつまいもの苗植えでは、水やり用のペットボトルを借りて一緒に水やりをしたり虫をみんなで見合ったりする等の関わりが見られた。収穫のときは大きなさつまいもを協力して掘ったり、さつまいもを見せ合って、収穫を喜んだりする様子が見られた。時々顔を出す虫を教え合う姿も見られた。

- ・3年生は農業体験を行った。5月は、ぶどう農家の方から山梨県のぶどうに関する講義を聞いたり農機具やぶどうの手入れについての説明を聞いたりした。また、ぶどうのつるを誘引する農作業を体験し、スケッチ等も行った。9月は5月に訪れたぶどう畑で、4種類のぶどうの食べ比べを行った。また、ぶどう畑の様子をスケッチしたり農家の方へ質問をしたりした。積極的に発言し、山梨小学校の児童と関わりながら活動する姿が見られた。食べ比べの場面では、山梨小学校の児童と「どれがおいしい？」等と話をする姿が見られた。
- ・4年生は、音楽の授業と遠足を一緒に行った。音楽の授業では、アイスブレイクの意味を兼ねて2つレクリエーションを行った。緊張がほぐれ、関わり合う様子が見られた。また、お互いに音楽でどのような学習をしているのか発表し合った。和やかな雰囲気でもリコーダーの合奏を行うことができた。遠足では現地で山梨小学校の班に入り、見学や昼食等一緒に活動できた。児童同士で話をしたり、遊んだりする様子が見られた。
- ・5年生は、オンライン自動車工場見学を行った。映像を見ながらワークシートの問題を埋めていった。クイズ形式の問題が多かったため分かりやすく、一緒に学習に取り組むことができた。最後にトヨタの方に「車を作ってくれてありがとう。」と感想を伝える姿が見られた。
- ・6年生は、税務署職員の講師による租税教室に参加した。税にかかわるクイズやグループワークでは、山梨小学校の友達の答えや意見に関心をもちながら聞いていた。
- ・持久走大会では体操やスタート時、ゴールした後等、周囲の友達の動きを見たり分からないことを聞いたりして、集団の中での動き方を意識する様子が見られた。また、今年度は全学年が走り終わるのを待って、全員で学校に戻った。待っているときに応援したり山梨小学校の児童と話をしたりする様子が見られた。
- ・交流ふれあいまつりでは、自分たちの店をたくさんの人が楽しんでいる様子を見て、やりがいを感じている様子が見られた。一人一人が責任をもって係の仕事をすることができた。山梨小学校の児童を見て、廊下での呼び込みや客への声かけを真似する等、山梨小学校の児童を意識して、行動する姿が見られた。また、交流している学年の友達に声をかけられ、嬉しそうに店番や店回りをする児童の姿が見られた。



6 学年交流 「租税教室」



「交流ふれあいまつり」

### (3) 中学部

- ・交流実施前に、両校生徒で自己紹介カードの交換を行った。事前にお互いの情報を共有する中で交流会を楽しみにする様子が見られた。6月の交流会では春日居中学校において福祉交流委員会との交流を行った。グループごとに分かれての自己紹介ゲームを通して、手話や筆談をしながらお互いに知り合うことができた。その後、卓球部と美術部に分かれて部活動交流を行い、一緒に練習をしたり制作をしたりするなどして交流を深めた。
- ・9月には春日居中学校学園祭に参加し、ろう学校の生徒たちが自分たちのきこえについての話や手話の紹介の発表を行った。また、春日居中学校のさまざまなテーマの演劇や合唱の発表を鑑賞した。発表では、きこえに関する話やクイズ、ろう学校の授業についての話や手話パフォーマンスなど、ろう学校や手話について知ってもらうよい機会となった。
- ・10月にはろう学校の学園祭に福祉交流委員会の生徒を招いた。学芸発表においては劇やダンスの発表を行った。劇では、コミュニケーションの難しさをテーマに、交流を通して生徒が感じたことや考えたことをまとめながら台本づくりを行い、悩みながら成長していく等身大の役を演じた。劇の終わりの場面では、春日居中学校の生徒に向けて一人ずつ自分の思いを伝えることができ、よい学習発表の場となった。
- ・対面の交流とともに両校の席書き大会の作品や美術作品の展示も計画し、同年代の生徒の作品を互いに見合い、よい刺激を受ける機会となった。



福祉交流委員会との交流



部活動交流



春日居中学校学園祭参加

### (4) 高等部

- ・今年度の交流を始めるにあたり、山梨高校を訪問し、山梨高校生徒会役員と顔合わせを行った。お互いに自己紹介をした後、梨窓祭（山梨高校学園祭）で紹介する本校紹介ビデオを撮影したり、レクリレーションで親睦を深めたりすることができた。実際に会うことで親近感がわき、笑いが絶えない楽しい時間を過ごすことができた。会終了後、校内を案内していただき、各部活動の様子を見学させてもらった。
- ・梨窓祭にむけての取り組みでは、学校紹介のビデオの内容を考えたり、旗を作ったりした。高等部としての仲間意識を培い、一体感を高めることができた。
- ・本校第Ⅰ期現場実習日程と重なったため梨窓祭に参加することはできなかった。しかし、梨窓祭で山梨高校の生徒による学校旗の紹介があったことを生徒に紹介したことで、山梨高校の生徒とともに疑似的に参加している意識を持つことができた。また、

事後学習で梨窓祭の様子を紹介した時には、本校の運動会や学園祭を実施する上で大いに参考になった様子であった。

- ・ 梨窓 WALK（山梨高校の強歩大会）では、参加生徒全員が 20 k m 完走することができ、それぞれの生徒が今もっている力を最大限に発揮し達成感を味わうことができた。また、走行中に山梨高校の生徒や先生方から声と一緒に手話で話しかけていただいたことも、生徒たちの心に残っている。



顔合わせ会



梨窓祭



梨窓 WALK

## 5 成果と課題

### （1）幼稚部

#### ①成果

- ・ 同年齢と接する機会がもてたこと、大きな集団活動を体験できたことは、よい刺激となった。
- ・ 大きな集団が苦手な幼児も、活動を重ね少しずつ参加することができるようになった。保育園児に誘われて遊ぶことができたことは本校幼児にとって大きな成長であった。
- ・ 加納岩保育園の先生方に本校の幼児と保育園児をつなげるような声かけをしていただいたり、遊びに誘っていただいたりして楽しく活動ができてよかった。今後もお願いしたい。

#### ②課題

- ・ 「けいどろ」など、遊びの内容によってはルールを理解等が難しかったようだった。今後、活動内容（設定遊びや室内遊び等）を実態に合わせて検討していく必要がある。
- ・ 自由遊びでは、広い園庭のいろいろな遊具で遊べる機会となり幼児は楽しんだが、保育園児と同じ遊びで交流する場面は少なかった。自由遊びの時間や遊び方の工夫をしていきたい。

### （2）小学部

#### ①成果

- ・ 低学年ではろう学校の教員が山梨小学校の児童を対象に難聴を理解するための話や授業を行うことで、聞こえ方やコミュニケーションの仕方を意識して関わる児童の姿が見られた。

- ・ 毎回、挨拶等を手話で行っているため、手話に興味をもつ児童や手話を覚えて使おうとする児童が増え、互いに手話や口話等を使って上手にコミュニケーションをとろうとする児童の姿が見られた。
- ・ 同年齢の友達の考えを知り、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。
- ・ 集団の中に入り、同じ年の友達と関わる中で、良い刺激を受けることができた。
- ・ 高学年になると、交流の積み重ねがあり、児童同士の関わりが増えてきている。

## ②課題

- ・ 子供同士ではコミュニケーションがうまくとれない場面があった。教員が間に入ったりもう一度言い直すようお願いしたりすることで、子供同士でコミュニケーションを成立できるようにしていく。
- ・ 子供同士の関わりが少ない活動があったので、今後は子供同士のやり取りの場面を多く作っていききたい。
- ・ 本校には体調等配慮する児童が多いが、持久走大会では同級生から刺激をもらいながら、全員が目標を達成できた。丁寧に打合せし、これからも交流として行っていきたい。

## (3) 中学部

### ①成果

- ・ ろう学校の生徒にとっては、自分のきこえや伝え方について考えたり、ろう学校について伝えたりできる貴重な機会となった。春日居中学校の生徒にとっても、手話やろう学校について学ぶことで、聴覚障害についての理解が深まった。春日居中学校の学園祭のオープニングの映像には字幕がつけられており、ろう学校の生徒にも分かりやすく、学園祭をいっしょに楽しむことができた。また、学園祭の後には、春日居中学校の生徒から「手話を楽しく覚えられてよかった」というメッセージをたくさん受け生徒たちの自信に繋がった。交流を重ねることで、お互いを思いやる心を育み、ろう文化や手話について理解を深めることができた。

### ②課題

- ・ 交流の成果を高めるために、ねらいを明確にし、双方で共有したうえで計画的に進めることが重要である。今年度は、生徒たちが主体的に話し合い、「自分のきこえ」について知り、「伝え方」について考えながら交流することをねらいとした。活動後の振り返りや相手の立場を理解する時間を設けることで、コミュニケーションにおける工夫や伝えることを意識できるようになる。伝わることの感動や楽しさを感じるとともにお互いに認め合いができる交流を今後も続けていきたい。

## (4) 高等部

### ①成果

- ・ 今年度は2年生、3年生のみの在籍だったため、これまでの交流の経験をいかして交流に対して見通しや期待感をもち実施することができた。実際の交流会のときにも生徒

自らが積極的に山梨高校生徒に関わりをもつ場面も見られ、楽しく交流ができた。

- ・ 梨窓 WALK では、山梨高校の生徒が積極的に声をかけてくれたことで、互いに手話等でやりとりしながらがんばろうとする様子が見られた。そのおかげもあり、今年度は、全員が完走することができ、大変大きな充実感を得ることができる交流となった。
- ・ 事前学習や事後学習を通して、期待感を高めたり感じたことや考えたことを文章に残したりすることで、交流の目的に迫ることができた。

## ②課題

- ・ 知的代替教育課程の生徒が増加している。校内での事前学習や事後学習を丁寧に行い、ねらいを明確にした上で交流することが大切である。
- ・ 今年度から梨窓祭の日程が変更となり、本校の学校行事期間中と重なり生徒たちが実際に学園祭に参加することはできなかったが、事前に紹介ビデオ撮影や旗づくりを行うことで間接的な交流を図った。学園祭当日は本校教員が参加させていただき、ビデオ撮影をしたものを後日見ることによって梨窓祭の様子を知ることができた。来年度以降も日程が重なった場合には同様にお願いしたい。
- ・ 両校の担当教員の事前の打ち合わせを丁寧に行いスムーズな運営をしていきたい。

## Ⅳ 地域における交流活動（地域交流）

### 1 目 的

#### （１）幼稚園部

地域の人たちとの活動を通して、豊かな心を育てる。

#### （２）小学部

地域の人たちと交流活動を重ねることで、生活経験の拡充を図り、社会性・協調性を養う。  
また、地域や社会に目を向ける意識や態度を育てる。

#### （３）中学部

地域の人たちとの交流活動を通して、学習経験・生活経験を豊かにし、社会性・協調性を伸ばす。また、自己について考え、社会的自立を図ろうとする態度を育てる。

#### （４）中高等部

地域の方たちとの交流活動を通して地域に目を向け、社会経験を豊かにし、社会で共生していこうとする意欲を養う。

#### （５）寄宿舎

地域の人たちと交流活動を行うことで、コミュニケーション方法を身につけ、人間関係に広がりを持たせたり社会性を養ったりする。

## 2 交流先

| 学 部  | 地域交流先                     |
|------|---------------------------|
| 幼稚部  | 山梨陶磁会                     |
| 小学部  | 山梨市立養護老人ホーム「晴風園」          |
| 中学部  | JA フルーツ山梨 加納岩支所           |
| 中高等部 | 大野区                       |
| 寄宿舎  | 大野区ゲートボール愛好会、手話サークル「ふえふき」 |

## 3 実施状況

| 学部 | 時期     | 地域交流先                | 実施学年 | 指導区分       | 内容                       |
|----|--------|----------------------|------|------------|--------------------------|
| 幼  | 5月30日  | 山梨陶磁会                | 全クラス | 人間関係<br>環境 | 親子陶芸教室（成形）               |
|    | 7月18日  |                      |      |            | 親子陶芸教室（釉薬がけ）             |
| 小  | 6月19日  | 山梨市立養護老人<br>ホーム「晴風園」 | 全学年  | 自立活動       | メッセージカード                 |
|    | 9月13日  |                      | 全学年  | 自立活動       | 敬老の日のお祝い                 |
| 中  | 5月15日  | JA フルーツ山梨<br>加納岩支所   | 1学年  | 総合         | 桃の摘果・袋かけ体験               |
|    | 7月 3日  |                      | 1学年  | 総合         | 共選所の出荷見学・体験              |
| 中高 | 12月 9日 | 大野区                  | 全学年  | 特別活動       | 清掃活動                     |
| 寄宿 | 5月21日  | 大野区ゲート<br>ボール愛好会     | 宿泊舎生 |            | 自己紹介<br>ゲートボール体験         |
|    | 9月19日  | 手話サークル<br>「ふえふき」     | 宿泊舎生 |            | レクリエーション等<br>(企画：手話サークル) |
|    | 1月23日  | 手話サークル<br>「ふえふき」     | 宿泊舎生 |            | レクリエーション等<br>(企画：ろう学校)   |

## 4 地域交流の様子

### (1) 幼稚部

- ・陶芸教室が初めての保護者に、作品作りを積極的に行えるように、過去の陶芸教室の様子や作品写真を見せて当日に臨めるようにした。
- ・事前に、親子で作るものやイメージ、釉薬の色等を話し合ってくるように保護者に伝えた。当日は、講師にイメージを伝え、アドバイスを受けながら作る様子が見られた。
- ・講師に粘土を切って積み上げていく様子を実際にやって見せてもらった。また、途中で子供達の作った作品をどのように活かしていくか等アドバイスを受けながら活動した。
- ・子供達は粘土の感触を十分楽しみ、保護者も子供達の作った形を生かしながら成形に取り組んでいた。親子で熱中して取り組んでいる様子が見られた。
- ・釉薬塗りでは、焼くとどのような色になるのか見本を見てから、塗りたい色を選び塗った。重ねて塗ってもよい、塗っていないところもあってもよいことを講師から聞き、親子で楽しんで塗る様子が見られた。

- ・ 幼児や保護者にとって、作品が焼き上がったときのイメージを持つことは難しいが、経験豊富な講師から「焼くと割れてしまうからもう少し厚くした方が良い」「釉薬の色が薄いから色をはっきりさせるならもっと重ねて塗った方が良い」といった細かく適切なアドバイスを頂いたことで、焼いた際に割れてしまったり色が出なかったりといった失敗はほとんどなかった。



アドバイスを頂きながら色々なものを作った



さまざまな色の釉薬を塗って楽しんだ

## (2) 小学部

- ・ 6月は、5、6年生が代表して小学部全員のメッセージカードを届け、挨拶に伺った。晴風園の方々は、玄関前で出迎えてくれた。一緒に写真を撮り、手紙と手書きの塗り絵をお土産に頂いた。晴風園の方々から喜びやお礼の言葉をいただき、児童はうれしそうな様子だった。
- ・ 小学部全員で敬老の日のお祝いカードを渡し、歌を披露した。また、一緒にレクリエーションを行い、楽しく交流することができた。お年寄りに優しく接したり、自分たちと関わることで喜んでいただけたりする経験ができた。



6月の訪問



9月の訪問



## (3) 中学部

- ・ JA フルーツ山梨加納岩支所の御協力をいただき、桃の摘果や袋かけ体験、他にも共選所の出荷見学、桃の箱詰め体験などを行った。体験を通して、スタッフの皆様から作業の仕方を教えていただき、交流を深めることができた。また、生徒たちは桃の種類や出荷先、スタッフの皆様の農業への思いなどに興味関心を持ち、たくさん質問をするなどして、地域産業を知るよい機会となった。



桃の箱詰め準備・体験

#### (4) 中学部・高等部

- ・今年度初めての試みで、中学部、高等部の生徒たちと大野区の地域の方々と、学校前の河川敷のごみ拾いを行った。昨年度は生徒会の活動として学校周辺のごみ拾いを行った。河川敷のごみの多さから、地域の方たちにも知っていただきたいという生徒たちからの提案で、今年度は地域交流の目的も併せての行事となった。大野区の方々には、回覧を通して呼びかけを行い、当日11名もの地域の方々が集まって下さり、とても充実した交流となった。地域の方々と共に、同じ目標に向けて取り組むことで、地域の方々と一体感を得られ、同じ地域に在籍するろう学校の生徒について改めて知っていただく機会にもなった。



地域の方々とはじめの会



生徒と地域の方と協働作業



区長さんの軽トラに集めたごみを乗せる

#### (5) 寄宿舍

- ・大野区ゲートボール愛好会との交流会を行った。事前に職員がスティックとボールを寄宿舍に用意しておくのと舎生がそれぞれ練習する様子があり、交流会へのモチベーションアップにつながった。当日は、自己紹介や簡単手話講座をした後、ゲートボール体験を行った。簡単手話講座では、あいさつやゲートボールに関連する手話を紹介すると、実際に一緒に手話をやってみる様子があった。また、愛好会の方々に教えていただきながら、ボールをゲートに通す練習から始まり最後は試合形式での体験を行うことができ、意欲的に交流する姿が見られた。交流会終了後には、お互いに話しかけて自然に会話を楽しむ様子もあった。
- ・手話サークル「ふえふき」との交流会を行った。1回目は、手話サークル側が内容を企画し、交流ホールにて自己紹介、レクリエーション、茶話会を行った。レクリエーションでは都道府県ビンゴを行い、リーチからビンゴになるまでのドキドキ感を味わったり、隣席のサークルの方と会話をして笑顔が見られたりと楽しんでいる様子がうかがえた。茶話会では「私の大切なもの」というテーマのもと手話や口話を交えて話をした。手話サークルの方の話に大笑いしたり、その話に関連づけて自分の話をしたりするなど、和やかな雰囲気が進んだ。また、サークルの方々に高等部作業班が販売しているサンクコーヒーをふるまったり交流会終了後に販売を行ったりした。とても好評で「おいしい」という声を多くいただき、あっという間に完売した。2回目は、寄宿舍が内容を企画して、1月23日(木)に寄宿舍内にて実施予定である。寄宿舍の生活の様子を知っていただく機会として、舎生による寄宿舍案内やレクリエーション、茶話会を計画している。この回もサンクコーヒーのおもてなしや販売を行う予定である。



大野区ゲートボール愛好会の方々と



手話サークル「ふえふき」との交流会の様子



## 5 成果と課題

### (1) 幼稚部

#### ①成果

- ・山梨陶磁会の指導による「親子陶芸教室」は26年目となる。親子で関わりながら、幼稚部段階の子供の豊かな発想を大切に自由な作品作りが楽しめる場となっている。活動が難しい陶芸であるが、本校には施設設備があるので活用し、さらに専門家から教えていただく貴重な機会でもあるので今後も継続していきたい。
- ・初めて作品作りを行う保護者に、事前に陶芸教室の様子や作品写真、釉薬の種類の表を見せたことで、イメージ作りに役立ったと思われる。また、毎年行うことで、子供達も保護者も見通しがもて、学年が上がると自分の作りたい物を考えてから参加するようになっている。
- ・陶芸窯の使用マニュアルを見ながら、本校職員でスムーズに素焼き、焼成ができた。トラブル（割れ、脱落等）についても講師にアドバイスをいただき対応できた。
- ・イメージ、想像力が豊かな作品が多く、講師の先生からこの年齢でしか表現できない作品に、とても感動したと評価をいただいた。
- ・講師の先生より「陶芸作品は時間を形として残せるものである」という話があった。その時の子供達の様子を書き入れておくと、後でその作品を見た時、その年に戻ることができる。幼少期に作品を作り残しておく、ということを言い伝えていきたい。

#### ②課題

- ・釉薬の塗り方の工夫や作品をつくる際に割れないようにするための留意点等について講師から話を聞き、それを記録に残し、引き継いでいく。
- ・陶芸による交流が継続しスムーズに行われるようにするために、施設、設備等の維持管理、材料・道具等の補充をしていく。
- ・今年度は活動時間との兼ね合いで、一人ずつの作品発表は行わず、代表者の感想発表しか行えなかった。来年度以降は、終わりの会で一人ずつ自分の作品を発表する機会を設けることも取り入れていきたい。人前で表現するよい機会となっているので実施していけるとよい。

## (2) 小学部

### ①成果

- ・地域のお年寄りと交流することで、相手へ配慮することや関わりを喜んでいただく経験ができた。
- ・学校からの訪問を楽しみに待っている人がいることを実感することができた。
- ・一緒に歌を歌ったり風船バレーをしたりすることで親しみを感ずることができた。

### ②課題

- ・今後も日程や感染症予防等について、打ち合わせを丁寧に行っていく。  
9月は気温が高く、水筒持参で歩くときはマスクを取る等、熱中症対策を行った。今後も気温が高いことが予想されるため、熱中症予防に努める必要がある。

## (3) 中学部

### ①成果

- ・桃に関する作業を体験したり、共選所の見学をしたりすることで、山梨の産業を学ぶとともに桃への興味関心を持ち、たくさんの質問をすることができた。また、質問をすることで、新たな知識を身につけることができた。今回（7月3日）の活動の様子が、日本農業新聞（令和6年7月6日付）首都圏版に掲載され、活動を紹介することができた。

### ②課題

- ・今後もスタッフの皆様と連携を密にして、目的・内容をより深めていく。

## (4) 中学部・高等部

### ①成果

- ・地域交流という目的だけでなく、ボランティアの活動にもつながり、生徒たちにとって、活動を通して様々な視点で考える良い活動となり、社会に目を向けられる機会ともなった。地域の方々と同じ目標に向けて取り組むことで、活動終了後にごみ問題や不法投棄等、地域の課題も見え、同じ視点で課題に向き合うことができた。

### ②課題

- ・当日にならないと、地域の方がどのくらい来てくださるのか把握することが難しいが、予想より多くの大野区の方に来ていただいていたよかったです。

## (5) 寄宿舍

### ①成果

- ・大野区ゲートボール愛好会との交流会では、簡単手話講座を通して地域の方に手話を知ってもらえるきっかけとなった。前年度までは寄宿舍紹介、今年度は手話講座と、ろう学校の寄宿舍や聴覚障害について知ってもらうよい機会となっているので今後も継続していきたい。また、事前に練習をして交流会に参加したことや試合形式でゲートボール体験ができたことで、ゲートボールへの意欲を高めることができた。

- ・手話サークル「ふえふき」との交流会では、事前の話し合いから準備、交流会当日に至るまで舎生が主体的に参加しようとする意欲がうかがえた。様々な年代の方々との交流を通して、コミュニケーション方法やマナー、おもてなし等を身に付けるよい機会となった。また、サンクコーヒーのおもてなしや販売を通して、ろう学校の取り組みを知っていただくことができた。
- ・交流会を重ねることで、お互いに顔見知りになり会話も増え、地域の方々とのつながりが感じられる関係性になってきている。今後も、交流会を通してお互いに理解を深められる場となるように工夫していきたい。
- ・目上の方との接し方について、交流会前に振り返りを行い、具体的な場面を想定して考える機会を持ったことで適切なコミュニケーション方法やマナー等が身に付いてきている。

## ②課題

- ・交流会の内容や方法などは、舎生の実態に即して事前に確認しておく。
- ・人と接するときの適切なマナーや言葉づかい等について、今後も学ぶ機会を持ち経験を重ねていく。
- ・大野区ゲートボール愛好会との交流会を通して、さらに地域とのつながりを感じお互いに理解を深められる場としていくため、来年度より年度に2回の開催としていく。

## V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

### 1 目 的

居住地校との交流及び共同学習を通して、児童生徒の経験を深め、社会性を養い、居住地での好ましい人間関係を形成し、その能力と可能性を最大限に伸ばして社会生活への円滑な移行を図るための基礎を養う。

### 2 実施児童・生徒

| 学部・学年 | 交流及び共同学習先校名   | 回数 | 実施（活動）内容                                   |
|-------|---------------|----|--------------------------------------------|
| 小学部2年 | 甲斐市立双葉東小学校    | 10 | 朝の会、書写、国語、図書、算数など（半日～終日参加）                 |
| 小学部2年 | 南アルプス市立白根東小学校 | 4  | 国語、算数、図書など（2校時・中休みまで）                      |
| 小学部6年 | 南アルプス市立豊小学校   | 5  | 朝の会、国語、算数、理科、社会、体育など（終日参加）                 |
| 中学部2年 | 北杜市立長坂中学校     | 3  | 国語、数学、社会、理科、英語、美術、朝の会、帰りの会、給食、掃除、部活動、学力テスト |

### 3 成果と課題

#### <小学部>

##### ① 成果

- ・集団授業で他の児童の考え方や作品に触れることができ、よい刺激となった。給食や掃除などの活動では、他の児童にやり方を聞いたり、協力したりして進めており、大きな集団の中でのよい交流の機会となった。
- ・大勢の友達のいる環境に入ること、多少は気後れする様子はあるが、友達の様子や学習内容に多くの刺激を受けながら経験を広げていた。
- ・地域の仲間と触れ合うことで、親しい友達ができ、よい関係が続いている児童もいた。
- ・終日の交流を行うことで、休み時間の児童同士の自然な関わりが増え、さらに仲良くなることができた。
- ・相手校の児童も、聞こえにくいことに配慮したゲームを考えるなど、聴覚障害への理解が少しずつ広がっていた。

##### ② 課題

- ・学習予定や内容など詳しく教えていただき、児童も見通しをもって登校できていた。今後とも相手校と連絡を密にとり、実施していく。

#### <中学部>

##### ① 成果

- ・朝の会、帰りの会や授業（国語、英語、数学、社会、理科、美術）、部活動（卓球部）に参加することができた。
- ・一斉授業で多くの友達がいる雰囲気を感じられる良い機会となった。授業では、積極的にUDトークを活用したり、もう一度聞き直したりする様子が見られた。休み時間には、積極的に同級生に声をかけ、やりとりを楽しむ様子が見られた。
- ・長坂中学校卓球部の練習にも参加し、本校の部活との違いを知ったり卓球を通して交流を深めたりすることができた。
- ・長坂中学校にて学力テストを受けた。同学年の中での自分の学力状況について把握することができた。

##### ②課題

- ・実り多い交流になるよう積極的に関わろうとする態度を養う。
- ・実施予定前に、綿密に授業内容などの確認をするために、今後も連絡を密にしていく。
- ・本人が学年内での学力状況を知ることで、今後の学習への意欲を高めていく。



## I 学校概要

## 1 学校の概要

|             |                           |
|-------------|---------------------------|
| 学 校 名       | 山梨県立甲府支援学校                |
| 所 在 地       | 〒400-0064 山梨県甲府市下飯田2-10-3 |
| 電話番号        | 055-226-3322              |
| 校 長 名       | 小田切 一博                    |
| 交流及び共同学習主任名 | 清水 亜希子                    |

## 2 学校教育目標

- 健康で心豊かな人
- 自ら感じ、考え、表現する人
- 認め合い、伝え合い、助け合う人
- 自立に向けてあゆむ人

## II 交流及び共同学習推進会議の経過

## 1 交流及び共同学習推進会議構成員

| No. | 所 属・職 名           | 備 考 |
|-----|-------------------|-----|
| 1   | 甲府市池田地区自治会連合会・会長  | 副会長 |
| 2   | 甲府市新田地区自治会連合会・会長  | 会長  |
| 3   | 池田地区シニアクラブ連合会・会長  | 副会長 |
| 4   | 池田おやなぎ連・会長        |     |
| 5   | 甲府市立池田小学校・校長      |     |
| 6   | 甲府市立新田小学校・校長      |     |
| 7   | 甲斐市立敷島中学校・校長      |     |
| 8   | 山梨県立甲府城西高等学校・校長   |     |
| 9   | 山梨県立甲府支援学校・PTA 会長 |     |
| 10  | 山梨県立甲府支援学校・校長     |     |

## 2 経過

| 開催時期  | 内 容          |
|-------|--------------|
| 5月27日 | 今年度の計画について   |
| 2月17日 | 今年度の活動報告について |

## III 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

## 1 目 的

- 小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を実施することにより、
- (1) 児童生徒の経験を広め、積極的に活動する態度を養う。
  - (2) 児童生徒の社会性を養い、豊かな心をはぐくむ。
  - (3) 互いを理解し合い、共に学び高め合う機会を持つ。

## 【各学部の目的】

### (1) 小学部

- ①大きな集団やたくさんの友達と活動し、新しいことを体験したり学んだりする。
- ②自分からかかわろうとしたり、自分の気持ちを表したりする。

### (2) 中学部

- ①経験を広めると共に、新しいことを学んだり挑戦したりする。
- ②同世代の生徒たちの考えに触れ視野を広げると共に、自分の考えを表現する。

### (3) 高等部

- ①いろいろな活動をすることで経験を拡大し、社会性を育て主体的に行動する力を身につける。
- ②同世代の生徒たちの考えや行動に触れ自分の考えを表現したり、自分を見つめ直したりする。

## 2 基本方針

- (1) 共に学び合い、共に育ち合う場となるような交流及び共同学習を目指して、その方法や内容などを両校職員の共通理解のもとに探っていく。
- (2) お互いが共に学習することで、相互理解を深め共生社会の実現の一助となるよう努める。
- (3) 校内だけでは体験できない活動を設定できる場として、交流及び共同学習の内容について両校職員で創意工夫していく。
- (4) 両校児童生徒の変容、成長等を把握し、児童生徒のねらいに対する評価を交換し合う。

## 3 提携校

| 学 部 | 交流及び共同学習提携校         |
|-----|---------------------|
| 小学部 | 甲府市立池田小学校、甲府市立新田小学校 |
| 中学部 | 甲斐市立敷島中学校           |
| 高等部 | 山梨県立甲府城西高等学校        |

## 4 実施内容

| 学部 | 時期                   | 提携校           | 実施学年 | 指導区分                         | 内容                                   |
|----|----------------------|---------------|------|------------------------------|--------------------------------------|
| 小  | 1 0 月 9 日            | 甲府市立<br>池田小学校 | 1 学年 | 自立活動<br>国語、音楽<br>図画工作、<br>生活 | ・池田小学校の各学年と本校の学年ごとのオンラインでの交流会を実施。    |
|    | 1 2 月 1 8 日          |               | 2 学年 |                              |                                      |
|    | 7 月 3 日              |               | 3 学年 |                              |                                      |
|    | 9 月 1 1 日            |               | 4 学年 |                              |                                      |
|    | 1 1 月 1 4 日          |               | 5 学年 |                              |                                      |
|    | 7 月 4 日              |               | 6 学年 |                              |                                      |
|    | 1 1 月 1 8 日<br>1 9 日 | 甲府市立<br>新田小学校 | 全学年  | 自立活動<br>図画工作、<br>生活          | 甲養祭展示発表での作品<br>交流<br>ポスター配付          |
|    | 5 月                  |               | 全学年  | 自立活動<br>国語、音楽<br>図画工作、<br>生活 | 自己紹介カード、ビデオ<br>メッセージによる交流<br>共同作品の交換 |

|   |               |                      |     |                                  |                                      |
|---|---------------|----------------------|-----|----------------------------------|--------------------------------------|
|   | 5月13日         |                      |     |                                  | 第1回新田小児童と本校教員との話し合い活動                |
|   | 5月28日         |                      | 全学年 | 自立活動<br>生活、音楽、<br>体育、国語、<br>図画工作 | 第1回交流会<br>新田小5年生の各班と本校<br>の学級ごとの直接交流 |
|   | 9月17日         |                      |     |                                  | 第2回新田小児童と本校<br>教員との話し合い活動            |
|   | 10月 3日        |                      | 全学年 | 自立活動<br>生活、音楽、<br>体育、国語、<br>図画工作 | 第2回交流会<br>新田小5年生の各班と本校<br>の学級ごとの直接交流 |
|   | 11月18日<br>19日 |                      | 全学年 | 自立活動<br>図画工作<br>生活               | 甲養祭展示発表での作品<br>交流<br>ポスター配付          |
| 中 | 7月 4日         | 甲斐市立<br>敷島中学校        | 全学年 | 自立活動<br>特別活動                     | 第1回交流会<br>敷島中学校1年生と本校と<br>直接交流       |
|   | 11月18日<br>19日 |                      | 全学年 | 自立活動<br>美術                       | 甲養祭展示発表での作品<br>交流<br>ポスター配付          |
|   | 12月 5日        |                      | 全学年 | 自立活動<br>音楽、美術                    | 第2回交流会<br>敷島中学校1年生と本校と<br>オンラインでの交流  |
| 高 | 4月30日         | 山梨県立<br>甲府城西<br>高等学校 | 全学年 | 自立活動<br>美術                       | 甲府城西高へ贈呈する応援<br>旗製作、贈呈               |
|   | 11月18日<br>19日 |                      | 全学年 | 自立活動<br>美術                       | 甲養祭展示発表での作品<br>交流<br>ポスター配付          |
|   | 9月～<br>12月    |                      | 全学年 | 自立活動<br>音楽                       | 自己紹介カードの交換<br>クリスマスカードの交換            |
|   | 12月 6日        |                      | 全学年 | 自立活動<br>音楽                       | 甲府城西高校の生徒による<br>体験活動及びボランティア<br>活動   |
|   | 12月18日        |                      | 全学年 | 自立活動<br>各教科                      | 音楽集会                                 |

## 5 学校間交流の様子

### (1) 小学部

#### ①池田小学校との交流及び共同学習

6月に学年代表の教員が集まり、今年度の交流についての話し合いを行った。昨年度より直接交流を再開することができ、本年度も直接交流を検討したが、互いの学校行事などの都合により、日程調整が難しく、オンラインでの交流になった。

1年生は朝顔の成長発表や一問一答クイズを行った。2年生は学年紹介・ダンスの発表、山の音楽家の楽器演奏を互いに発表した。3年生はリコーダーの演奏、甲府支援学校の友達に質問タイムの活動を行った。4年生は連合音楽会の鑑賞、クイズ、互いの学校紹介を行った。5年生は動物ビンゴゲーム、組体操の発表、『ぼよん行進曲』のダンスの発表を行った。6年生は、お互いの修学旅行の報告、マルセリーノのうたの合奏を発表した。



## ②新田小学校との交流及び共同学習

5月と10月に2回の交流を実施した。本年度も、1回目は体育館に全員が集まり、全体会をした後にグループごとに活動し、2回目はグループごとに教室に分かれて活動し、感染症対策に考慮しながら直接交流を実施することができた。交流の実施前には、本校の教員が新田小学校を訪問し、新田小学校の児童と一緒に交流でどんなことをしたいかなど、活動内容を考えた。

活動内容は、1回目の交流では、全体会を行った後、ブロックごとに分かれて自己紹介やクイズ、本の読み聞かせなどを行った。2回目の交流では、ブロックごと教室に分かれて、様々なゲームを行い、交流を深めることができた。



## (2) 中学部

第1回の交流では、敷島中学校の生徒が本校に来校し、直接交流を行うことができた。実施時期が7月と暑い時期であったため、2つの教室に分かれて行った。全体会をリモートで2か所の教室をつないで行い、活動はそれぞれの教室で行った。自己紹介を兼ねた「さいころトーク」とボッチャを行った。「さいころトーク」では、さいころを転がして出た目に書かれた質問に答えて互いのことを知ることができた。ボッチャでは、協力してボールを転がす様子も見られ、これまでのオンラインでの交流とは違うかかわりを深めることができた。

第2回の交流は感染症の流行に配慮し、GoogleMeetを利用してオンライン交流を実施した。互いに山梨に関するクイズの問題を考え、クイズ大会を行った。敷島中学校からは、〇×クイズが出された。本校からは、「地産地消給食週間」の給食から問題を出した。給食の画像を見て、敷島中学校の生徒から「同じものが給食に出た」という声も聞かれ、親しみをもって交流することができたのではないかと感じた。

また、2回の交流会以外にも本校の学園祭の『甲養祭』、敷島中学校の学園祭である『年輪祭』に互いに作品を展示し、作品交流を行った。



### (3) 高等部

4 月には、高校総体に向けた応援旗を作成し、応援メッセージを添えて贈呈した。今年度は、代表生徒が壮行会に参加し、生徒から直接手渡すことができた。6 月には YCC 県民文化ホールで行われた甲府城西高校の学園祭「希城祭」に本校の 1 年生が訪問した。12 月には、甲府城西高校の 1 年生がキャリア教育の学習の一貫で本校に来校し、直接交流を行った。昨年度は、感染症対策のため、生徒との交流はなく、本校の概要説明、清掃活動、校内見学にとどまり、生徒との交流ができなかったが、今年度は自己紹介のアイスブレイクやボッチャをして直接交流することができた。また、昨年度までは DVD の交換で間接的に行っていた音楽集也会も甲府城西高校から合唱部、軽音楽部の生徒が来校し、対面での実施ができた。



## 6 成果と課題

### (1) 小学部

#### ①池田小学校との交流及び共同学習

本年度は、双方の学校行事などを考慮して日程調整した上で、全学年オンラインでの交流となった。直接交流にこだわらず、状況に応じてオンラインの活用し、有意義な交流を行うことができた。機器の操作なども連絡を取り合って練習することで、大きな混乱もなく実施することができた。活動内容として、楽器演奏を取り入れる学年が多かったが、音が全く聞こえないなどの不具合も見られた。

来年度に向けては、可能な限り直接交流ができるように日程を調整し、計画していきたい。また、例年 6 月に池田小学校と本校の職員で打ち合わせを行っているが、打ち合わせを実施してから期間をあけずに交流日を設定できるようにしたい。

#### ②新田小学校との交流及び共同学習

打ち合わせ前に事前に子供たちからの交流内容を送ってもらい、担当職員が確認することでスムーズに打ち合わせを行うことができた。全体会は 1 回目のみにし、2 回目の交流では、全体会を行わずに、ブロックごとの活動を行うなどの工夫をすることで、限られた時間の中で交流時間が長く取れて充実した時間が過ごせた。ブロックごとの人数の偏りを感じる部分もあったが、活動内容を工夫するなどして、交流を深めることができた。

### (2) 中学部

今年度は、1 回目は直接交流、2 回目はオンラインでの交流を行った。1 回目の直接交流では、生徒同士の関わりの中で、互いに寄り添う姿も見られ、交流を深めることができた。本校の生徒も友達の声を直接聞いたり、触れ合ったりする中で、交流を実感することができ、笑顔も多く見られた。

今年度は、約 5 年ぶりに直接交流を実施することができた。2 回目の交流は実施時期と感染症の流行を考慮し、オンラインでの交流を実施した。来年度も感染症の状況や生徒の健康状態を考慮しながら直接交流の実施を検討していきたい。

### (3) 高等部

本年度は、甲府城西高校の壮行会や学園祭「希城祭」に本校の生徒が参加したり、甲府城西高校の生徒が本校に来校したりし、直接交流を多く実施することができた。コロナ禍前に取り組んでいた形で活動を再開することができた。本校の生徒は、間接交流では相手を意識して取り組むことが難しいこともあるが、直接交流することで、相手を意識して活動に取り組むことができた。事前事後学習での取り組みについて、廊下に掲示することで、活動に見通しをもったり、振り返りを深めたりすることができた。

交流の取り組みについては、担当の教師と学部教師との情報共有と協力が必要である。今年度再開する活動については、初めて取り組む教師も多く、取り組み方について十分な情報共有が必要だった。今後も校内での情報共有はもちろん、甲府城西高校の担当教師とも綿密に連絡を取り、計画し、有意義な交流を実施していきたい。

#### Ⅳ 地域における交流活動（地域交流）

##### 1 目的

- (1) 交流を通して、児童生徒の経験を広げ、自己表現できる豊かな人間性を育てる。
- (2) 地域社会の方々に、学校や児童生徒の様子を理解してもらい、共に生きていくことの大切さを学び合う場とする。

##### 2 基本方針

- (1) 交流及び共同学習を計画的、継続的に実施するために、学校や地域の関係団体（関係機関）等の関係者によって構成する連絡組織を設ける。
- (2) お互いが共に活動することで、相互理解を深め共生社会の実現の一助となるよう努める。
- (3) 児童生徒の実態を踏まえ、一人一人が十分に力を発揮でき、成長できる活動が行えるよう創意工夫する。
- (4) 児童生徒の変容、成長等を把握し、地域の方々にわかりやすく伝えながら、その意義を認め合いかわりが深まるようにする。

##### 3 交流先

| 学 部 | 地域交流先                     |
|-----|---------------------------|
| 寄宿舎 | 池田地区シニアクラブ連合会             |
| 全学部 | 池田おやなぎ連 池田地区文化協会 新田地区文化協会 |

##### 4 実施内容

| 学部  | 時期            | 地域交流先         | 実施学年        | 指導区分               | 内容             |
|-----|---------------|---------------|-------------|--------------------|----------------|
| 寄宿舎 | 7月 5日         | 池田地区シニアクラブ連合会 | 全舎生         | 舎生会行事              | 夏まつり           |
|     | 1月20日         | 池田地区シニアクラブ連合会 | 月曜日舎生       | 舎生会活動              | 新年お楽しみ会        |
| 全学部 | 10月23日        | 池田おやなぎ連       | 中学部         | 自立活動音楽             | 自立活動（音楽活動）での交流 |
|     | 10月19日<br>20日 | 池田地区文化協会      | 小学部<br>高等部  | 自立活動<br>図画工作<br>美術 | 池田地区文化祭作品展示    |
|     | 10月27日        | 新田地区文化協会      | 中学部<br>訪問学級 | 自立活動<br>図画工作<br>美術 | 新田地区文化祭作品展示    |

##### 5 地域交流の様子

###### (1) 寄宿舎

7月5日の夏まつりに池田地区シニアクラブから7名の方に参加いただき、直接交流を実施することができた。「玉入れゲーム」やクイズ、「よっちゃばれ」を踊って交流を深めることができた。活動を通して舎生とシニアクラブの方が一緒に盛り上がり、活動を楽しむ様子が見られた。

1月20日には、2回目の地域交流会として新年お楽しみ会へ池田地区シニアクラブの9名の方に参加をしていただき実施した。舎生とシニアクラブの方とチームになり、指定された点数を目指してボールを投げる「ピットリボッチャ」をして交流を行った。「あと3点」や「2点をねらって」など舎生と会話を楽しんだり、互いに名前を呼びながら応援したりと、交流を深めることができた。



## (2) その他

本年度は、中学部の自立活動（音楽活動）の時間に池田おやなぎ連の方を学校にお招きし、直接交流を行った。体育館で太鼓や笛の生演奏を聴くことができ、「ドン！」という太鼓の大きな音や振動を体で感じ、驚きながらも笑顔で楽しんでいる様子が見られた。

甲養祭での作品交流では、学校間交流を行っている全ての提携校と地域の文化協会の方々から作品をお借りし、展示発表を行った。昨年度と同様に協会員の方の見学はできなかったため、展示終了後に展示の様子の写真を送付した。

10月には、池田地区文化協会による池田地区文化祭と新田地区文化協会による新田地区文化祭が開催された。池田地区文化祭には、本校の小学部と高等部の児童生徒の作品を展示し、新田地区文化祭には、本校の中学部と訪問学級の生徒の作品を出展した。甲養祭の展示会場を開放することはできなかったが、地域の方に本校の生徒の作品を見ていただく機会ができた。

本年度は新たに、本校の近隣にある山梨中央銀行下飯田支店の窓口に作品を展示させていただいた。10月中の約1か月間展示させていただき、多くの方に本校の児童生徒の取り組みを知っていただく貴重な機会となった。

## 6 成果と課題

寄宿舎では、本年度も感染症予防対策を講じながら直接交流が実施できてよかった。活動を通して、池田地区シニアクラブの方と舎生がゲームをしたり、話をしたりと交流を深めることができた。また、感染症対策が緩和され、昨年度よりも多くシニアクラブの方を呼ぶことができた。

「おやなぎ連」の方との交流については、甲養祭にお招きできず、交流できない年が続いていた。本年度は中学部の限られた生徒と短い時間ではあったが、直接交流を再開することができた。来年度も甲養祭に限らず、多くの児童生徒と交流できる場を設定できるよう検討していきたい。

## V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

### 1 目的

- (1) 居住地の児童生徒と相互に理解を深めることを目的とする。
- (2) その後の地域における直接的、間接的交流に発展することを目指す。

### 2 実施状況

| 学部・学年 | 交流及び共同学習先校名 | 回数 | 実施（活動）内容                      |
|-------|-------------|----|-------------------------------|
| 小学部1年 | 山梨市立山梨小学校   | 1  | 授業見学<br>「甲養祭」のポスター配付          |
| 小学部2年 | 昭和町立常永小学校   | 3  | 授業への参加（音楽・図工）<br>「甲養祭」のポスター配付 |

|         |            |   |                                           |
|---------|------------|---|-------------------------------------------|
| 小学部 4 年 | 甲府市立大国小学校  | 1 | 「大国まつり」へ参加<br>「甲養祭」のポスター配付                |
| 小学部 4 年 | 甲州市立奥野田小学校 | 1 | 授業見学<br>「甲養祭」のポスター配付                      |
| 小学部 5 年 | 山梨市立加納岩小学校 | 3 | オンラインでの交流<br>レクリエーションへの参加<br>「甲養祭」のポスター配付 |
| 小学部 6 年 | 山梨市立加納岩小学校 | 1 | 授業に参加<br>「甲養祭」のポスター配付                     |
| 小学部 6 年 | 甲州市立塩山南小学校 | 1 | 授業見学<br>「甲養祭」のポスター配付                      |
| 小学部 6 年 | 甲州市立大和小学校  | 1 | 授業参加（社会・音楽・家庭科）<br>「甲養祭」のポスター配付           |
| 中学部 1 年 | 甲府市立東中学校   | 1 | 授業見学<br>「甲養祭」のポスター配付                      |
| 中学部 1 年 | 甲府市立北西中学校  | 2 | 合唱祭に参加（練習・本番）<br>「甲養祭」のポスター配付             |

### 3 成果と課題

今年度は10名の児童生徒が居住地校交流を希望し、直接交流を実施することができた。昨年度からの継続の6名の児童生徒に加えて、4名の児童が新規で希望し、交流を実施した。また、交流回数についても昨年度は年間で1回の児童生徒がほとんどであったが、今年度は、2～3回交流校を訪問し、交流する児童生徒もいた。活動内容については、普段の授業の様子の見学や行事への参加が主であった。

交流校に訪問する前に、オンラインで交流を行ったり、自己紹介の手紙やDVDを渡したりすることで、事前に交流校の児童生徒に本校の児童生徒のことを知ってもらうことができた。交流当日も優しく声をかけてくれたり、手を取って一緒に活動してくれたりしたことで、はじめは緊張していても次第にやわらぎ、交流を楽しむことができた。中には活動が終わっても帰りたくないと思うほど楽しめた児童もいた。また、交流の活動の中で、自分のことは自分でやろうとする姿勢など普段の学校生活では見られない様子が見られたり、集団授業に参加することで学習に向かう基本姿勢が整ってきたりという成果も報告されている。オンラインでの交流も含めて複数回交流を重ねることができ、交流を深めることができた。居住地校交流の実施においては、活動場所や移動方法に配慮が必要であるが、本校の児童の実態などを丁寧に伝え、打ち合わせをすることで、柔軟に対応できるようにしていきたい。また、活動後に疲れが見られた児童もいるため、実態に合わせて活動内容や時間を適切に計画していきたい。

今後の居住地校交流の実施に向けて、日常の中で自然なかかわりがもてるような交流の実施方法を検討し、双方に無理なく継続した交流ができるように取り組んでいきたい。

## I 学校概要

### 1 学校の概要

|             |                              |
|-------------|------------------------------|
| 学 校 名       | 山梨県立あけぼの支援学校                 |
| 所 在 地       | 〒407-0046 山梨県韮崎市旭町上條南割3251-1 |
| 電話番号        | 0551-22-6131                 |
| 校 長 名       | 相山 洋幸                        |
| 交流及び共同学習主任名 | 清水 絵美                        |

### 2 学校教育目標

「いきいきと」を校訓とし、教育と医療・福祉が密接に結びついた特色ある教育を実現し、質の高い自立と社会参加に向けて可能性を最大限に引き出す教育を行う。

## II 交流及び共同学習推進会議の経過

### 1 交流及び共同学習推進会議構成員

| No. | 所 属・職 名              | 備 考 |
|-----|----------------------|-----|
| 1   | 山梨県立あけぼの支援学校・教育振興会会長 | 顧 問 |
| 2   | 山梨県立あけぼの支援学校・校長      | 会 長 |
| 3   | 韮崎市旭町上條南割地区・代表区長     | 副会長 |
| 4   | 韮崎市立甘利小学校・校長         | 副会長 |
| 5   | 韮崎市旭町上條南割地区・老人会会長    |     |
| 6   | 韮崎市福祉課・課長            |     |
| 7   | 富士川町立増穂南小学校・校長       |     |
| 8   | 韮崎市立韮崎西中学校・校長        |     |
| 9   | 甲府市立甲府商業高等学校・校長      |     |
| 10  | 学校法人日本航空高等学校・校長      |     |
| 11  | 山梨県立韮崎工業高等学校・校長      |     |
| 12  | 山梨県立あけぼの支援学校・PTA会長   |     |

### 2 経過

| 開催時期   | 内 容                                                                          |
|--------|------------------------------------------------------------------------------|
| 6月 5日  | 委員の委嘱、役員選出<br>前年度の地域交流・学校間交流紹介<br>今年度の地域交流・学校間交流・居住地校交流・交流及び共同学習推進会議開催についてなど |
| 2月 25日 | 今年度の地域交流・学校間交流・居住地校交流の活動報告<br>来年度の交流及び共同学習推進協議会についてなど                        |

### Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

#### 1 目 的

##### （１）本校の目標

- ①小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を通して児童生徒の経験を広め、社会性を育み、豊かな人間性を養う。
- ②児童生徒のふれあいを通してお互いの存在を理解し、大切にしていこうという気持ちを育てる。

##### （２）小学部

- ①同年代の児童との活動を通して、雰囲気を感じて自分の意思や感情を表現することができる。
- ②日頃の活動を生かした交流及び共同学習を行いながら、お互いの理解やかかわり合いを深める。

##### （３）中学部

- ①同年代の生徒との活動を通して経験を広め、また他校の生徒達の考え方等に触れて視野を広げる。
- ②日常の学習活動や生活とは異なる集団活動の中で、かかわりや刺激を受け止め、生徒自身の意思や感情を表現できるようにする。

##### （４）高等部

- ①他校の生徒と活動する機会を通して経験を広め、社会性を育てる。
- ②同世代の生徒達との活動を通してお互いを理解し合い、他校の生徒達の考え方等に触れることで、自分の生活を振り返る。
- ③交流及び共同学習会の雰囲気を感じ、他校の生徒からのかかわりに、自分なりの表現で応じることができるようにする。

#### 2 基本方針

##### （１）本校の基本方針

- ①共に学び合い、共に育ち合う場となるような交流及び共同学習を目指して、その方法や内容等を両校教師の共通理解の基に探る。
- ②提携校の児童生徒に本校児童生徒について理解してもらうと共に、提携校に対する理解も深めるよう努力する。
- ③障害が重度重複化、多様化する中で、一人一人を生かすことができる交流及び共同学習のあり方について検討する。
- ④両校児童生徒の反応、変容等を把握し、意義のある交流及び共同学習の実践に努める。
- ⑤保護者や地域社会への啓蒙のための方法について検討する。

##### （２）小学部

- ①提携校と交流及び共同学習に関する目標を明確にした上で、学習形態や指導内容等を綿密に話し合い、相互理解の基に実施する。
- ②甘利小学校とは、形態や内容等について相互の教師で話し合いを深めながら工夫して実施していく。
- ③増穂南小学校とは、これまでの積み重ねや少人数の良さを生かし、学年交流の形態を主に実施する。

- ④作品展示等の間接交流を工夫して行う。(あけぼの祭、ゆずっ子文化祭での作品交流)
- ⑤日常的な学習や活動を生かした交流及び共同学習が実施できるように工夫する。
- ⑥両校職員が交流及び共同学習に対する基本的な考えを共通確認することや互いの意思疎通を図るために、打ち合わせ会では、ビデオ等を活用しながら話し合いを深めていく。
- ⑦交流及び共同学習を楽しみにできるように、ビデオレターや紹介カード、児童情報カード等を作成し、お互いに事前の指導に役立てるようにする。

### (3) 中学部

- ①交流及び共同学習の目標や生徒個々の実態を踏まえた上で、活動内容を設定する。
- ②ビデオレターや紹介カードで生徒間の相互理解を図ったり、それぞれの学園祭で生徒の作品を展示し合い、作品を通して理解を深めたりすることができるようにする。
- ③内容や実施方法は両校で綿密に打ち合わせを行い、生徒が主体的に企画・運営する部分を設け、充実した交流及び共同学習ができるように工夫する。

### (4) 高等部

- ①お互いの理解をより深めること、お互いに刺激し合うこと、実年齢に伴ったかかわりを考え、交流及び共同学習を行う。
- ②3校間のつながりを大切にしながら交流及び共同学習を実施し、お互いに刺激し合えるように設定する。また、全ての生徒にとって充実した交流及び共同学習会となるように努める。特に、各校ごと1名の生徒を担当として位置付けることでかかわりを深め、相互に生活年齢に即した対応や活動内容の設定等を心がけていく。
- ③3校間で事前に活動の打ち合わせを綿密に行い、生徒間の相互理解が図れるように事前に情報交換をしておく。当日生徒が主体的に運営する部分を設け、充実した交流及び共同学習ができるように工夫する。また、可能な限り事後学習を行う。
- ④1回目の交流及び共同学習は、本校が企画運営を行う。2回目は、甲府商業高等学校と日本航空高等学校が主体となり、隔年で企画・運営にあたる。

### (5) その他

交流及び共同学習の実施にあたっては、教育課程上の位置付けや指導の目標などを明確にして適切な評価を行い、次の交流及び共同学習へ生かしていく。また、個別の指導計画や指導要録へ記載する。

## 3 提携校

| 学 部  | 交流及び共同学習提携校                                     |
|------|-------------------------------------------------|
| 小学部  | 韮崎市立甘利小学校（5年生）、富士川町立増穂南小学校（全校）                  |
| 中学部  | 韮崎市立韮崎西中学校（福祉ボランティア委員）                          |
| 高等部  | 甲府市立甲府商業高等学校（インターアクトクラブ）<br>学校法人日本航空高等学校（国際クラブ） |
| 学校全体 | 山梨県立韮崎工業高等学校（木材加工班）                             |

#### 4 実施状況

| 学部 | 時期     | 提携校                                                                 | 実施学年       | 指導区分        | 内容                               |
|----|--------|---------------------------------------------------------------------|------------|-------------|----------------------------------|
| 小  | 6月25日  | 富士川町立<br>増穂南小学校                                                     | 小全員        | 道徳科<br>特別活動 | 自己紹介、質問コーナー等<br>※オンラインによる交流会を実施  |
|    | 11月14日 |                                                                     |            |             | 作品交流（学園祭）                        |
|    | 11月1日  | 韮崎市立<br>甘利小学校                                                       | 5 学年       | 道徳科<br>特別活動 | 自己紹介、作品の説明等<br>※オンラインによる交流会を実施   |
|    | 11月14日 |                                                                     |            |             | 作品交流（学園祭）                        |
| 中  | 7月2日   | 韮崎市立<br>韮崎西中学校<br>（福祉ボランティア委員）                                      | 中全員        | 道徳科<br>総合   | 自己紹介、クイズ、ゲーム等                    |
|    | 11月14日 |                                                                     |            |             | 作品交流（学園祭）                        |
| 高  | 6月12日  | 甲府市立<br>甲府商業高等学校<br>（インターアクト<br>クラブ）<br>学校法人<br>日本航空高等学校<br>（国際クラブ） | 高全員        | 道徳科<br>総合   | 学校紹介、ダンス披露、○×クイズ、ボッチャやTボールの実演    |
|    | 11月14日 | 甲府市立<br>甲府商業高等学校<br>（インターアクト<br>クラブ）<br>学校法人<br>日本航空高等学校<br>（国際クラブ） | 高全員        | 道徳科<br>総合   | 作品交流（学園祭）                        |
|    | 12月19日 | 甲府市立<br>甲府商業高等学校<br>（インターアクト<br>クラブ）<br>学校法人<br>日本航空高等学校<br>（国際クラブ） | 高全員        | 道徳科<br>総合   | 自己紹介、車いすバスケットボール、Tボール、ボッチャ、リース作り |
| 全校 | 6月19日  | 山梨県立<br>韮崎工業高等学校<br>（木材加工班）                                         | 対象学部<br>学年 | 道徳科<br>特別活動 | 自己紹介、クイズ等                        |
|    | 1月15日  | 山梨県立<br>韮崎工業高等学校<br>（木材加工班）                                         | 対象学部<br>学年 | 総合<br>総合    | 教材受け入れ式                          |

#### 5 学校間交流の様子

##### （1）小学部

増穂南小学校、甘利小学校とそれぞれ Teams によるオンラインでの交流を行った。本校小学部の5つの学習グループに合わせ、5グループに分かれて行った。6月25日に行った増穂南小学校



との交流会では、グループごとに質問コーナーを設けて質問をし合ったり、合奏や歌を聞かせてくれたりとお互いにやりとりを楽しんだ。終わりの会では、増穂南小学校の児童が進行を務めてくれ、温かい雰囲気の中で交流を終えることができた。

11月1日の甘利小学校との交流では、本校の児童のために甘利小学校の児童が自分たちで作成した教材を通じ、実際に教材を使っている様子を見てもらいながら感想を伝え合う等の交流会を行った。児童の表情や言葉から嬉しさや喜びを伝え合い、気持ちを共有することができた。事前に、本校が児童の自己紹介カードと児童の様子がわかる映像を送り、児童の理解をより深められるよう工夫した。

また、事前学習として、本校教員が両校に赴いて本校の様子等を伝える福祉講話を行った。福祉講話では、本校児童生徒の登校の様子や校内の施設の様子等の映像を紹介した。相手校の児童たちは真剣に映像を見て、自分たちとの学校の違いを見つけて友達に伝えたり、教員の説明を聞きうなずいて納得したりする様子が見られた。スクールバスに車いすを乗せるときの昇降機の動きや保健室には看護師もいること等を知り驚いていた。また、本校から車いすを持っていき、車いす操作の体験も行った。2種類の車いす（競技用と普段用）の操作の違いに戸惑っている様子や操作に慣れずにも興味をもって操作する様子が見られた。甘利小学校で行ったボッチャ体験では、ボールの投げ方を工夫して意欲的に取り組み、得点に一喜一憂しながら皆で盛り上がり、ボッチャの楽しさを体感できる機会となった。



## (2) 中学部

韮崎西中学校福祉ボランティア委員会の生徒28名との交流会を、7月2日に行った。6月中旬に自己紹介の動画撮影や自己紹介カードの交換を行う等の事前学習を行った。本校の生徒は、自己紹介カードから交流する相手校の児童はどんな人かを意識しながら好きな事や好きな音楽を調べたり、活動内容を考えて選んだりする等の様子が見られた。当日は、両校それぞれ3グループに分かれ、自己紹介の後、グループごとに「トークタイム・ゲーム」「クイズ」「好きなこと・得意なこと紹介・発表」「ダンス」等を行った。活発に発表したり質問に答えたりし合うことで、互いの存在を近くに感じながら、活動に取り組むことができた。生徒達はとても良い表情をしてお互いを見つめたり、声や音楽に聴き入ったりして、楽しい時間を共有することができた。両校生徒共に声をかけ合いながら笑顔溢れる交流になった。



## (3) 高等部

6月12日に行った甲府商業高等学校、日本航空高等学校、本校高等部との3校間での1回目の交流会は、5年ぶりに本校に参集して対面で行うことができた。感染症防止対策のため2か所に分かれ、オンラインを取り入れて会場同士をリアルタイムで繋いだ。学校紹介をしたり、ダンス披露や○×クイズ、ボッチャやTボールを行ったりして、各校で取り組んでいることを披露し合うことで、一緒に盛り上がり楽しみながらお互いに理解を深めることができた。生徒たちは実際に会えて同じ場所や時間を共有できる喜びを感じていた様子だった。

あけぼの祭では各交流相手校が作った活動紹介のポスターを高等部棟の廊下に掲示した。あけぼの祭の期間が終わってもしばらく掲示していたことで、廊下を通りながらポスターに関心をもって立ち止まる生徒の様子が見られた。

12月19日に行った2回目の交流会では、5つのグループに分



かれて、グループごとに交流を行った。自己紹介後、車いすバスケットボール、Tボール、ボッチャ、リース作り等、本校の生徒の授業と一緒に体験した。車いすバスケットボールではパスをしながら質問をし合ったり、Tボールやボッチャでは試合が進んでいくうちに自然とお互いに応援し合う姿が見られたりした。同世代と一緒に活動することが良い刺激となり、かかわりを深めることができた。

#### (4) 葦崎工業高校との交流

葦崎工業高校とは、毎年本校の児童生徒が使う教材の製作を通じた交流を行ってきた。今年度は、小学部が絵本用の書見台、中学部がキーボード台、作業台、高等部が作業台、花台、二段ケースの製作を依頼した。

1回目の交流会は、6月19日(水)に本校にて対面交流を実施した。両校の参加児童生徒を5つのグループに分け、それぞれのグループごとの自己紹介や質問タイムで盛り上がった。葦崎工業高校生徒のみなさんに本校の授業に参加していただき、体育的な活動や美術的な活動を一緒に行い、終始楽しい雰囲気の中、両校の児童生徒がお互いの多様性を感じ合い、認め合う良い機会となった。

1月15日(水)には、教材教具受け入れ式を実施した。作成依頼をした教材を制作した生徒達から直接受け取り、葦崎工業高校のみなさんに教材作成上の工夫点等を聞いたり、どのように使うのかを見てもらいながら感謝の気持ちを伝えたりした。グループごとの交流も行い、実際に生徒の話を聞くことができたり、教材を活用している場面を見せたりすることができ、児童生徒達も喜んでいる様子であった。



## 6 成果と課題

### (1) 小学部

増穂南小学校との交流では、事前に福祉講話や車いす体験を行ったことで、本校への理解や交流への期待感が高まった。交流会当日は、Teamsを活用し、グループごとに時間を確保し交流が深められるようにした。1年生から6年生までが毎年継続して交流することで、交流の経験が積み重ねられ、児童の記憶の中に大きく残っていることを実感した。

甘利小学校5年生との交流についても、事前に福祉講話を行った。甘利小学校では、身近な状況を具体例として挙げ、環境を工夫することで活動制限がなくなったり緩和されたりすることがあること、本校児童の一人一人の好きなことや好きな物について詳しく伝えた。多くの児童が話を聞いてメモをとったり質問をしたり感想を伝えたりする様子が見られ、本校児童に対する関心の高さを感じた。また、車いす体験やボッチャ体験では実際に体験できたことで、車いす操作の難しさやボッチャの楽しさ等を実感できた様子であった。交流会当日は、本校児童のために作成してくれた教材をどのように使っているのか、どんな様子で使っているのかを知ってもらうことができた。

2校との交流は、互いに声をかけ合ったり、教材を通して相手のことを感じたりすることができた。

今後も互いの理解を深め相手のことを思いやれる交流を目指し、オンライン・対面等、交流の形式に応じて内容を工夫し、相互に協力しながら交流することの大切さを再認識していきたい。

### (2) 中学部

葦崎西中学校との交流は、感染状況によって対応できるよう様々な方法を模索し、感染症の生徒がいなかったため対面での交流を実施した。数年ぶりに対面交流となり、他校の同年代の生徒の様子や考えに触れることができた。

本校の生徒の実態差もあるので、グループごとに交流を行うことで、実態に合わせて交流内容を考えることができた。また、グループごとを行うことで、交流時間を長く設定することができた。今後、毎年直接会って触れ合う交流会の実施を基本とし、オンラインでの

交流会をどのようにして充実させていくかを検討し、限られた時間を有効に使える方法を模索していく必要がある。

交流会において、本校生徒は自身の意思や感情を豊かな表情や言葉、身体の動きで表現することができた。相手校の教員からは、自校の生徒があけぼの支援学校の生徒とのやりとりをととても楽しんでた等の話を伺った。本校への交流目的で、福祉ボランティア委員会に入る生徒も多いとのことだった。相手校の生徒も本校生徒のことを理解してもらう機会となったのではないかと考えている。

他者への理解を深める観点から、今年度も実施した自己紹介カードの交換や自己紹介動画を引き続き工夫しながら実施することで、交流相手への理解を深められるよう手立てを模索し、工夫して実施していく必要がある。

本校の生徒の実情から、感染症予防対策を十分にしていける必要があるため、交流相手校の生徒が校内に入ることが難しい状況が今後も考えられる。その時々によりしっかり検討を重ね、オンラインによる交流会では、ビデオ通話を利用したメッセージのやりとりをしたり、両校で考えた共に活動できる内容を行ったりしながら、生徒たちが達成感を感じられるよう内容を工夫していくことや、オンラインだからこそ得られる成果を求めながら計画していくことが重要であるとする。今後も時間を共有する中で、リアルタイムな生徒の反応や感動を共に実感でき、相手への理解を深めることができるような交流にしていきたい。

### (3) 高等部

今年度の交流会は5年ぶりの参集になり、1回目は体育館や視聴覚室にて全員で、2回目はグループに分かれて実施した。他の高校とかかわる機会が少ない本校の生徒にとって、他校の生徒が本校に集まり、話をしたり、ふれあえたりすることは貴重な体験であるとする。同年代と話をすることで、様々な情報を得たり、コミュニケーションについて考えたり、自らの生活を豊かにすることができている。それとともに、自分から話しかけるなど、自ら相手に働きかけることの大切さや、支援してもらうことへの感謝の気持ちなど、普段の学校生活だけでは見落としがちなことに自ら気づける機会にもなっている。互いに交流の時間をより良いものにしたいという気持ちが伝わり、交流内容や会話の仕方等に相手のことをよく考えて動いている様子が多く見られた。今回は久しぶりの対面で、本校主体の交流になってしまったが、以前のように相手校主体の交流も実施していきたい。そのため今後も相手校と協力し、よりよい交流を継続していきたい。

### (4) 全校（韮崎工業高校との交流）

数年ぶりに韮崎工業高校の生徒が来校しての交流となったが、相互の様子を直接見合う中で本校の児童生徒の様子を知ってもらったり相手校の様子を知ったりすることができた。互いの存在を確認し合いながら、その場で質問したり、答えたりすることができ、和やかな雰囲気の中交流をすることができた。互いに相手を理解しようとする気持ちや感謝の気持ち、交流の楽しさを味わうことができたとする。小学部、中学部、高等部とそれぞれの実態や目標にあった活動を行うことができた。

1月の教材受け入れ式も対面で実施を行うことができ、当日は制作依頼した初見台や電子ピアノ台を使用し、児童生徒が活用している様子も見ていただくことができた。また、韮崎工業高校の生徒からは、作成上の工夫点や大変だったことなどを聞くことができ、教材作成への思いを共有することで、より大切に扱おうという気持ちを高められたと感じている。

以前のように直接会えることが相互理解のためにはとても有意義な時間となり、お互いの気持ちを伝えあうことができたと感じる。今後も、感染症予防対策を講じながら、どのような形で交流を実施することが望ましいのか、両校で話し合いながら計画していきたい。

## Ⅳ 地域における交流活動（地域交流）

### 1 目 的

#### （１）本校の目標

- ①地域の方々と共に活動する中で、生活経験や対人関係を豊かにし、社会に積極的にかかわろうとする力を育てる。
- ②地域の方々からのかかわりを受け入れたり、自分からも何らかの表現を返したりして、一緒に活動を楽しむことができるような気持ちを育てる。
- ③地域の方々の趣味や特技を生かすことで交流及び共同学習や授業をより充実させると共に相互理解を促進する。

### 2 交流先

| 学 部 | 地域交流先               |
|-----|---------------------|
| 小学部 | 旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々 |
| 中学部 | 旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々 |
| 高等部 | 旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々 |

### 3 実施状況

感染症防止対策のため、コロナ禍以降、直接的に触れ合う交流は実施できていない。一昨年度は交流会の実施に替えて、旭町上條南割地区の方々及び老人会の方々に向けたメッセージカードを作成し、送付することで数年ぶりの間接交流が実施できた。しかし、年々地域交流を経験したことのない児童生徒が増え、今後の児童生徒の実態を考慮すると、メッセージカードを送る形での交流は難しいと考える。

そこで、今年度は学校近隣にあるセブンイレブン（葦崎旭町店）に「あけぼの掲示板」として、本校の掲示物（ブログの記事等）を展示させていただくこと、また、掲示物と同じものを南割地区（４地区）の回覧版で回覧していただくことにした。年に２回（前期末、後期末）計画しており、掲示物を見ていただくことで、本校児童生徒のことを知っていただき、理解を深めていただく機会にしたいと考えている。



### 4 課題

本校の実情から、来年度以降も感染症防止対策のため直接触れ合う交流会は実施することが難しい状況が考えられる。しかし、地域の方々と繋がり合っていくことは児童生徒にとって今後も必要なことである。今後も地域交流として継続して取り組んでいける一つの方法として、まずは地域の方々に本校の児童生徒を知っていただくことを目的として、地域のお店や回覧板で情報発信をしていきたい。今後続けていく中で、掲示をしていただくスペースやお店を増やしたり、本校の情報を継続して回覧していただくことでより身近に本校のことを感じたりしていただけるよう、内容等工夫をしていく必要がある。

## V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

### 1 目 的

- （１）同年代の小中学校の児童生徒と共に活動することにより、相互理解を深める。
- （２）居住地域における交流及び共同学習を通して、日常的な地域での社会参加へ発展させていく。
- （３）将来的な視点に立ち、より充実した人間関係の基盤を整える。

### 2 実施状況

| 学部・学年  | 交流及び共同学習先校名 | 回数 | 実施内容           |
|--------|-------------|----|----------------|
| 小学部・２年 | 甲府市立伊勢小学校   | １  | 音楽（手あそびや楽器演奏）  |
| 小学部・４年 | 甲府市立池田小学校   | ２  | 英語、音楽（自己紹介など）  |
| 小学部・４年 | 北杜市立長坂小学校   | ２  | 国語、算数、体育、音楽、道徳 |
| 小学部・６年 | 北杜市立白州小学校   | ２  | 特別活動、算数（図形など）  |
| 小学部・６年 | 北杜市立須玉小学校   | ０  | ※体調不良により実施できず  |
| 中学部・３年 | 韮崎市立韮崎西中学校  | １  | 美術、理科、英語       |

### 3 成果と課題

小学部２年生の児童１名は、特別活動として音楽活動に参加した。手遊びをしたり、一緒に歌を歌ったり楽器を鳴らし合ったりした。相手校の児童にたくさん話しかけられ、笑顔で応えていた。

小学部４年生の児童１名は、英語の授業に参加した。音楽に合わせて英語で自己紹介をしてくれた相手校の児童に、母親と一緒に手を振って返事をする事ができた。最初は緊張していた相手校の児童も、時間が経つにつれてたくさん話しかけてくれるようになり、本校児童も終始笑顔で参加することができた。

また、他の小学部４年生の児童１名は、来年度、居住地校の小学校に転学予定のため、給食を含めた一日通しての交流を複数回行った。国語では、相手校の児童の意見を聞いて自分の考えを広げたり、深めたりすることができた。また、理科では、相手校の児童と一緒にチームでゲームを楽しんだ。保護者と教師は遠くから見守り、児童たちだけで活動することができた。

小学部６年生の児童は、特別活動のレクリエーションに参加した。体育館で「だるまさんがころんだ」等のゲームを楽しんだ。また、「しりとり」ゲームでは、本校児童の言える単語を事前に隣の児童に伝え、その児童が自分に回ってきた言葉の最後の言葉と本校児童が言える最初の音を組み合わせ、パスをしてくれた。このような優しさに感動する場面が多々あった。また、算数では図形を倍に書き換えるやり方で、支援員とコンパスを使い作図することができた。本校児童は、一緒に空間で学習できたことが何よりも嬉しかったということだった。

もう一人の６年生の児童は、今年度は体調不良のため実施することは叶わなかった。

来年度も、さらに居住地校交流実施希望者を増やしていけるように、保護者に向けて情報提供を行っていききたい。また、互いに有意義な交流ができるように児童生徒や保護者の願いを大切にしながら居住地校と丁寧な打ち合わせや情報交換を行い、同年代の小中学校の児童生徒と共に活動する機会を増やしていきたい。そして相互理解をより深められるようにしたい。

中学部３年生の生徒は、１校時美術、２校時理科、３校時英語の時間割で授業交流をした。久しぶりの集団での授業で、緊張している様子であった。美術では、ハンコに名前を彫る彫刻の課題で、小学校の時の友達や教員に時折アドバイスをもらいながら取り組むことができていた。休み時間には、友達と会話を楽しんだり笑顔になっていた。久しぶりに友達と話ができて嬉しかったとのことだった。

## I 学校概要

## 1 学校の概要

|             |                           |
|-------------|---------------------------|
| 学 校 名       | 山梨県立わかば支援学校               |
| 所 在 地       | 〒400-0226 南アルプス市有野 3346-3 |
| 電話番号        | 055-285-1750              |
| 校 長 名       | 小林 勝                      |
| 交流及び共同学習主任名 | 飯島 祐子                     |

## 2 学校教育目標

たくましい力 ゆたかな心

## II 交流及び共同学習推進会議の経過

## 1 交流及び共同学習推進会議構成員

| No. | 所 属・職 名                                 | 備 考 |
|-----|-----------------------------------------|-----|
| 1   | 南アルプス市教育委員会・教育長                         |     |
| 2   | 南アルプス市社会福祉協議会地域福祉課・課長                   |     |
| 3   | 南アルプス市源地区自治会連合会（交流及び共同学習推進会議担当）・有野北自治会長 | 会長  |
| 4   | 南アルプス市立白根源小学校・校長                        | 副会長 |
| 5   | 南アルプス市立櫛形中学校・校長                         |     |
| 6   | 南アルプス市立白根御勅使中学校・校長                      |     |
| 7   | 早川町立早川中学校・校長                            |     |
| 8   | 山梨県立農林高等学校・校長                           |     |
| 9   | 山梨英和中学校・高等学校・校長                         |     |
| 10  | 山梨県立白根高等学校・校長                           |     |
| 11  | 山梨県立わかば支援学校・校長                          |     |

## 2 経 過

| 開催月日  | 内 容                       |
|-------|---------------------------|
| 5月29日 | 今年度の交流計画について              |
| 2月 5日 | 今年度の実施報告及びまとめや次年度の方向性について |

### Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

#### 1 目 的

##### （１）全体

小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を通して、

- ①様々な活動を通じて、より豊かな人間性を養い、協調性や社会性を育てる。
- ②交流提携校の児童生徒に障害のある児童生徒への理解や認識を深めるようにする。
- ③互いに仲間としての意識をもち、共に学ぶ楽しさを味わうとともに、好ましい人間関係を育てる。

##### （２）小学部

- ①互いの存在を知り合う。
- ②同学年児童とともに活動する中で、楽しく過ごす。
- ③友達を意識し、自分からかかわろうとしたり、かかわりを受け入れようとしたりする気持ちを育む。

##### （３）中学部

- ①同世代の生徒との交流及び共同学習を行う中でより豊かな人間性を養う。
- ②同世代の生徒とのかかわりを広げ、共に学ぶ楽しさを味わう。
- ③活動を通して、互いの個性を認め合いながら、人とかかわろうとする気持ちを育てる。

##### （４）高等部

- ①互いの存在を知り合い、同世代の生徒の考え方等にふれることで、同じ高校生としての意識を高める。
- ②同世代の生徒との活動や作品交流を通して、互いの理解を深める。
- ③活動を通して、互いの個性を尊重しながら、人とかかわろうとする気持ちを育てる。

#### 2 提携校

| 学 部 | 交流及び共同学習提携校                            |
|-----|----------------------------------------|
| 小学部 | 南アルプス市立白根源小学校                          |
| 中学部 | 南アルプス市立楡形中学校、南アルプス市立白根御勅使中学校、早川町立早川中学校 |
| 高等部 | 山梨県立農林高等学校、山梨英和中学校・高等学校、山梨県立白根高等学校     |

#### 3 実施状況

| 学部 | 時期     | 提携校     | 実施学年 | 指導区分 | 内 容      |
|----|--------|---------|------|------|----------|
| 小  | 10月18日 | 南アルプス市立 | 1学年  | 生活   | ふれあい遊びなど |
|    | 9月20日  | 白根源小学校  | 2学年  | 生活   | ふれあい遊びなど |

|   |                                              |                     |             |                     |                                        |
|---|----------------------------------------------|---------------------|-------------|---------------------|----------------------------------------|
|   | 1 1 月 1 3 日                                  | 南アルプス市立<br>白根源小学校   | 3 学年        | 生活                  | 発表・ゲーム                                 |
|   | 1 2 月 6 日                                    |                     | 4 学年        | 生活                  | ゲーム                                    |
|   | 7 月 1 7 日                                    |                     | 5 学年        | 道徳                  | ゲーム                                    |
|   | 1 2 月 1 1 日                                  |                     | 6 学年        | 道徳                  | ゲーム                                    |
| 中 | 6 月 2 0 日                                    | 南アルプス市立<br>楡形中学校    | 1 学年        | 総合                  | 校歌、クイズ、ゲーム                             |
|   | 1 1 月 1 日                                    |                     |             | 総合                  | 歌、ダンス、クイズ<br>ゲーム                       |
|   | 7 月 2 日                                      | 南アルプス市立<br>白根御勅使中学校 | 2 学年        | 総合                  | 応援、ゲーム、ダンス                             |
|   | 1 2 月 1 0 日                                  |                     |             | 総合                  | 発表、ゲーム                                 |
|   | 1 0 月 1 0 日                                  | 早川町立<br>早川中学校       | 3 学年        | 総合                  | ゲーム、発表                                 |
| 高 | 5 月 2 9 日<br>1 2 月 1 8 日                     | 山梨県立<br>農林高等学校      | 1 学年        | 社会・理科<br>道徳         | 田植え<br>脱穀・おにぎり作り                       |
|   | 6 月 2 9 日<br>7 月 4 日                         | 山梨英和中学校・<br>高等学校    | 1 ～ 3<br>学年 | 美術・<br>職業（作業<br>学習） | 作品交流                                   |
|   | 1 0 月 1 6 日<br>1 2 月 1 3 日                   |                     | 2 学年        | 音楽                  | 自己紹介・学校案内・<br>ゲーム<br>聖歌隊による演奏・楽器<br>体験 |
|   | 1 2 月 4 日<br>～ 6 日<br>1 2 月 1 7 日<br>～ 2 3 日 | 山梨県立<br>白根高等学校      | 1 ～ 3<br>学年 | 美術・<br>職業（作業<br>学習） | 作品交流                                   |

#### 4 学校間交流の様子

##### (1) 小学部：白根源小学校との交流

###### ① 1 年生

- ・事前学習では、当日見通しをもって取り組めるように日時や内容を確認したり、交流する相手校児童の自己紹介カードを見たりして期待感を高めた。
- ・当日は、初めての交流会ということもあり、両校とも緊張した表情の児童も多かったが、活動が進むにつれ、緊張がほぐれ笑顔が沢山見られるようになった。
- ・本校は学部や学年の行事等で取り組んでいる『たんぼぼダンス』を、白根源小学校は運動会で行ったダンスを発表し合った。白根源小学校の迫力のあるダンスを見ると、立ち上がって一緒に体を動かす児童もいた。白根源小学校の児童は、積極的に本校の児童にかかわろうとする姿が見られた。
- ・ふれあい遊びやボール運びゲームでは、多くの児童が白根源小学校の児童と楽しくかわることができ、良い表情をしていた。特にバレー遊びはとても盛り上がった。



## ② 2年生

- ・事前学習では、日時や内容等を確認し、期待感をもって当日の交流に繋がるようにした。
- ・ふれあい遊びは、本校の音楽科で取り組んでいる『ぼーとのうた』を実施した。2～3人のペアになり、手を繋いで揺れる活動をする中で、徐々に距離感が近づき笑顔が増えた。また、本校の生活科（遊びの指導）で取り組んでいる『忍者の修行遊び』では、昨年度かかわったことを思い出す児童もいて、意欲的に活動に取り組む児童の姿が見られた。また、一緒に活動することを意識し、協力して取り組む姿が見られた。バルーン遊びは、白根源小学校の児童が昨年度のことをよく覚えていて、バルーンが出てくると大喜びし、声を出したりバルーンにタッチしたり、生き生きと活動する姿が印象的であった。
- ・はじめの会は、本校の児童が司会をして会を進行した。児童にとっては、少し緊張感をもつことができ、良い機会となった。おわりの会は白根源小学校の児童が次第を見ながらスムーズに進行した。感想発表では、両校の児童から「楽しかった」と言う言葉が聞かれた。交流が終わった後、白根源小学校の児童が本校2年生の教室を見学した。友達に自分のクラスの掲示物などを紹介する児童もいた。
- ・昨年度は、初めての交流でなかなか参加できなかった児童も、今年度は主体的に参加する姿があった。また、白根源小学校の児童も本校の児童のペースに合わせて、優しい声を掛けてくれたりするなど、お互いに成長を感じた交流であった。



## ③ 3年生

- ・事前学習1回目では昨年度の交流会について振り返り、今年度の交流の日時などについて学習を行った。夏休み前に自己紹介カードを交換して廊下に掲示をした。事前学習2回目は、交流の前日に行った。再度日時などについて確認を行い、発表する踊りやゲームの練習を行い、期待感を高めることができた。
- ・当日は、両校とも行事に向けて取り組んできた踊りの発表を行った。白根源小学校は運動会に向けて取り組んだ『みなもとソーラン』を披露した。元気な掛け声とキビキビとした力強い動きを、本校の児童もよく見ていた。本校は、学習発表会に向けて取り組んだ『ジャンボリーミッキー』を行った。曲の途中から白根源小学校の児童も踊りに加わり、一緒に楽しく踊ることができた。最後に『ザ・リング』というゲームを行った。白根源小学校の児童と本校の児童がペアになってゲームを行い、距離が縮まったように感じる。



- ・直接交流が2回目ということもあり、少しずつ慣れてきた様子だった。お互いに話をする様子なども見られ、良い交流ができた。

#### ④ 4年生

- ・事前学習では交流校や日時、内容について学習し、ゲームの練習を行った。また、事前に自己紹介カードを交換し、廊下に掲示したことで、当日への期待感を高めることに繋がった。
- ・今年度は、白根源小学校の友達を知ったり、児童同士がかかわったりすることを大きなねらいとした。当日は、グループに分かれて『魔法のじゅうたん』『そりで運ぼうプレゼント』の2つのゲームとダンスを行った。マットに乗った友達の様子を見ながら、マットを引っ張ったり、ボールが落ちないようにそりに見立てた段ボールを二人で引いたり、友達を意識しながら取り組み、両校の児童共に沢山の笑顔が見られた。
- ・白根源小学校の児童からは、折り紙で作ったサンタの帽子、本校の児童からはクリスマスオーナメントのプレゼント交換もあり、和やかな交流となった。



#### ⑤ 5年生

- ・事前学習では、行いたいゲームを児童同士で話し合って決めた。本校は『ボール運びゲーム』に決定し、ゲームの練習や司会進行の練習をして当日への期待感を高めた。
- ・当日は、白根源小学校の児童と本校の児童がペアになって、『ボール運びゲーム』を行った。走って早く運んだり、落とさないように慎重に運んだりして、両校児童が協力してゲームを楽しんだ。チーム戦で行ったこともあり、自然とお互いを応援する姿も見られ、児童同士が主体的にかかわることができた。
- ・白根源小学校の児童が考えてきたクイズを本校の児童が答えるというクイズ大会を行った。白根源小学校の児童が、本校児童に分かりやすいよう、イラストを用いてのクイズを準備してきてくれたこともあり、本校の児童も意欲的に参加し、楽しんでいた。正解すると白根源小学校の児童の「せいかい」のコールに、本校児童が喜び、盛り上がっていた。
- ・最初の自己紹介では緊張していたが、ゲームやクイズで仲良くなり、最後はお互いに「また会おうね」「寂しいな」と別れを惜しむ声も聞かれ、和やかに楽しい交流をすることができた。



#### ⑥ 6年生

- ・今年度は白根源小学校で交流を実施した。事前学習で、白根源小学校には本校から歩いて行けることや白根源小学校の友達がどんな場所で勉強しているかを学習した。当日行うレクリエーションの予行練習をすることで、当日への期待感が高まった。
- ・当日は、白根源小学校の児童が司会進行をし、『障害物リレー』と『手つなぎ鬼』を行った。どちらのゲームも本校と白根源小学校の各児童がペアとなったことで、お互いを意識しながら活動ができた。白根源小学校の児童が率先



して本校の児童にかかわったこともあり、多くの児童が大人を介さないで交流することができた。

## (2) 中学部

### ① 1年生：橿形中学校との交流

- ・ 1学期と2学期にそれぞれ1回ずつ行った。事前学習として、橿形中学校やその周辺について学習し、自己紹介カードのやりとりを行った。橿形中学校と本校の違いや、どんな友達がいるのかを知ることで、交流に向けて期待感を高めることができた。
- ・ 1回目の交流は、本校の体育館で行った。本校が司会進行を務め、生徒一人ひとりが係を担い、それぞれの役割を果たしながら会を進めた。はじめはお互いに緊張する様子が見られたが、各学校に関するクイズを出し合ったり、グループになって『ボール運びゲーム』に取り組んだりしながら打ち解け、楽しい時間を過ごすことができた。2回目の交流は橿形中学校の体育館で行い、橿形中学校の生徒が会を進行した。会のはじめで橿形中学校のキャラクターが登場し、一人ずつ握手をして歓迎してもらい、嬉しそうな姿が見られた。また、各校が合唱を披露したり、ダンスを発表したりして、それぞれ学習してきたことを知る機会となった。
- ・ 2回の交流とも、お互いに楽しむ姿が見られ、充実した時間を過ごすことができた。他の学校の様子を知ったり、様々な友達とのかかわり方を学んだりすることができ、貴重な経験となった。



### ② 2年生：白根御勅使中学校との交流

- ・ 事前学習として自己紹介カードや横断幕等の看板を作ったり、ゲームなどの準備を行ったりし、期待感を高めることができた。
- ・ 1回目は本校体育館において本校生徒主体で進行を行った。学校紹介では、白根御勅使中学校の生徒が応援演技を披露すると本校生徒は普段見られないパフォーマンスを見ることができ、喜んでいました。『協力ボール運びゲーム』では、4人で声をかけ合い、ボールを落とさずに協力して運ぶ姿が見られた。また、本校第二校歌を一緒に踊る様子も見られ、楽しく活動することができた。休憩時間では、生徒同士が笑顔で話をしたり、写真を撮ったりと仲良く過ごす様子も垣間見られ、お互いの生徒たちにとって有意義な交流となった。
- ・ 2回目は白根御勅使中学校の体育館で行い、白根御勅使中学校生徒主体で進めた。各校の発表では、本校はダンスを披露し、白根御勅使中学校は合唱を披露してくれた。その後、チームごとに分かれ、自己紹介をした後、『風船バレー』と『じゃんけん列車』を行った。『風船バレー』では白根御勅使中学校の生徒が本校生徒に風船をパスする様子や風船を落とさないように協力する姿が見られた。『じゃんけん列車』では、両校生徒

が混ざり合って列車を作ったことで触れ合う場面が多くあり、楽しく活動することができた。最後に白根御勅使中学校の生徒から本校生徒にメダルのプレゼントがあり、交流のねらいであるお互いを尊重し合う姿が多く見られた。



### ③ 3年生：早川中学校との交流

- ・早川中学校の1・2年生7名と交流を行った。事前に自己紹介カードを交換し合って気持ちを高めた。
- ・当日は両校混合チームで『風船パタパタゲーム』や『ボウリング』をしたり、お互いの発表を聞き合ったりした。『ボウリング』では、ピンを協力しながら並べたり、ボールを次の友達に渡したり、すべてのピンが倒れるとチーム全員でハイタッチをしたりして喜び合う姿が見られた。発表では、本校生徒が音楽で取り組んできた『語り合おう』を元気に歌い、早川中は、早川町や学校紹介のクイズと、美しいハーモニーの合唱を披露してくれた。休憩時間には、チームの生徒同士、積極的に話をする姿も見られ、お互いのことを知り合う時間をもつことができ、充実した時間を過ごすことができた。



## (3) 高等部

### ① 1年生：農林高校との交流

- ・1回目は農林高校へ行き、田植えの体験をした。初めて田んぼに入り田植えをする生徒もいる中、ペアとなった農林高校の生徒に隣でサポートしてもらい、植え方や泥の中での歩き方を教わりながら田植えをすることができた。事前学習で一緒に活動する生徒の写真を交換していたため、緊張する様子も見られたが、スムーズに会話を弾ませる様子も見られた。5年ぶりに昼食を一緒にとる活動も行い、田んぼの中とはまた違う雰囲気の中で会話を楽しむことができた。
- ・2回目は、本校で行った。5月に植え、獲れた米を持参してもらい脱穀体験と調理活動、会食を行った。前回と同じ生徒と一緒に活動することで、はじめは緊張する様子も見られたが、1回目の交流から名前を覚えている生徒もいて、すぐに打ち解けることができていた。調理活動では農林高校生徒と、本校生徒がペアになり、協力しておにぎりを作ることができた。みんなで育てたお米の味は格別で「おいしい！」の声が沢山飛び交っていた。別れ際にはお互いに笑顔で手を振り合う姿が見られ、改めて直接交流の良さを実感した。

- ・事後学習では、活動を振り返ると共に相手を思い出して、お礼のメッセージを書いた。



## ② 2年生：山梨英和中学校・高校との交流

- ・作品交流では、本校高等部の美術制作や職業（作業学習）で製作した作品を英和高校の学園祭に展示した。英和高校の生徒や来場した方々に観てもらい、感想を送ってもらった。また、英和高校美術部の作品を本校で展示し、高等部で鑑賞を行った。興味津々で作品を眺めていた。
- ・1回目の交流は、英和高校生徒会と聖歌隊の生徒が本校に来て、交流をした。少人数のグループを組み、学校紹介をしたり、一緒にダンスを踊ったりした。
- ・2回目は、英和高校で交流を実施した。英和高校の学校見学では、普段見ることのないチャペルに釘付けになっている生徒が多く、貴重な体験となった。聖歌隊との合同合唱では、本校の生徒が練習してきた「ケサラ」を歌った。昼食は、輪になってお弁当を食べた。同世代の仲間との会話を楽しみ、心の距離が縮まった。2回とも同じ生徒、同じグルーピングで交流を行ったことで、より深いかかわりをする事ができ、有意義な時間を過ごすことができた。
- ・交流後はお互いにメッセージ交換をし、感謝を伝えたり、これからの健闘を祈ったりしてお互いの学校についての理解を深めることができた。



## ③ 1年生～3年生：白根高校との作品交流

- ・12月4日～6日に、本校美術室において、白根高校の美術部、写真部、書道部の作品展示を行った。「色がきれい」「何日も時間をかけて仕上げていてすごい」「大きくてきれいな字がすてきだ」「こんな風に写真をとってみたい」などの感想が聞かれた。短時間ではあったが、同世代の生徒の作品に興味をもって鑑賞し、思ったことや感じたことをコメントにして渡すことができ、お互いに頑張っていることを知る貴重な機会となった。
- ・12月17日～23日に白根高校において本校高等部の美術作品や作業班で作った製品を展示した。白根高校の三者懇談の期間に設定してもらったことで、白根高校生徒やその保護者の方にも見てもらうことができ、感想を書いてもらうこともできた。本校の活動の様子を知ってもらえる良い機会となった。



## 5 成果と課題

### (1) 小学部：白根源小学校との交流

#### ① 1年生

- ・事前に顔写真入りの自己紹介カードを交換して両校の廊下に掲示していたことで、実際に会って交流することに期待する児童も多かった。
- ・本校の授業で行っていた内容を取り入れたこともあり、初めての交流会であったが多くの児童が見通しをもち、落ち着いて活動することができた。
- ・はじめの会や終わりの会で前に出て発表する機会があり、皆の前で発表できたことで自信をもった児童もいた。
- ・学校間交流は、児童の他者理解が芽生えていく良い機会である。両校の行事予定等の調整をしながら、可能であれば、何度か会って慣れ親しむことで、より「友達」としての意識も高まっていくと思う。
- ・初めての学校間交流で、まずはお互いのことを知るという点で成果があった。年次が上がるにつれ、様々な教科で交流ができるようになると、共同学習としてより深まっていくと思う。

#### ② 2年生

- ・対面し、直接交流できたことがとてもよかった。
- ・昨年度のことを覚えている児童も多く、スムーズに交流を進めることができた。白根源小学校の児童は、本校の児童の名前も覚えていて、「去年は〇〇さんと同じグループだった」等の会話もあり、毎年交流することの大切さを感じられる場面であった。
- ・本校の音楽科や生活科の授業で行っていた内容を取り入れたこともあり、落ち着いて参加できる児童が多かった。また、白根源小学校の児童も興味をもって楽しみながら交流できていた。
- ・来年度も、お互いの学校で取り組んでいる内容を中心に直接交流できるとよい。
- ・課題は、交流の時期である。両校の行事に合わせて、適切な時期に実施できるとよい。

#### ③ 3年生

- ・一緒に活動を楽しむことができ、良い成果が得られた。事前学習を丁寧に行ったことで、白根源小学校の児童と活動することが理解できており、スムーズに当日の交流を進めることができた。
- ・お互い交流を重ねることで、顔や名前を覚えられると良い。養生テープに名前を書いて胸のあたりに貼ることも手段の一つとして、覚えられるような活動を取り入れながら、

来年度に繋げていきたい。

- ・白根源小学校は、来年度は運動会実施を5月に検討しているため、交流の時期を検討する必要がある。

#### ④ 4年生

- ・事前に自己紹介カードを作成し、交換することでお互いに交流への期待感が高まった。
- ・事前にゲームを練習したことや学習発表会で行ったダンスを披露したこともあったため、本校の児童が見通しをもって落ち着いて参加することができた。また、役割（マットを引っ張る人とマットに乗る人）を交替することで、白根源小学校の児童も楽しむことができ、本校の児童は普段できない経験ができて良かった。
- ・初めての直接交流であった昨年度は、自己紹介と発表を行った。その過程を経て、今年度はゲームを実施したので自らかかわることができたり、いつもと違う集団であったがリラックスして楽しむことができたりする児童が多かった。年1回ではあるが、積み重ねていくことが大切である。

#### ⑤ 5年生

- ・ゲーム内容を両校の児童がそれぞれ考えたことで、当日だけでなく、事前学習時にもお互いの児童のことを考える良い時間をもつことができた。
- ・活動内容は良かったが、チームによっては、実態差が出てしまった。ただ、負けたチームも楽しそうな様子が見られ、ゲームの勝敗だけでなく、お互いのかかわりを楽しんでいたことは、交流としてとてもよかった。児童の成長を感じた。
- ・クイズでは難しい問題もあったが、白根源小学校の児童が工夫してヒントを出してくれたので、本校児童も楽しく活動できた。
- ・役割を分担して、会の進行をしたり、ゲームの内容を考えたりしたので、お互いに主体的な活動となった。

#### ⑥ 6年生

- ・今年度は白根源小学校に出向いたことで、本校の児童が“わかば支援学校の近くの学校の友達と交流をした”ということ意識できた。また、他校での活動ということもあり、本校では見られないような緊張した様子が見られ、貴重な経験となった。
- ・当日の活動計画は白根源小学校の児童が考えた。事前に本校の行っている自立活動・体育などの実態を伝えることで、本校の児童も参加しやすい活動を考えてもらえた。
- ・当日の進行も白根源小学校の児童が実施した。教員がかかわりすぎないことで、児童同士のかかわりの多い交流となった。
- ・招く交流だけではなく、招かれる交流を行ったことで、お互いの学校のことをよく知るきっかけとなった。今後も小学部最後の交流として、相手校での活動を行うのが良いと思う。

#### ⑦ 小学部全体として

年度初めに両校の教職員が集まり、全体会を行ってから、学年毎に分かれて打ち合わせ

を実施した。前年度の反省を含め、お互いの学校の児童の様子や実態を知ることができた。また、学校行事等の日程を確認しながら日程の調整を行ったり、大まかな活動内容を話し合ったりすることができ、学校間交流を円滑に進めることに繋げることができた。全学年が直接交流を実施し、また、今年度は本校6年生が白根源小学校に徒歩で向かい、白根源小学校の体育館で実施した。他校の児童がどのような場所で学習しているのかを知ることができた良い機会となり、児童にとって、新鮮で刺激のある充実した時間を過ごすことができた。低学年は、本校の授業で取り組んでいる内容を取り入れることで、見通しをもって落ち着いて活動することができ、児童同士が触れ合える内容を設定したことで、白根源小の児童を意識したり、かかわりを自然と受け入れたりする様子が見られた。中学年・高学年は、お互いにゲーム内容を考えることで、学校間交流の当日だけではなく、事前学習としてお互いに両校の児童を意識しながら準備をすることができた。事前学習の時点でも間接的に交流の意義をもって活動することができ、更に充実した学校間交流に繋がったと感じた。両校児童がお互いに意識を高められるよう、教職員間での打ち合わせを密に行いながら、今年度の成果や課題を生かして、来年度も両校の児童が共に学び合える有意義な学校間交流が実施できると良い。

## (2) 中学部

### ① 1年生：楡形中学校との交流

- ・交流会の事前学習を通して、期待感を高めて取り組むことができた。他校の同じ学年の友達とかかわる貴重な経験となり、お互いに充実した時間を過ごすことができた。
- ・1回目の交流では本校が運営を担当し、司会やゲームのルール説明など、一人ひとりが役割を果たし達成感も味わうことができた。
- ・2回目の交流では、設定された活動だけでなく、休み時間にもお互いに声を掛け合う場面が見られ、さらに打ち解けた様子が見られた。
- ・今後も様々な活動を取り入れながら、それぞれが人とのかかわり方を学び、生活に生かしていけるとよい。

### ② 2年生：白根御勅使中学校との交流

- ・事前学習を通し、ねらいを理解し見通しをもって活動に参加することができた。また、自己紹介の作成やゲーム、発表等の準備を入念に行い、期待感を高めることができた。
- ・1回目は本校主体で直接交流をすることができた。実行委員の生徒が各自の仕事を責任もって全うし、白根御勅使中学校と協力しながらゲームするなど、有意義な交流となった。
- ・2回交流をしたことで、2回目は、お互いを意識しながらゲームを行い、生徒同士が協力する場面が多く見られた。ただ、実態差や人数も多いため、生徒同士が必ず1回以上、やり取りができるように活動内容を工夫していきたい。

### ③ 3年生：早川中学校

- ・両校それぞれが主体となって考えたゲームだったため、生徒が主体的になり、一緒に活

動したり、励まし合ったり手伝ったりしながら、両校の生徒がお互いに楽しむことができる内容だった。

- ・早川中学校の生徒が進んで本校の生徒にかかわってくれたことで、生徒同士で楽しい雰囲気や喜びを共有することができてよかった。
- ・1回の交流で目的に迫ることは難しいと感じることもあり、活動を始める前に自己紹介の時間をとっておく等、両校の生徒がかかわる場面をさらに意図的に設定しておけるとよかった。

### (3) 高等部

#### ① 1年生：農林高校との交流

- ・5年ぶりの会食を伴う直接交流だったが、田植えだけでなく、ゆったりとした時間の中で同年代同士の会話がたくさん生まれていて、非常に良い時間であった。
- ・2回とも直接交流ができたので生徒同士の関係が深まる場面があったり、お互いの学校を見学し、知ることができたりと良い学びの機会になった。
- ・田植え後の稲の生長する様子を教えてもらえたこと、本校での米作りの様子を発表できたことは両校にとって良い刺激だった。
- ・手動式脱穀機を使った脱穀体験を取り入れたことで、米作りへの関心が更に深まったと感じた。白米になり、自分たちの口に入るまでにどれだけの手間がかかるのかを理解した上で調理活動ができ、おにぎりを食べられたことは非常によかった。
- ・田植え体験は貴重な体験であり、生徒同士で協力して田植えをするというかわりが深まるため、今後も続けられると良い。
- ・脱穀済みの藁を使用して脱穀体験をしたり、調理活動で簡単なおにぎり作りをしたりしたことで半日での交流ができた。時間は少なかったが、その分、充実した交流となった。

#### ② 2年生：山梨英和中学校・高校との交流

- ・作品交流では、英和高校の学園祭に本校生徒の作った製品や作品を展示し、本校でも英和高校美術部の作品を鑑賞したことでお互いの作品を見ることができる良い機会となった。直接交流する団体との作品交流なので、相手を意識できるような工夫ができると良い。
- ・1回目の全体交流では、本校生徒が作った資料を用いて、本校の学校紹介を行ったり、一緒にダンスを踊ったりしたことで、仲が深まり、2回目の全体交流への期待が高まった。
- ・2回目の全体交流では、1回目と同じ生徒と交流した。本校の生徒は普段見ることのない場所を見て興味関心を深めたり、合同合唱を通して一緒に活動することの楽しさを感じられたりしたことで、お互いの理解を深めることができた。

#### ③ 白根高校との交流（作品交流）

- ・間接的な交流ではあるが、毎年続けているので両校ともにお互いの作品を楽しみにしている生徒も多い。

- ・同世代の生徒の作品を鑑賞し、お互いの学校に興味関心をもったり、お互いの存在を知ることができたりする貴重な機会となった。
- ・鑑賞した感想をお互いに伝え合ったが、今後はお互いの様子もわかるよう、動画や写真等で制作および鑑賞している様子がわかるよう工夫ができると良い。

## Ⅳ 地域における交流活動（地域交流）

### 1 目 的

#### （１）全体

本校児童生徒と地域社会の人々とのふれあいを通し、互いを理解し、共に学ぶ。

#### （２）小学部

- ①地域の人々とのかかわりを通して生活経験を広げる。
- ②地域の人々と一緒に楽しく活動する。

#### （３）中学部

地域の人々とのふれあいを通して互いを理解し、伝統や文化などにふれる。

#### （４）高等部

- ①活動を通して、地域への関心を高める。
- ②地域の方々の考え方にふれ、互いの理解を深める。

#### （５）寄宿舎

- ①舎生の実態を考慮した内容や方法を検討し、相互理解を深められるようにする。
- ②地域社会の人々を尊重する気持ちを育て、社会参加への意識を高める。

### 2 交流先

| 学 部 | 地域交流先                      |
|-----|----------------------------|
| 小学部 | 南アルプス市社会福祉協議会の関係団体         |
| 中学部 | 南アルプス市社会福祉協議会の関係団体         |
| 高等部 | 南アルプス市社会福祉協議会の関係団体         |
| 寄宿舎 | 山梨県立白根高等学校奉仕部<br>源地区自治会連合会 |

### 3 実施状況

| 学部  | 時期        | 地域交流先              | 実施学年 | 指導区分 | 内 容      |
|-----|-----------|--------------------|------|------|----------|
| 小   | 1 2 月 4 日 | 南アルプス市社会福祉協議会の関係団体 | 1    | 生活   | スイーツ作り   |
|     | 1 0 月 1 日 |                    | 2    |      | わらべ歌遊び   |
| 中   | 9 月 9 日   | 南アルプス市社会福祉協議会の関係団体 | 3    | 総合   | 笑いヨガ     |
| 高   | 1 2 月 6 日 | 南アルプス市社会福祉協議会の関係団体 | 3    | 社会   | 災害防災・甲州弁 |
| 寄宿舎 | 6 月 5 日   | 山梨県立白根高校奉仕部        | 舎生   | 余暇活動 | レク・歓談    |
|     | 1 0 月 9 日 |                    |      | 余暇活動 | レク・歓談    |

|  |        |           |  |      |                |
|--|--------|-----------|--|------|----------------|
|  | 11月11日 | 源地区自治会連合会 |  | 余暇活動 | 寄宿舎案内<br>調理・歓談 |
|--|--------|-----------|--|------|----------------|

#### 4 地域交流の様子

##### (1) 小学部：南アルプス市社会福祉協議会

- ・地域のボランティア団体の方に来ていただき、1年生は、「生きがいボランティア」さん、2年生は、わらべうたの会「ゆうなの木」さんと交流をした。1年生は学校で収穫したさつまいもを使い、ボランティアの方と話をしたり作り方を教えてもらったりしながら、美味しいスイートポテトを作ることができた。2年生は、いろいろな手遊びや布を使ったわらべうたを教えてもらった。どの児童も地域の方と、笑顔で楽しく活動することができた。



##### (2) 中学部：南アルプス市社会福祉協議会

- ・講師の杉山久子さんをお迎えし、「笑いヨガ」に取り組んだ。昨年度も交流していただいたことで、杉山さんが本校生徒の実態を理解してくださり、生徒の実態に合った内容を考えてきてくださった。
- ・事前学習では、杉山さんの掛け声や動きの手本を撮影しておいた動画に合わせて練習したことで、見通しを持つことができた。
- ・当日は、杉山さんが生徒の反応を見ながら活動を展開してくださり、多くの生徒が見本をよく見て手拍子や笑う仕草等を真似して楽しんでいた。生徒は杉山さんの手本を真似して、拍手しながら笑い声を出したり、スカーフを使って体を動かしたり、歩きながら出会った相手と握手やハイタッチを交わして触れ合ったりするなど、様々な活動に挑戦し、笑顔で楽しく交流することができた。普段集団の動きに入れない生徒も、活動に参加したり、みんなの様子を見て楽しんだり、意欲的に参加することができた。



##### (3) 高等部：南アルプス市社会福祉協議会

- ・八田地区災害防災ボランティアの方2名が来校し、防災クイズやたのしい甲州弁講座、防災グッズの展示などの内容で交流した。防災や甲州弁のクイズでは、丁寧に準備をしていただき、生徒たちが興味をもって参加していた。また、生徒とやり取りしながらお

話をしてくださり、地域の方から学ぶ貴重な機会になった。防災グッズは、短時間であったが手に取ってじっくり見たり、簡易担架に乗ったりすることができた生徒もいた。100円ショップで購入できるグッズもあり、「用意しよう」という気持ちになった生徒もいた。



#### (4) 寄宿舍

##### ①白根高校奉仕部

- ・直接交流が再開して2年目、年2回の交流を実施した。いずれも白根高校奉仕部26名が本校に来校し、交流を実施した。事前に自己紹介カードを交換し合い、それをもとにグループ分けをして2回とも同じグループで活動できるようにした。
- ・1回目は、本校寄宿舍も生徒が活動計画を立てた。『自己紹介ビンゴ』を顔合わせのスタートに行い、次に『しっぽ取りゲーム』をした。体を動かし声を掛け合うゲームなのではじめの緊張感が解放され距離を縮めるきっかけになった。最後の『おやつ・歓談』ではおしゃべりを楽しみさらにかかわりが深まった。
- ・2回目は、白根高校奉仕部が活動計画を立てた。『じゃんけん列車』と『ハリケーン(棒運びリレー)』、『おやつ・歓談』を行った。2回目ということや舎生が理解しやすい内容のレクリエーションだったこともあり、のびのびと活動する姿が見られた。白根高校の生徒が舎生に積極的に手を差し伸べ寄り添う姿勢があったので、舎生もそれに笑顔で応えるなど、生徒同士が主体的にかかわり合う姿があり有意義な時間を共有できた。



##### ②源地区自治会連合会

- ・9名の源地区自治会連合会の方々が本校に来校し、交流をした。コロナ禍と昨年の中止を経て6年ぶりの交流だった。事前学習として、寄宿舍のリーダーたちを中心に細かく役割分担をして準備や練習を重ねた。
- ・当日は、源地区の方々に寄宿舍を知っていただくために、舎生のナレーションによる生活の様子をビデオで観てもらい、舎生による舎内案内を行った。次にグループに分かれ、『スイートポテト作り・歓談』を行った。源地区の方々がとても気さくに舎生に話

しかけてくれたり、優しく手を取り調理と一緒に取り組んでくれたりと、和やかな雰囲気を醸し出してくれた。一方、舎生も一生懸命に自分の役割に取り組みながらも、源地区の方々の優しいかわりに包まれて笑顔で楽しむことができた。



## 5 成果と課題

### (1) 小学部：南アルプス市社会福祉協議会

昨年度に引き続き、南アルプス市社会福祉協議会に登録している地域のボランティア団体の方に来校していただき交流をした。1年生は調理学習を一緒に行うボランティア団体の方を紹介していただいた。事前の打ち合わせで児童の実態や学習内容などを伝えながら、様々なアイデアをいただき、交流内容を決めていくことができた。当日も手書きのレシピボードで説明をしてくださったり、絵本を読んでいただいたりしたことで、落ち着いて楽しく活動できる児童が多かった。2年生は昨年度と同じボランティア団体の方と交流をした。ボランティア団体の方が慣れていて、最初から児童の気持ちをつかんで楽しい内容で進めてくださった。初めは耳を塞いでいた児童が、すぐに慣れて活動を楽しんでいた様子も見られた。教えていただいたわらべうたは、日常の中にも取り入れていきたいと思う。今後も南アルプス市社会福祉協議会の方と連携しながら、児童の実態や学習内容に即した内容で地域の方々と交流できると良い。

### (2) 中学部：南アルプス市社会福祉協議会

初めての地域交流だったが、「笑いヨガ」の内容から、笑顔で活動に参加できる生徒が多く、楽しい交流を実施することができた。また、活動内容を事前に動画で見ておくことで、スムーズに活動することができてよかった。

### (3) 高等部：南アルプス市社会福祉協議会

講師に八田地区防災災害ボランティアの2名に来ていただいた。主な内容が「防災」と「甲州弁」であり、「緊張と緩和」という構成で生徒たちが飽きずに聞くことができた。また、「地震」や「SDGs」については、これまでの学習で取り組んできた内容だったので、自分たちが調べてきたことを再確認する良い機会でもあった。甲州弁は、知っている方言、知らなかった方言もあり、興味をもちながら楽しく聞くことができた。交流会で早速使ってみる生徒も何人かいるなど、和やかな雰囲気になった。今回は、全体に向けた話が中心であったが、小グループに分かれて、一緒に防災グッズを使って体験したり、被災地でのボランティア活動の話を聞いたりする時間があると、交流としての意義があったのではないかと思われる。今後も地域交流のあり方を検討していきたい。

#### (4) 寄宿舍

##### ①白根高校奉仕部

事前に自己紹介カードを交換し、グループ分けをした。かかわりが深められるように2回とも同じグループでレクリエーションや歓談を行ったことで、生徒がお互いのことをよく知るようになり、2回目の交流では再会を心待ちにし、会うと同時に会話が広がり肩を寄せ合う姿が見られた。レクリエーションの内容も簡単に全員で楽しめるものだったので2回とも楽しい雰囲気の中、生き生きとした生徒の笑顔が印象的だった。

##### ②源地区自治会連合会

6年ぶりの開催で、源地区の方々は、戸惑われた様子があった。しかし、本校寄宿舍の企画で、源地区の方々に寄宿舍を知っていただく、舎生はおもてなしの心を学ぶという目的のもと寄宿舍主導で準備を進めることをご理解いただき実施した。当日は、源地区の方々がとても上手に優しく舎生にかかわってくださり、舎生も緊張した面持ちから次第に穏やかな笑顔に変わり、明るい雰囲気の中、大変充実した楽しい交流になった。双方共に来年度以降も交流を続けていきたいという感想が出された。交流のもち方や内容については、双方で様子をみながら検討していくことになった。

## V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

### 1 目 的

- (1) 居住する地域の同年代の児童生徒と共に学び、好ましい人間関係を築く。
- (2) 交流及び共同学習を通して、地域の児童生徒やその保護者、教職員の本校児童生徒への理解が深まるようにする。
- (3) 将来居住する地域の一員として豊かに生活していくための基礎をつくる。

### 2 実施児童・生徒

| 学部・学年 | 交流及び共同学習先校名        | 回数 | 実施内容                                                                                                                                                       |
|-------|--------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学部1年 | 南アルプス市立<br>白根百田小学校 | 1  | 10月に実施。音楽の授業に参加した。リズム遊びの『貨物列車』の曲に合わせて交流校の児童とつながり、教室を何週も歩き回ってじゃんけんをし、一緒に楽しむことができた。みんなから手を引かれたり背中を優しく押してもらったりしてかかわることがとても嬉しかったようで、笑顔を浮かべながら楽しく活動に参加することができた。 |

|         |                    |   |                                                                                                                                                                                                                   |
|---------|--------------------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学部 1 年 | 南アルプス市立<br>豊小学校    | 2 | <p>1 1 月に 1 回実施。音楽の授業に参加した。居住地校児童のピアノ演奏や歌を聴かせてもらった後に、『幸せなら手をたたこう』の歌に合わせてタンバリンや鈴を鳴らして参加した。学校でも行っていた題材だったこともあり、演奏に参加できた。中休みの自由時間では校庭に出て、一緒に遊んだ。走ることが好きな本児に合わせてみんなが一緒に走ってくれ、笑顔があふれていた。</p> <p>1 月に 2 回目の交流を実施予定。</p> |
| 小学部 1 年 | 南アルプス市立<br>櫛形西小学校  | 2 | <p>1 0 月に 1 回実施。音楽、図工、体育の授業に参加した。音楽では歌やふれあい遊びで友達の声掛けや誘いに応じて参加できた。図工の工作ではやり方を友達に教えてもらった後は自分で取り組み、完成させることができた。体育では全員の迫力ある踊りを見学した。中休みの自由時間にジャンケン遊びをしたことでジャンケンを覚えることができた。</p> <p>1 月に 2 回目の交流を実施予定。</p>               |
| 小学部 1 年 | 中央市立田富北小学校         | 2 | <p>1 0 月に 1 回実施。音楽の授業に参加した。手遊びやリトミックでは、友達からのふれあいを笑顔で受け入れたり、タッチに手を出して応じたりすることができた。リズム打ちでのしりとりは答えることが難しかったが、周囲の児童が「すずめ」など教えてくれ、良い雰囲気で行うことができた。</p> <p>2 月に 2 回目の交流を実施予定。</p>                                        |
| 小学部 1 年 | 南アルプス市立<br>白根飯野小学校 | 2 | <p>1 1 月に 1 回実施。昼休みの時間、掃除、音楽の授業に参加した。昼休みは同じ保育園だった多くの友達と校庭で走り回って遊んだ。音楽の授業では、身体表現の『じゃんけんぽん』『セブンステップス』で、学級のほとんどの児童と一緒に活動した。授業の最後には、自ら挙手し、感想を発表することができた。</p> <p>2 月に 2 回目の交流を実施予定。</p>                                |
| 小学部 2 年 | 南アルプス市立<br>白根東小学校  | 2 | <p>1 1 月に 1 回実施。音楽の授業に参加した。歌唱『あのね、のねずみは』では、教師の見本を真似して声を出すことができた。手遊びや身体表現では、一緒に活動することが難し</p>                                                                                                                       |

|       |                   |   |                                                                                                                               |
|-------|-------------------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |                   |   | <p>かったが、『なべなべそこぬけ』は友達と一緒にすることができた。</p> <p>3学期に2回目の交流を実施予定。</p>                                                                |
| 小学部3年 | 南アルプス市立<br>白根東小学校 | 1 | <p>10月に実施。自己紹介では、事前に用意した内容を友達の前でしっかりと発表することができた。移動時には友達に連れられて、一緒に移動することができた。理科の『太陽と影』の学習に参加。校庭で用具等の影を探したり、自分の影を確認したりした。</p>   |
| 小学部4年 | 昭和町立押原小学校         | 1 | <p>12月に実施。図工の授業に参加した。得意な紙ちぎりで一緒にちぎり絵を作った。ちぎった紙を保護者に貼ってもらい作品を完成させることができた。活動後は、ハイタッチをしたり、一緒に駆けまわったりしてかわりをもつことができた。</p>          |
| 小学部5年 | 甲斐市立双葉西小学校        | 1 | <p>9月に実施。図工と社会の授業に参加した。図工では、交流校の児童に声をかけられながら、春夏秋冬をテーマに飾りを作ることができた。社会では、トヨタのオンライン授業を受け、2択クイズを楽しみ、正解すると喜ぶ姿が見られた。</p>            |
| 小学部6年 | 南アルプス市立豊小学校       | 1 | <p>9月に実施。お互いの近況や学習発表を行い、そのあと体育館に移動し、レクリエーション活動でボッチャを行った。児童中心で準備や進行を行い、豊小の児童と交流できた。</p>                                        |
| 小学部6年 | 甲斐市立双葉東小学校        | 2 | <p>7月・12月に実施。各学期末レクリエーションに参加した。フルーツバスケットなどのゲームを、交流校の児童と一緒に取り組むことができた。休み時間には、交流校の児童が積極的に声を掛けてくれ、お互いを意識し合いながら楽しく活動することができた。</p> |
| 中学部2年 | 昭和町立押原中学校         | 0 | <p>生徒の体調不良により未実施。</p>                                                                                                         |

### 3 成果と課題

今年度は、体調不良により1名未実施ではあったが、その他は予定通り直接交流をすることができてよかった。新規の児童が多く、初めての場所や初めての教員、友達の環境に緊張や戸惑う姿も見られたが、交流相手校の児童のかかわりによって、計画された時間の中で徐々に笑顔が見られるようになり、スムーズに参加することができる児童が多かった。昨年度までの積み重ねにより、スムーズに授業に参加できたり、交流相手校の児童も積極的にかかわってくれたりすることも多く、年に1回または2回の交流の中でも、互いに意

識し合い、昨年度よりも更に深いかかわりをすることができた。

一方、学年が上がるにつれ、交流相手校の教科の授業に入ることが難しくなるという課題も出てきている。教科の授業に入ることが難しい場合は、交流の日のために授業を組み立ててくれたり、レクリエーションを計画してくれたりと、交流相手校に普段とは違う授業を考えてもらったことも少なくない。交流の内容や参加方法などについて両校で打ち合わせを丁寧に行っていき、両校にとって充実した時間となるようにしていきたい。また、年に1、2回の数時間の交流になるため、実態に応じて、直接交流の他にも、手紙や写真を交換するなど工夫し、お互いを理解することにも繋げていけると良い。引き続き、児童の居住する地域と繋がっていくためにも、継続して交流を積み重ねていきたい。

## I 学校概要

## 1 学校の概要

|             |                             |
|-------------|-----------------------------|
| 学 校 名       | わかば支援学校ふじかわ分校               |
| 所 在 地       | 〒400-0601 南巨摩郡富士川町鰐沢5673-12 |
| 電話番号        | 0556-27-0067                |
| 校 長 名       | 小林 勝                        |
| 交流及び共同学習主任名 | 山本 千峰                       |

## 2 学校教育目標

たくましい力 ゆたかな心

## II 交流及び共同学習推進会議の経過

## 1 交流及び共同学習推進会議構成員

| No. | 所 属・職 名                   | 備 考 |
|-----|---------------------------|-----|
| 1   | 富士川町教育委員会・教育長             |     |
| 2   | 富士川町社会福祉協議会・事務局長          |     |
| 3   | 富士川町中部区・区長                |     |
| 4   | 下部地区民生委員児童福祉部・会長          | 会長  |
| 5   | 鰐沢奉仕活動の会・会長               |     |
| 6   | 中部区活性化プロジェクト・代表           |     |
| 7   | 社会福祉法人くにみ会 ゆあーずあんどゆうず・施設長 | 副会長 |
| 8   | 富士川町立鰐沢中学校・校長             |     |
| 9   | 富士川町立鰐沢小学校・校長             |     |
| 10  | わかば支援学校・校長                |     |
| 11  | わかば支援学校ふじかわ分校・副校長         |     |

## 2 経過

| 開催月日  | 推 進 会 議 の 内 容              |
|-------|----------------------------|
| 5月10日 | 運営要綱、役員選出、事業計画、意見交換        |
| 2月14日 | 本年度の交流及び共同学習について報告、来年度に向けて |

### Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

#### 1 目 的

- (1) 様々な活動を通して、より豊かな人間性を養い、協調性や社会性を育てる。
- (2) 互いに仲間としての意識をもち、共に学ぶ楽しさを味わうとともにお互いを尊重しあう態度を養う。

#### 2 提携校

| 学 部 | 交流及び共同学習提携校 |
|-----|-------------|
| 小学部 | 富士川町立鰐沢小学校  |
| 中学部 | 富士川町立鰐沢中学校  |

#### 3 実施状況

| 学部 | 時期     | 提携校            | 実施学年 | 指導区分 | 内容            |
|----|--------|----------------|------|------|---------------|
| 小  | 6月12日  | 鰐沢小学校<br>(5学年) | 全学年  | 特別活動 | ゲーム           |
|    | 11月27日 |                |      | 特別活動 | 各校の発表<br>ゲーム  |
| 中  | 6月21日  | 鰐沢中学校<br>(1学年) | 全学年  | 体育   | ボッチャ          |
|    | 11月13日 |                |      | 体育   | 部活動体験<br>ボッチャ |

#### 4 学校間交流の様子

##### (1) 小学部

鰐沢小学校5年生14名と2回、直接交流を行った。直接交流に先立ち、お互いに自己紹介カードを交換してそれぞれ掲示した。

1回目の交流は、ふじかわ分校に鰐沢小児童が来校し、分校児童にとってなじみのある題材を設定して交流を行った。はじめの会では、互いに緊張していたものの、「各校の紹介」で鰐沢小はリコーダー演奏、分校は校歌を披露した。その後、3つの班に分かれて自己紹介をし、班で活動を行った。一つ目のゲーム「じてんしゃでゴー！」は、分校児童が休み時間に楽しんでいる二人



乗りの大型三輪車を使用したもので、班対抗でリレーを行った。鰐沢小の児童は大型三輪車に乗り慣れていないこともあり操作に四苦八苦しつつリレーを楽しんだ。次のゲーム「ふわふわ風船キャッチ」は、送風機で一気に放出された色とりどりの風船を、ホール壁に付けられた大きな袋に色ごとに投入した。鰐沢小の児童は風船を取りに走ったり、風船を持ったままどこに入れようかと迷っている分校の児童を誘導したりと、楽しみながら交流することができた。最後に全員で分校の校舎内を案内し、手をつないで歩いたり自分の教室を紹介したりと自然にかかわることができた。

2回目は分校児童が鰺沢小学校へ行き、鰺沢小学校の児童が企画したゲームを行った。「各校の発表」では、鰺沢小学校の児童は運動会で発表した「ロックソーラン」を、分校の児童は、分校まつりで取り組んだ「お化けの花火音頭」をそれぞれ披露し、お互いの発表を真剣に見合っていた。その後、鰺沢小学校の児童が企画、運営し内容を工夫してくれた、「もうじゅうがりにいこうよ」「ボーリング」「宝をさがせ玉入れゲーム」の3つのゲームを行った。最初に、指定された人数のグループを作る「もうじゅうがりにいこうよ」でウォーミングアップをし、「ボーリング」は大小数種類のボールと3段階の距離が設定されており、鰺沢小の児童、分校の児童ともにピンを倒すことを楽しめた。「宝をさがせ玉入れゲーム」はカラーコーンや三角マーカーの下に玉入れの玉が隠され、それを見つけながら玉入れをするという、勝敗を競わずゲームそのものを楽しめる工夫がされていた。また、1回目の交流と同じ3つ



の班に分かれ、両校とも同じメンバーだったためリラックスして取り組むことができた。終わりの会では、鰺沢小学校の児童から分校児童一人ひとりに手紙が渡され、児童たちは大変喜んでいました。

## (2) 中学部

鰺沢中学校1年生15名と交流を行った。鰺沢中学校が令和7年の4月に増穂中学校との合併を控えているため、鰺沢中学校としての交流は今年が最後となる。

1回目はふじかわ分校で活動し、3つの班に分かれて障がい者スポーツのボッチャを行った。一つの班に鰺沢中学校とふじかわ分校の生徒が混ざるように班を作り、3班によるリーグ戦とした。分校の生徒たちは体育で取り組んでいることもあり、ボッチャボールの特徴をつかみながら投げ方を工夫していた。ボッチャボールは独特の重さがあり、投げ方によって玉の勢いをコントロールすることができるが、慣れないと難しいところがある。上手なボールさばきに中学生からも歓声が上がリ、ゲームは盛り上がり楽しい交流となった。



2回目は、鰺沢中学校で行った。中学校を訪問することが初めてということもあり、最初に鰺沢中学校の部活動の体験を行った。その後、中学校が町の祭りでも発表したかじかざわ囃子を発表し、ふじかわ分校は歌を披露した。その後は、前回同様ボッチャを行った。「Aさん上手」など声もかかり和気あいあいとした交流となった。



## 5 成果と課題

### (1) 小学部

鰯沢小学校では、例年5年生が本校との交流を行うことが通例となっている。本校が小規模校のため、同学年の児童と毎年交流を行い学年進行とともに理解を深めていくという形はとれていないが、鰯沢小と分校の人数比は交流しやすいものになっている。また、鰯沢小学校の児童は5年生という発達段階で交流を行うことで分校児童の行動を理解したり対応したりといったことができていると思われる。そのため、低学年同士の屈託のないかわりは経験できないが、ある程度大人の対応をしてくれるので、本校児童も安心してかかわることができている。

2回目の交流会では、鰯沢小学校の児童がゲームの企画運営を行った。1回目に楽しく交流できたことにより鰯沢小学校の児童が分校の児童の様子を理解し、ゲームの内容を工夫したり様々な配慮をしてくれ、分校の児童たちも楽しく交流することができた。

ゲームや発表など設定された交流を行うとともに、ゲームとゲームの間や校内を案内している時間などに自然な交流をすることができ、交流を深めることができた。また、2回の交流会とも、別れ際にはお互い離れ難い様子が見られ、両校の児童にとって充実した交流が行えたと感じた。今後も、今まで同様に交流を深めていきたい。

### (2) 中学部

ボッチャは、誰もが楽しめるスポーツということでお互いを尊重しあいながら、対等な立場で交流及び共同学習を行うことができた。生涯スポーツなど、誰もができるスポーツは今後もお互いを尊重しあいながら交流するために有効な手段であることが分かった。

来年度、富士川中学校となり規模も大きくなり、中学校の場所も変わる事となるため、交流及び共同学習の時期やどのように実施するかなどは未定である。富士川中学校の学校内が落ち着き交流及び共同学習の再開が待たれる。

## IV 地域における交流活動（地域交流）

### 1 目 的

- (1) 地域の方々に障害のある児童生徒の様子や本校の教育活動に理解を深めてもらう。
- (2) 地域の方々との交流活動を通じ、児童生徒が積極的に社会と関わろうとする力を育む。
- (3) 児童生徒の生活経験を広め地域の方々との豊かな関係を築く。

### 2 交流先

| 学 部 | 地 域 交 流 先                  |
|-----|----------------------------|
| 小学部 | 中部区活性化プロジェクト、下部地区民生委員児童福祉部 |
| 中学部 | 鰯沢奉仕活動の会、下部地区民生委員児童福祉部     |

### 3 実施状況

| 学部 | 月 日   | 地域交流先         | 実施学年 | 教科等区分                    | 実施内容                              |
|----|-------|---------------|------|--------------------------|-----------------------------------|
| 小  | 5月28日 | 中部区活性化プロジェクト  | 全学年  | 生活単元学習                   | さつまいもの苗植え                         |
|    | 11月7日 |               |      |                          | さつまいものホットケーキづくり                   |
| 小中 | 10月9日 | 下部地区民生委員児童福祉部 | 全学年  | 遊びの指導<br>(小) 特別活動<br>(中) | 「昔の遊び」<br>竹馬、お手玉、紙鉄砲、紙飛行機、ブンブンこま等 |
|    | 11月2日 | 提携3団体         | 全学年  | 特別活動                     | 分校まつり参観                           |
| 中  | 12月4日 | 鰺沢奉仕活動の会      | 全学年  | 生活単元学習                   | 郷土料理<br>「みみ」づくり                   |

### 4 地域交流の様子

#### (1) 中部区活性化プロジェクトとの交流

今年度はさつまいもの苗植えと収穫を行う予定であったが、日程的に収穫の時期に実施できなかったため、1回目の交流会で苗植えをし、適当な時期に児童が収穫したさつまいもを使って2回目の交流会ではさつまいものホットケーキ作りを行った。また、昨年は中部区活性化プロジェクトの畑でさつまいも掘り体験をさせていただいたが、今年度は分校の農園でさつまいもを栽培した。

1回目の交流会では、苗植えの方法を教えていただいた。久しぶりに会ったので、最初は恥ずかしそうにしていた児童もいたが、一緒に活動することで打ち解け、苗植え後のお茶タイムは和気あいあいとした雰囲気の中で活動終了後も離れ難い様子だった。

2回目の交流会は、屋外での焼き芋という案もあったが、天候に左右されない屋内活動で計画した。どの児童も、ホットケーキ作りは何回か経験しており見通しがもちやすい活動である。そこに、蒸かしたさつまいもをつぶして入れるというひと手間が加わったものだが、



中部区活性化プロジェクトの方とともに楽しく取り組むことができた。また、学校の様子などを話しながら会食することにより和やかな交流ができた。



#### (2) 下部地区民生委員児童福祉部との交流

6人に来校いただき、昨年同様に手遊び歌や昔の遊びを一緒に楽しんだ。手遊び歌は昔ながらのわらべ歌ではなく、分校小学部の児童が音楽の授業でなじみのある「おつきみべったん」を行った。中学部の生徒、下部地区民生委員の方々とともに楽しく触れ合うことが

できた。



分校のホールに、下部地区民生委員の方々が用意してくださった竹馬、紙飛行機、紙鉄砲、お手玉、ブンブンごま、けん玉、竹とんぼのコーナーを用意した。分校の児童生徒は思い思いのコーナーに行き、民生委員の方に遊び方を教えていただきながら竹とんぼを飛ばしたり、委員の方の出す紙鉄砲の音に驚きつつ自分も同じような大きな音を出したいと何度もチャレンジしたり、また、竹馬の補助をしていたりして良い表情で楽しんでた。

最後に紙飛行機飛ばし大会を委員の方の進行で行い、その上手な進行もあって、大変盛り上がった。また、中学部の生徒が版画で作成したカレンダーを皆さんにプレゼントし、大変喜んでいただいた。

### (3) 鰍沢奉仕活動の会

鰍沢奉仕活動の会の方5名と中学部生徒7名で、鰍沢の十谷地区に伝わる郷土料理の「みみ」づくりを行った。生徒は事前に、「みみ」の作り方を学校で練習して臨んだ。クラスごと



に奉仕活動の会の方から、野菜の切り方やみみの作り方を教わり一緒に活動した。事前に練習していたので、包丁やピーラーなども安全に使うことができ、奉仕活動の会の方から褒められ感心される場面もあり、和気あいあいとした雰囲気の中での活動であった。昨



年度同様農園にかまどを設置し、煮炊きを行った。昨年度のことを奉仕活動の会の方が覚えていて、ガス火よりもおいしいとかまどでの活動を喜んでもらえた。でき上がったみみは、



全員で会食し、小学部の児童にもふるまった。

5名とも昨年度も参加してくださっていたので、2年生になった生徒の成長を調理の様子やお礼の言葉を言うのを聞いて感じてくださり、喜んでいただけた。



## 5 成果と課題

### (1) 中部区活性化プロジェクトとの交流

中部区活性化プロジェクトがさつまいもを基にした活動も行っていることから、長年さつまいも栽培を軸とした交流を行ってきた。しかし、苗植え、収穫、焼き芋など、どれも天候に左右されるため、過去には実施できない年もあった。今年度は2回目の交流会のみ全天候型の交流内容を設定し、天候のことを気にせず準備や交流会が実施できてよかった。一方で、活性化プロジェクトがさつまいも関係の活動を終了したこともあり、さつまいもにかかわらない交流内容を検討しても良いと考える。

また、活性化プロジェクトの中心メンバーの高齢化もあり、活動が年々難しくなってきたこともあり、今年度いっぱい活性化プロジェクトとの地域交流は終了となった。しかし、学校のすぐ近くにお住いの方々なので、今後も、地域交流という形にこだわらず、様々な形でかかわりをもち続けたい。

なお、来年度以降の小学部の地域交流の相手は別の団体に依頼する予定である。

### (2) 下部地区民生委員児童福祉部との交流

昨年に引き続き、昔の遊びを体験させていただいた。竹馬は地域の小学校から借用し、紙鉄砲や紙飛行機は事前に作成して持ってきていただき大変ありがたかった。日ごろ児童生徒とともに過ごす教員自身も、子供時代にお手玉やけん玉、竹馬にはなじみのない世代であり、児童生徒たちはゲームやYouTubeなどで遊ぶことが多いので、昔ながらの遊びを紹介していただき、たっぷり楽しむことができた。今後も、同様の交流会を行ってけると良いと感じている。

また、会を開催するにあたり、身延町役場の方が連絡調整や当日の送迎を行ってくれたため、スムーズな交流が行えた。

### (3) 鯉沢奉仕活動の会との交流

昨年同様に郷土料理「みみ」の調理を行った。継続的に郷土料理と一緒に調理して食べることで、郷土に対する関心を深め、地域の方との絆を深めることができると考える。地域の方々も生徒に教えると同時に先輩から後輩にみみの生地ของ固さや成型のコツなどを伝えていた。地域交流をすることで、地域の伝統も守ることにつながっている。学校内でも地域交流を契機に安全に調理をすること、指示を聞きながら正しい道具の使い方を学習することができた。また、昨年と同じメンバーと交流することができ、継続的にかかわりをもつことの大切さを実感した。

## V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

### 1 目的

- (1) 居住している地域の小学校・中学校の児童生徒とともに学び、理解を深める。
- (2) 居住している地域の方々への理解や交流及び共同学習を促すきっかけとしていく。
- (3) 学校卒業後の地域での生活を円滑にすすめられるように地域の人間関係を継続し、深める。

## 2 実施状況

| 学部・学年   | 交流及び共同学習先校名 | 回数 | 実施（活動）内容                                 |
|---------|-------------|----|------------------------------------------|
| 小学部 3 年 | 市川三郷町立市川小学校 | 2  | 1 回目 学校探検、音楽（歌唱、楽器）<br>2 回目 自立活動（仲良く遊ぼう） |

## 3 成果と課題

### （1）小学部

#### ① 3 年生

今年度 3 年目となる。大きな集団への参加がまだ難しいという昨年度の反省から、今年度は特別支援学級との交流をメインに行った。1 回目はスムーズに参加できるようにとの配慮と保護者の希望により、本児の兄の在籍する自閉症・情緒障害特別支援学級に最初に行き、兄とその級友とともに学校探検を行った。その流れで 3 年 1 組（児童 20 名）の教室に入る時、最初は少し抵抗があったが兄や保護者の促しで入ることができ、音楽時の授業にも参加することができた。

2 回目は、知的障害特別支援学級の児童 2 名（1 年生と 3 年生）と交流した。この交流で何度も顔を合わせていたり、同じ放課後等デイサービスを利用していたりと、顔なじみの友だちであるため、兄がいなくても比較的スムーズに教室に入ることができ、果物模型でおまごとをしたり箱積みをしたりして仲良く遊ぶことができた。

本児童は、学校での交流会においても最初の一步を躊躇しがちである。慣れない場所で、大勢の児童の中に入るのは抵抗を感じられると思う。来年度も、特別支援学級を軸にしつつ大きな集団とも交流できると良いと思われる。

## I 学校概要

## 1 学校の概要

|             |                              |
|-------------|------------------------------|
| 学 校 名       | 山梨県立やまびこ支援学校                 |
| 所 在 地       | 〒409-0618 山梨県大月市猿橋町桂台三丁目31-1 |
| 電話番号        | 0554-23-1943                 |
| 校 長 名       | 小嶋 加津美                       |
| 交流及び共同学習主任名 | 山口 清美                        |

## 2 学校教育目標

自立と社会参加を目指すために個に応じた指導の充実を図り、家庭や地域と連携して主体性をもって生きる心豊かな人間を育てる。

## II 交流及び共同学習推進会議の経過

## 1 交流及び共同学習推進会議構成員

| No. | 所 属・職 名                 | 備 考 |
|-----|-------------------------|-----|
| 1   | 大月市立猿橋小学校・校長            |     |
| 2   | 大月市立猿橋中学校・校長            | 委員長 |
| 3   | 山梨県立上野原高等学校・校長          |     |
| 4   | 山梨県立都留高等学校・校長           |     |
| 5   | 美容室「Happiness」・代表       |     |
| 6   | 大月市デイサービスセンター「やまゆり」・施設長 |     |
| 7   | 大月市保健活動推進員会「オオツキッチン」・会長 |     |
| 8   | 大月商店街協同組合・理事長           |     |
| 9   | 山梨県立やまびこ支援学校・校長         |     |

## 2 年間計画

| 開催時期  | 内 容                             |
|-------|---------------------------------|
| 5月29日 | 推進会議委員の委嘱、委員長の選出、令和6年度の実施計画について |
| 1月24日 | 令和6年度交流及び共同学習の実施報告、令和7年度の計画について |

## III 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

## 1 目 的

交流校と本校の児童生徒が共同学習やふれあい活動を通して互いに理解し合い、人間関係の形成や社会参加等の力を身に付ける。

(1) 小学部

直接あるいは間接的な交流を通して、相手のことに気付いたり意識して関わったりする経験をする。

(2) 中学部

直接あるいは間接的に学びあう活動を通して、自己表現をしたり、相手を受け入れたりして人間関係の幅を広げる。

(3) 高等部

直接あるいは間接的な学びあう活動の中で、相手との関わり方を考えたり、相手を認めたりして、望ましい社会性を身に付ける。

## 2 基本方針

- ・各学部で年度当初に学校間交流についての意義や目的等について共通確認を行い、教育課程上の位置づけ等について検討を行う。
- ・児童生徒の実態や発達段階に合わせて、活動形態、活動内容等を工夫する。
- ・相手先と連絡を密に取り合い、双方のねらい等について、共有する。
- ・単発な活動となるのではなく、継続的な取り組みとなるように、事前学習や事後学習も含めて一体的、継続な活動となるように計画する。
- ・共同学習という側面を考え、各教科等の指導計画に基づいて実施を検討し、特別活動のみの計画とならないようにする。
- ・交流終了後は、児童生徒の様子について、個別のねらいに即した適切な評価を行う。

## 3 提携校

| 学 部 | 交流及び共同学習提携校 |
|-----|-------------|
| 小学部 | 大月市立猿橋小学校   |
| 中学部 | 大月市立猿橋中学校   |
| 高等部 | 山梨県立上野原高等学校 |

## 4 実施計画

| 学部 | 時期   | 提携校         | 実施学年 | 指導区分          | 内容                        |
|----|------|-------------|------|---------------|---------------------------|
| 小  | 5 月  | 大月市立猿橋小学校   | 全学年  | 国語            | プロフィール交換                  |
|    | 6 月  | 大月市立猿橋小学校   | 全学年  | 特別活動<br>生活科   | 歌の発表会、グループごとのゲーム大会、造形活動など |
|    | 10 月 | 大月市立猿橋小学校   | 全学年  | 特別活動<br>生活科   | ペットボトルボウリング、絵合わせゲーム、学校探検  |
| 中  | 6 月  | 大月市立猿橋中学校   | 全学年  | 保健体育／<br>自立活動 | ボール運び<br>転がしドッジボール        |
|    | 3 学期 | 大月市立猿橋中学校   | 全学年  | 特別活動          | ビデオレターのやり取りによる間接交流        |
| 高  | 6 月  | 山梨県立上野原高等学校 | 全学年  | 職業Ⅱ<br>自立活動   | 各作業班にて活動                  |
|    | 11 月 | 山梨県立上野原高等学校 | 全学年  | 職業Ⅱ<br>自立活動   | 各作業班にて活動                  |

## 5 学校間交流の様子

### (1) 小学部【猿橋小学校（3年生）との交流及び共同学習】



小学部は、特別活動の授業で猿橋小学校の3年生の児童44名と2回の交流を行った。1回目は本校にて実施し、前半は全体の活動として、やまびこ支援学校は校歌を、猿橋小学校3年生はダンスを発表し合った。高学年の児童を中心に、進行や感想発表等の役割を分担しながら皆で協力して会を進めることができた。

後半はグループ別の活動を実施。1年生グループは、箱倒しと玉入れを、2年生グループは学校紹介やボウリングを、3、4年生グループは、チームの名前を皆で決めたり大型ジェンガをした。5、6年生グループは、『虹の架け橋』をテーマに創作活動に取り組んだ。どのグループも初めのうちは緊張している様子が見られたが、交流を深めていくうちに、緊張が解け、自然に会話が弾んでいった。

2回目の学校間交流は、猿橋小学校で行われた。猿橋小学校に到着するとすぐに体育館に移動して始めの会が行われた。進行は猿橋小学校の児童が行い、グループ活動では、前半グループ、後半グループに分かれ、体育館でペットボトルボウリング、絵合わせゲーム、そして学校探検を行った。

2回目の交流では、猿橋小学校の児童は、「〇〇さんこっちだよ。」などと積極的に声を掛けてくれ、本校の児童も嬉しそうな表情を見せることができた。1年生グループは、初めての場所に緊張した表情を見せる児童もいたが、ゲームを一緒に行ううちにだんだんと緊張が解け、笑顔を見せることができた。2年生グループは、やまびこ支援学校の児童が自分から猿橋小学校の児童に積極的に声を掛けて楽しくおしゃべりしながら関わることができた。3・4年生グループは、同学年ということもあり、猿橋小学校の児童と対等に会話をしている場面が見られ、距離を縮めて活動することができた。5・6年生グループは、過去に5回、6回と猿橋小学校に訪問していることもあり、学校探検では目的の場所に迷わず到着して各教室のミッションをクリアしていくことができた。

### (2) 中学部【猿橋中学校かけ橋委員会との交流及び共同学習】



1回目の交流は、猿橋中学校の生徒が来校し、保健体育、自立活動の授業での交流を行った。「ボールを使って体を動かそう」という学習活動で、ペアでのボール運びを行ったり、大玉での転がしドッジボールを行ったりした。ペアの友達を意識し、協力しながら活動することができた。交流後は、お礼の手紙をやり取りすることで、活動の振り返りと次回の交流への期待感に繋げることができた。また、2回目の実施に向けて本校の教員が相手校に

出向いて打ち合わせを行い、助言を行った。

2回目は感染症の蔓延が懸念され、急遽中止となった。猿橋中学校の生徒達が、多くの時間を掛けて計画や準備を進めており、両校の生徒達が楽しみにしていたので残念な結果となった。交流相手が学年を超えた縦割りグループの委員会であり、別日での実施が難しいため、ビデオレターのやり取りでの間接的な交流を行う予定である。

また、肢体不自由（準ずる教育）の生徒は、各定期試験や到達度検査等の受検を通して交流している。

### (3) 高等部

#### 【上野原高校との交流及び共同学習】



上野原高校で福祉の授業を選択している3年生15名が来校し、職業Ⅱ（重複障害学級は自立活動）における直接交流を2回実施した。3つの作業班（工芸、サービス、農園）とA組（自立活動）に分かれて参加し、共に活動を行った。移動時間短縮と感染症予防対策のため、はじめの会はそれぞれの教室をオンラインで繋ぎ、おわりの会は、視聴覚室に集合し、対面で行った。

1回目は、初めは緊張している様子が見られたが、工芸班では日頃から取り組んでいる陶芸に取り組むことで作業に必要な会話を交わしながら少しずつ打ち解ける様子が見られた。サービス班では、雨天の中一緒に傘をさすことで自然と会話が增え、声を掛け合っただけのカフェオープンに向けてのチラシ配りやポスター貼りをす

ることができた。2回目の交流では、1回目と同じメンバー構成にした。重複生徒のグループでは、ローズマリーの香りを楽しみながらポップ作りに取り組んだ。生徒がローズマリーに注意を向けることができるようにペアになった上野原高等学校の生徒がローズマリーを提示する方法を工夫する様子が見られた。おわりの会の進行や感想発表を上野原高等学校の生徒と本校の生徒が一緒に行った。事前学習では、国語の時間を使ってプロフィール表を作成し、交換し合った。また、本校の各作業班で作った製品と相手校の生徒が授業の中で制作したプレゼントを贈り合ったり、交流後には、国語の時間にお礼の手紙を書いて送ったりした。

#### 【都留高校との交流及び共同学習】



都留学校との作品交流を実施した。都留高校文化局 発表において本校高等部生徒が美術の授業で制作した作品を2日間展示した。また、本校においても都留高等学校美術部生徒の作品を4日間展示した。美術の授業の時間に鑑賞し、感想を書き、お互いの作品を見合い、作品を見た感想を相互に送り合った。都留高校の生徒からは作品に対する感想の他、自分たちの創作意欲を駆り立てられたといった言葉も寄せられた。作品を通して

相手の思いや考えについて理解しようと鑑賞する様子が見られ、お互いの理解を深めるきっかけとなった。

## 6 成果と課題

### (1) 小学部

事前にプロフィール表を交換し、廊下に掲示することで、自分のペアの友達を意識し、期待感をもって臨むことができた。第1回目の始めの会では、高学年の児童に司会の役割を担当させることで交流会での目的にもある人間関係の形成や社会参加の力を身に付ける事にも繋がったと感じた。学年ごとのグループ活動にすることで、少人数でじっくり活動に取り組み猿橋小学校の児童と近い距離で交流することができた。1回目の反省を受け、2回目は活動量の精選を行うことで、時間に余裕ができ、ゆっくりと関わることができ、より充実した交流を実施することができた。

課題としては、交流相手が3年生と決まっているので、1年間だけの交流となっている。できれば、同じ学年同士で交流できると6年間交流できるが、相手校の負担を考えると難しい。手紙などの間接交流で継続的に交流できると良い。

### (2) 中学部

事前に自己紹介カードの作成、交換を行うことで、交流に見通しや期待感をもたせることができた。1回目の交流では、はじめの会やおわりの会の司会などの役割を本校の生徒が担当することで、主体的に会に参加することができた。また、体育的活動で本校の生徒にもわかりやすい内容だったこと、ペアで協力する活動を取り入れたことで、自信をもって楽しみながら取り組むことができた。自然と関わりが生まれ、初めは緊張していた生徒達も、活動を通じて笑顔が見られるようになった。

2回目は感染症の蔓延が懸念され、直前で中止となった。オンラインでの実施も含めて検討したが、企画する中学生達にオンラインでの交流のイメージをもたせるのが難しいという意見や、他行事等の絡みで別日に計画するのが難しいとの課題もあった。来年度は、2回とも対面で実施することができるよう、実施時期の検討やあらかじめオンラインを想定した案も計画しておくなどしたい。また、来年度は1回目の交流を猿橋中学校で行うことで、本校の生徒が相手校の様子を知る機会がもてるとよい。

### (3) 高等部

他の授業や行事と調整し、両日とも半日の交流会となった。2回とも同じメンバーでの活動だったことや、日頃から取り組んでいる作業班での活動内容であったことから、活動を通して自然と会話が生まれ、回を重ねることで自信をもって関わることができた。重複障害の生徒も、普段とは違う環境や相手からの関わりを受け入れて一緒に活動する様子が見られ、相手を意識しながら関わる様子が見られた。また、休憩時間や見送りの時間などの時間に、同年代の高校生らしい会話を交わしたり談笑したりする姿も見られ、設定し

た時間以外の自然な関わりも重要であることを再確認できた。

はじめの会をオンラインで行ったことで移動時間の短縮に繋がり、活動に時間をかけることができた。また、1回目の交流後の反省を生かし、交流時間を10分早く開始したことで、作業時間を延長することができ、交流を深めることができた。おわりの会は、全体で集合し、対面で行った。会の進行や感想発表を相手校と本校の生徒が一緒に行うことで、楽しい雰囲気の中で進行することができた。それぞれの班で感じたことや思ったことを発表し、感想や活動内容を共有することができた。

今後も、相手校の都合や本校の他の行事や授業とのバランスを考えながら、計画的に実施し、事前学習や事後学習を充実させ、相互の生徒が主体的に活動できるようにしていきたい。

## IV 地域における交流活動（地域交流）

### 1 目 的

地域の方々と関わることを通して、経験を広げ、地域社会の中で主体的に生きていく力を身に付ける。

#### (1) 小学部

地域の方々と場を共有し、活動を楽しみながら様々な人とふれあう経験をする。

#### (2) 中学部

地域の方々と共に活動し、関わりを深めていくことを通して、対人関係の幅を広げる。

#### (3) 高等部

地域の方々と共に活動し、地域社会への理解を深めていくことを通して、地域社会の一員という気持ちをもつ。

### 2 基本方針

- ・各学部で年度当初に地域交流についての意義や目的等について共通確認を行い、教育課程上の位置づけ等について検討を行う。
- ・地域の方と連携を大切にし、連絡を密に取り合いながら協力を得ていくようにする。
- ・交流相手先については、学校、地域、児童生徒の実態に応じて総務部、各学部で相談の上決定する。
- ・学校周辺の地域社会とのつながりを意識し、積極的に情報発信を行う。
- ・単発の活動となるのではなく、継続的な取り組みとなるように各教科等の指導計画に基づいて実施を検討する。
- ・交流相手先に応じて、活動内容、集団の大きさやねらい等を検討する。

### 3 交流先

| 学 部 | 地域交流先                                                    |
|-----|----------------------------------------------------------|
| 中学部 | 美容室「Happiness」                                           |
| 高等部 | 大月商店街協同組合<br>大月市デイサービスセンター「やまゆり」<br>大月市保健活動推進員会（オオツキッチン） |
| 寄宿舎 | 山梨県立都留高等学校                                               |

#### 4 実施計画

| 学部 | 時期  | 地域交流先               | 実施学年 | 指導区分 | 内容                                |
|----|-----|---------------------|------|------|-----------------------------------|
| 中  | 1月  | 美容室「Happiness」      | 3学年  | 総合   | 身だしなみについて                         |
| 高  | 7月  | 大月商店街協同組合           | 1学年  | 総合   | 買い物学習、商店街でのインタビュー活動など             |
|    | 6月  | 大月市デイサービスセンター「やまゆり」 | 2学年  | 総合   | 利用者さんのことを知る。レクリエーション、プレゼント等の企画・運営 |
|    | 12月 | オオツキッチン             | 3学年  | 職業   | 食育講話、卒業後の生活習について、調理活動など           |
| 寄  | 7月  | 山梨県立都留高等学校          | 寄宿舎生 | 余暇活動 | プロフィール・メッセージ交換、都留高校校舎内見学          |
|    | 10月 |                     |      |      | メッセージ交換、輪投げや○×クイズなどのゲーム           |

#### 5 地域交流の様子

##### (1) 中学部

1月31日（金）に実施予定

高等部進学に向け、身だしなみの学習（進路学習の一環）の中で行う。

地域の美容師さんと、質問や髪型へのアドバイスを通してコミュニケーションを図ることを目的に実施する。将来を見据え、毎日自分で髪を整えて生活できるよう意識を高める。

##### (2) 高等部

###### ①大月商店街



事前学習では、地域の商店街について知り、どんな店舗があるかを調べるとともに、インタビューの内容や質問を考えた。当日は、公共交通機関を利用して訪問し、実際に商店街を歩いてどんなお店があるかを確認したり買い物学習を行ったりした。グループに分かれて各店舗を訪問し、おすすめの商品やアピールポイントを尋ねるインタビューや買い物活動を行った。商店街の方々にインタビューや質問に丁寧にお答えいただき、商店街の方々と触れ合うことができ、販売の

工夫や地域の様子などを知ることができた。また、地域の方々に本校の生徒のことを知っていただく良い機会となった。

## ②デイサービスセンターやまゆり



事前学習では、施設や高齢者について学習し、特徴を知ったり望ましい関わり方について理解を深めたりした。交流相手の方々に喜んでもらえるレクリエーションやプレゼントは何かを考え、計画や制作を行った。交流先にスクールバスで安全に移動することが困難になったため、リモートで交流を行った。当日は、校歌に関するクイズやボッチャのゲームを楽しんだり、手作りの風鈴をプレゼントしたりした。高齢者の方とリモートでやり取りをすることは難しかった。

## ③オオツキッチン



「卒業後の生活習慣」の学習の一環として、「職業生活に必要な健康管理や食事について考え、卒業後の生活に活かす」ことをねらい実施した。前半は、保健活動推進員さんによる職業講話を聞き、塩分や野菜の摂取、朝食の大切さについて理解を深めた。後半は、コロナ禍で長らく行えなかった調理実習を行うことができ、簡単なサンドイッチ作りに取り組んだ。保健活動推進員さんにアドバイスを受けながら苦手な野菜やチーズをはさんで作る生徒の様子が見られた。

## (3) 寄宿舍



1回目の交流の前にプロフィール交換を行い、お互いの生徒のことを知る機会を作った。寄宿舍生は届いたプロフィールを見るなり、交流を楽しみにしている様子が感じられた。1回目の交流では都留高校に出向き、ボランティア同好会と生徒会の皆さんが都留高校の教室や施設を案内してくれたり、合唱部の歌を聴いたりしながら楽しい時間を共有することができた。

2回目は本校にて交流を行った。各々が用意したハロウィンの衣装を身にまとい、寄宿舍の活動で経験したことがあるオリジナル輪投げや紙で作ったお金釣り、お互いの学校やハロウィンに関する〇×クイズなどのゲームをしながら親睦を深めた。2回目の交流ということもあり、職員が仲介しなくても生徒同士で雑談している様子も見られ、楽しく有意義な時間を過ごすことができた。

1回目、2回目の交流後に楽しかったことや印象に残ったことなど感想を書いたメッセージをお互いに交換した。後日ボランティア同好会と生徒会の皆さんからメッセージが届くと嬉しそうに読んでいて

「交流会楽しかった!」、「〇〇さんといっぱい話ができて良かった。」と楽しかった思い出を振り返っていた。

## 6 成果と課題

### (1) 小学部

近隣地域で交流できる団体を当たっているが、適当な交流先が見つかっておらず実施できていない。今後も、桂台地区などでサークル活動などを実施している団体と、来年度には実施できると良い。

### (2) 中学部

1月末に実施予定

### (3) 高等部

学年ごとに各交流先と1回ずつ交流を実施することができた。地域で活躍する方々や施設等について知ったり、本校生徒の様子や教育活動の様子を地域の方々に知っていただいたりする良い機会になった。

校舎桂台移転前から長く交流してきたやまゆりとの今後の交流方法について学部間で検討を重ねた。今後も継続して交流ができるように、やまゆりの利用者さんが本校のカフェを利用して直接交流ができるかどうか、相手の交流先と検討を進めていく。

#### (4) 寄宿舎

今年度1回目の交流では、長年の懸案事項であった相手校に出向いての交流を実現することができた。その中で小グループに分かれて同年代のボランティア同好会と生徒会の皆さんが案内してくれ、自分の学校にはない環境や部活動を見学させてもらったことで様子や違いを知ることができ、良い刺激になった。

2回目の交流では本校にて実施し、1回目の交流と同様に小グループで寄宿舎生が馴染みのあるゲームをしたり、お互いの学校に関することや季節にちなんだ〇×クイズをしたりしたことで関係性を深めることができ、より一層親睦を深めることができた。

1回目の交流前にそれぞれ好きなことや交流に向けての意気込みなどを記入したプロフィールを交換した。また1, 2回の交流後、楽しかったことや印象に残ったことなどを書いたメッセージを交換したことで、客観的に交流の様子を振り返ることができ、達成感や自信につなげることができた。

年間2回の限られた機会なので、活動の時間をできる限り多くもてるよう調整していけると良い。

## V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

### 1 目的

居住する地域の同年代の児童生徒と共に学び、相互理解を深める。

居住する地域の一員として、将来豊かに生活していくための望ましい人間関係の基礎を築く。

### 2 実施状況

| 学部・学年  | 交流及び共同学習先校名 | 回数 | 実施（活動）内容                                                                 |
|--------|-------------|----|--------------------------------------------------------------------------|
| 小学部・3年 | 大月市立鳥沢小学校   | 3  | 特別活動（音楽、体育、図画工作）                                                         |
| 小学部・3年 | 大月市立七保小学校   | 3  | 特別活動（図画工作、書道、ボッチャ、音楽）                                                    |
| 小学部・5年 | 都留市立東桂小学校   | 3  | 特別活動（図画工作、稲刈り、しめ縄づくり）                                                    |
| 中学部・2年 | 大月市立猿橋中学校   | 3  | 特別活動<br>1回目：給食、学園祭の準備（看板づくり）に参加<br>2回目：給食、校内合唱祭に参加<br>2回目：給食、3年生を送る会参加予定 |

### 3 成果と課題

今年度は、新規1名、継続3名であった。継続の児童生徒は、3年目以上の児童生徒がほとんどということもあり、積極的に相手校の児童生徒と関わる様子が見られた。小学部の5年生の児童は、電動糸鋸を使用した図画工作の授業や稲刈りやしめ縄づくりなど少し難しい課題にも挑戦させて頂き、「できないのではないかな」という保護者の心配を払拭するかのようになり自分から挑戦する様子が見られ、大きく成長した姿を見せてくれた。中学部の生徒は、毎年学園祭の取り組みに参加させて頂くことで、見通しをもつことができ、落ち着いて参加することができた。合唱祭では、静かに鑑賞することができ、積み重ねでの成長を感じることができた。

今年度は、新規の児童がおり、参加にあたって保護者が不安を感じている様子が見られたが、相手校の児童が温かく迎え入れてくれたことで直ぐに打ち解けることができ、相手校の友達と仲良く活動することができた。

課題としては、新規の児童生徒に対しては、保護者の不安な気持ちも汲み取り、第1回目は総務の担当や担任が様子を見に行けると良い。

**I 学校概要****1 学校の概要**

|             |                        |
|-------------|------------------------|
| 学 校 名       | 山梨県立富士見支援学校            |
| 所 在 地       | 〒400-0027 甲府市富士見一丁目1-1 |
| 電話番号        | 055-252-3133           |
| 校 長 名       | 雨宮 靖子                  |
| 交流及び共同学習主任名 | 崎坂 雄二郎                 |

**2 学校教育目標**

児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育課程における学習空白を補完する。そのため、基礎的・基本的な学習内容等の着実な定着を図るとともに、安全で安心な楽しい学校生活の中で豊かな心や自立心を育み、社会の中で人と関わりながらよりよく生きていくための「生きる力」を育む。

**II 交流及び共同学習推進会議の経過**

本校の児童生徒の実態から、現在のところ交流及び共同学習推進会議は実施していない。

**III 学校間における交流及び共同学習**

本校の児童生徒の実態から、学校間交流は実施していない。

**IV 地域における交流活動(地域交流)**

本校の児童生徒の実態から、現在のところ地域交流は実施していない。

**V 居住地の学校等における交流及び共同学習(居住地校交流)**

本校の児童生徒の実態から、現在のところ居住地校交流は実施していない。

本校では、居住地校交流に近い取り組みとして、前籍校へ復帰する段階にある児童生徒について計画的に行う「試験登校」がある。試験登校は、前籍校の児童生徒と学ぶ場を共有する中で、相互理解を深め、復籍後の学校生活を円滑に送ることができるようにするための取組になっている。

## I 学校概要

### 1 学校の概要

|             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 学 校 名       | 山梨県立富士見支援学校旭分校             |
| 所 在 地       | 〒407-0046 韮崎市旭町上條南割3314-13 |
| 電話番号        | 0551-22-7144               |
| 校 長 名       | 雨宮 靖子                      |
| 交流及び共同学習主任名 | 野澤 拓                       |

### 2 学校教育目標

児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育課程における学習空白を補完する。そのため、基礎的・基本的な学習内容等の着実な定着を図るとともに、安全で安心な楽しい学校生活の中で豊かな心や自立心を育み、社会の中で人と関わりながらよりよく生きていくための「生きる力」を育む。

## II 交流及び共同学習推進会議の経過

当校の児童生徒の実態から、現在のところ学校間交流は実施していない。

## III 地域における交流活動（地域交流）

当校の児童生徒の実態から、現在のところ地域交流は実施していない。

## IV 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

当校の児童生徒の実態から、現在のところ居住地校交流は実施していない。

当校では、居住地校交流に近い取り組みとして、前籍校へ復帰する段階にある児童生徒について計画的に行う「試験登校」がある。試験登校は、前籍校の児童生徒と学ぶ場を共有する中で、相互理解を深め、復籍後の学校生活を円滑に送ることができるようにするための取組である。

## I 学校概要

## 1 学校の概要

|             |                              |
|-------------|------------------------------|
| 学 校 名       | 山梨県立ふじざくら支援学校                |
| 所 在 地       | 〒401-0301 南都留郡富士河口湖町船津6663-1 |
| 電話番号        | 0555-72-5161                 |
| 校 長 名       | 金丸 実奈江                       |
| 交流及び共同学習主任名 | 田村 沙織                        |

## 2 学校教育目標

- ◎自立を目指し、社会の中で豊かにたくましく生きていく力を育てる。
- ◎児童生徒一人一人の能力や個性を最大限引き出し生かす。
- ◎確かな学力、豊かな情操、健やかな体を育む。

## II 交流及び共同学習推進会議の経過

## 1 交流及び共同学習推進会議構成員

| No. | 所 属・職 名                   | 備 考 |
|-----|---------------------------|-----|
| 1   | 鳴沢村立鳴沢小学校・校長              |     |
| 2   | 富士河口湖町立河口湖北中学校・校長         |     |
| 3   | 山梨県立富士北稜高等学校・校長           |     |
| 4   | 山梨県立吉田高等学校・校長             |     |
| 5   | 鳴沢村立鳴沢小学校・交流及び共同学習担当      |     |
| 6   | 富士河口湖町立河口湖北中学校・交流及び共同学習担当 |     |
| 7   | 山梨県立富士北稜高等学校・交流及び共同学習担当   |     |
| 8   | 山梨県立吉田高等学校・生徒会主任          |     |
| 9   | 山梨県立富士ふれあいセンター・所長         | 会長  |
| 10  | 障害者支援施設はまなし寮・施設長          |     |
| 11  | 富士吉田図書館おはなし会このはなさくや・代表    |     |
| 12  | 富士五湖ウインドオーケストラ・代表         |     |
| 13  | NP0 法人 富士と湖とかかしの里・理事長     |     |
| 14  | 山梨県立ふじざくら支援学校・校長          | 副会長 |
| 15  | 山梨県立ふじざくら支援学校・PTA会長       | 副会長 |

## 2 経 過

| 開催月日  | 内 容                  |
|-------|----------------------|
| 5月20日 | 第1回「委員の委嘱及び交流計画について」 |
| 2月 5日 | 第2回「今年度の実施報告について」    |

## III 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

## 1 目 的

## (1) 全体

- ・交流を通して児童生徒の経験を広げ、共に学び合う中で豊かな人間性を育む。
- ・同年代の児童・生徒相互の触れ合いを通して、相手の存在を理解し、認め合い、お互いを大切

にしていく気持ちを育てる。

- ・共生社会の実現に向けて、様々な人々と共に助け合い、支え合って生きていくことを学ぶ機会とする。

(2) 小学部

- ・同学年の児童と触れ合い、一緒に様々な活動に取り組む。
- ・友達を意識したり関わったりしようとする。

(3) 中学部

- ・同年代の生徒と進んで関わりながら、共に学ぶ楽しさを味わい、より豊かな人間性を養う。
- ・交流及び共同学習を通して、お互いに理解し合おうとする。

(4) 高等部

- ・地域の同年代の生徒と協力して活動する中で、人と関わる力を身に付ける。
- ・共に学び合う中で、お互いのことを理解する。
- ・共に助け合い、支え合って生きていく仲間として意識する。

## 2 提携校

| 学部  | 交流及び共同学習提携校             |
|-----|-------------------------|
| 小学部 | 鳴沢村立鳴沢小学校               |
| 中学部 | 富士河口湖町立河口湖北中学校          |
| 高等部 | 山梨県立富士北稜高等学校、山梨県立吉田高等学校 |

## 3 実施状況

| 学部 | 時期  | 提携校               | 実施学年  | 指導区分                 | 内容                           |
|----|-----|-------------------|-------|----------------------|------------------------------|
| 小  | 6月  | 鳴沢村立<br>鳴沢小学校     | 全学年   | 特別活動                 | 本校にてダンス、歌の発表やゲーム等を実施         |
|    | 7月  |                   | 全学年   | 自立活動<br>図画工作<br>特別活動 | 鳴沢小学校のポプラっ子祭りに本校児童の作品を展示     |
|    | 10月 |                   | 全学年   | 特別活動                 | 鳴沢小にてダンス、歌の発表やゲーム等を実施        |
|    | 11月 |                   | 全学年   | 自立活動<br>図画工作<br>特別活動 | ふじざくら祭に鳴沢小学校児童の作品を展示・見学      |
| 中  | 6月  | 富士河口湖町<br>河口湖北中学校 | 全学年   | 特別活動                 | 本校にて自己紹介、ゲーム等を実施             |
|    | 9月  |                   | 全学年   | 特別活動<br>美術<br>自立活動   | 河口湖北中学校の学園祭に本校生徒の作品を展示       |
|    | 10月 |                   | 全学年   | 特別活動                 | 河口湖北中学校にてダンスや歌唱、ゲームを実施       |
|    | 11月 |                   | 全学年   | 自立活動<br>美術<br>特別活動   | ふじざくら祭に河口湖北中学校生徒の作品を展示・見学    |
| 高  | 7月  | 山梨県立<br>富士北稜高等学校  | 2学年   | 総合<br>特別活動           | 本校にてボッチャ大会を実施                |
|    | 7月  |                   | 全学年   | 美術<br>特別活動           | 富士北稜高等学校に本校の生徒の作品を展示         |
|    | 11月 |                   | 全学年   | 美術<br>特別活動           | ふじざくら祭に富士北稜高等学校生徒の作品を展示      |
|    | 12月 |                   | 1・3学年 | 総合<br>特別活動           | 富士北稜高等学校にて合唱発表、クイズ大会、学校探検を実施 |

|  |       |                |     |            |                        |
|--|-------|----------------|-----|------------|------------------------|
|  | 7 月   | 山梨県立<br>吉田高等学校 | 全学年 | 美術         | 吉田高等学校の学園祭に本校の生徒の作品を展示 |
|  | 1 1 月 |                | 全学年 | 美術<br>特別活動 | ふじざくら祭に吉田高等学校生徒の作品を展示  |

#### 4 学校間交流の様子

##### (1) 小学部

小学部では、鳴沢小学校と同学年同士での直接交流を年に2回実施し、また図画工作で制作した作品を交換する間接交流を行っている。

今年度は1学期に全学年が本校にて対面による交流、2学期はコロナ禍で4年間実施が難しい時期を経ての全学年が鳴沢小学校にて対面による交流が再開された。

1学期は鳴沢小学校の児童が本校に来校して、交流を行った。1年生は3グループに分かれ活動を行った。ふれあい遊び『バスにのって』では、縦一列につながって、「ゴーゴー」と歌いながら、左右に体を揺らしてバスの旅を楽しむことができた。2年生は互いの手にいちごやチョコレートを乗せてホットケーキをつくる、ふれあい遊び『ホットケーキ』を行った。おいしくなるようなどのようなトッピングを乗せるのかを楽しみながら活動ができた。Aクラスの友達が桶に玩具の虫が入ったカプセルを転がしたらスタートのゲーム「ムシキング」では、みんなで桶を持ち、高さなどを調整してゴールのかごに入れようと協力して活動ができた。3年生は『ラーメン体操』と一緒に踊ったり、『にじ』を手話付きで歌ったりと一緒に活動を楽しむことができた。活動を通して「一緒にやろう」と声上がるほど友達同士の距離が自然と近くなることもできた。4年生は自己紹介を兼ねたサイコロトークや4グループ対抗で「アスレチックレース」などの活動を行った。フープやミニハードルを跳んだり、走ったりし、どのチームも勝つために戦略を練ったり、声を出して応援したりと大いに盛り上がり、白熱したレースが繰り広げられた。5年生はみんなで一緒に『マイムマイム』や『花いちもんめ』などを行った。活動を通して互いに少しずつ打ち解け、名前を呼び合っておしゃべりするなど、にぎやかで楽しい時間を過ごすことができた。6年生はグループ対抗のカラーボール運びゲームを行い、各チームが日本手ぬぐいに乗せたカラーボールを落とさないよう声を掛け合いながら競う様子が印象的だった。

2学期は全学年が鳴沢小学校での対面による直接交流を行った。1年生は楽器の演奏と新聞合戦を行った。『アイアイ』が流れている中で楽器を鳴らしたり、新聞ボールを相手の陣地に投げ合ったりと楽しく活動ができた。2年生は両校の児童がペアになってゲーム「フープリレー」を行った。「次は〇〇くんだよ」と友達に声を掛けてもらったり、走ったり歩いたりするペースを合わせてもらったりと、笑顔いっぱい体を動かすことができた。3年生はリコーダーの演奏と合唱の発表を行った。互いの児童がリズムに乗り踊ったり、手拍子で盛り上げたりと楽しく活動ができた。4年生は互いの学校に関するクイズ大会を行った。全員が答えられるよう絵や数字を使った選択問題のため、大いに盛り上がった。5年生はゲーム「ボール運び」で友達との距離が縮まったことでフリータイムのおしゃべりに花が咲き、楽しい時間を過ごすことができた。6年生は鳴沢小学校の『ソーラン節』を前のめりで見たり、『ダンスホール』の曲に合わせて踊ったりすることができた。6年生は、交流の回数を積み重ねることで一緒に活動し、喜びを共有できる友達という気持ちが芽生えてきた。



##### (2) 中学部

中学部では、生徒全員が河口湖北中学校の2年生と直接交流を年に2回、また、美術で制作した作品を交換する間接交流も行っている。

1学期は、本校にて実施した。グループ活動「さいころトーク」では、友達の顔や名前、好きな物等を伝え合うことにより、徐々に緊張もほぐれ、笑顔や触れ合いが増えてくる様子が見られ、活動が終わる頃には、各グループの輪から歌声や笑い声が響き渡り、時間が足りない位の

盛り上がりであった。グループ対抗「ボール運びリレー」では、グループの友達で力を合わせ、息を合わせて走ったり応援したりするなど、ゲームを通してさらにつながりが強くなった。

2学期の直接交流の前に両校をリモートでつなぎ、オンラインで事前学習を行った。河口湖北中学校の生徒から『ソーラン節』の振り付けを教えてもらった。第1回目と同じグループごとに行ったことで、1回目の交流を思い出して、友達の名前を呼んだり画面越しに手を振ったりする様子が見られた。第2回目の交流は、河口湖北中学校にて実施した。オンラインでの事前学習を行ったことで期待感も高く、生徒同士、再会を喜ぶ様子が見られた。本校の生徒が音楽で取り組んでいた『手のひらを太陽に』を全員で歌った。グループ練習や発表会、チーム対抗「輪投げリレー」を行った。事前学習で教えてもらった『ソーラン節』では、本校の生徒たちも気合いを入れて河口湖北中学校の生徒と一緒に踊っていた。両校全員のソーラン節は迫力もあり、圧倒されるものであった。輪投げリレーでは、チームの仲間と相談をしながら作戦を立て、ゲームに臨み、1位になれるように応援したり声を掛け合ったりし、大変盛り上がった。2回の交流を通して、互いを知り、一緒に考え、活動できる仲間になることができた。



### (3) 高等部

高等部では、富士北稜高校と直接交流を年に2回実施し、その他に美術で制作した作品を交換する間接交流を富士北稜高校と吉田高校とで行っている。

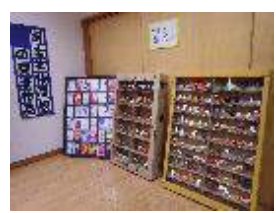
1学期は、富士北稜高校のボランティア委員会の3年生12名の生徒が本校に来校し、本校高等部2年生10名の生徒と交流会を実施した。ウォーミングアップとして両校合同のチームに分かれ『フープくぐり』を行った。緊張していた生徒も一気に打ち解けることができた。ポッチャは、オリジナルルールで行った。簡単そうに見える競技でも、狙った場所にボールがいらず悔しがる生徒の様子も見られたが、チームのメンバー同士で応援し合い、白熱した試合を楽しんだ。休憩時間には、両校の生徒が混じって談笑する楽しい様子も見ることができた。富士北稜高校の生徒からは、ポッチャの競技が思いの外楽しかったという感想が聞かれ、ゲームを通して、有意義な交流を実施することができた。

2学期は高等部1、3年生が富士北稜高校を訪問し、ボランティア委員および生徒会の生徒との交流を行った。最初は表情の硬かった本校の生徒も、生徒会生徒が準備してくれたクイズや自己紹介を通して、和やかな表情が見られるようになった。本校生徒は、フジファブリックの『若者のすべて』の合唱を披露し、地域にゆかりのある曲だったため、富士北稜高校の生徒も一緒に口ずさんでいた。学年ごとに分かれて、富士北稜高校ボランティア委員生徒により学校案内をしてもらった。1年生は、総合ビジネスと電気情報、3年生は、機械テクノロジーと建築デザインの各系列の授業を訪問し、様々な体験をしたり、展示等を鑑賞したりした。教室を回るうちにグループ内での自然な関わりが増え、両校生徒が互いに知り、関係性を深めることができ、笑顔がたくさん見られた交流会となった。



### (4) 全学部

本校の学園祭『ふじざくら祭』で学校間交流相手校の児童生徒作品展示、見学を行った。鳴沢小学校は絵画や書道作品、河口湖北中学校は水墨画、吉田高校は大きなガラス画、富士北稜高校は美術部の立体作品を展示した。交流相手校の友達の名前を見付け、喜ぶ児童や顔を近づけてみる生徒、大きな作品に圧倒される児童生徒など様々でしたが、同世代の児童生徒から刺激をもらうことができた。



## 5 成果と課題

### (1) 小学部

対面での直接交流を全学年2回実施することができ、昨年度までの対面による交流とオンラインでの交流の積み重ねが、同世代の友達と取り組む活動の自信や意欲となり、関わりの幅を広げることができた。交流の事前事後学習で取り組んだ自己紹介カードや手紙交換も、互いを知ったり、交流の具体的なイメージをもちやすくしたりするなど、大きな成果を得ている。

各学年の担当者同士で昨年度の反省を踏まえて交流内容の打合せを行い、児童の実態や希望に応じた内容を検討したことで、互いを知ろうとしたり、深め合ったりするよい機会となった。

1年生は、お互いに初めて活動を共にするという事もあり、不安や緊張を感じている児童も多く見られた。そのため、互いが授業で取り組んできたふれあい遊びやゲームを活動に取り入れたことで、内容が分かりやすく一人ひとりが活動に参加することができた。鳴沢小学校の児童と6年間交流を行うため、段階を踏んだねらいを設定し、同じ場を共有することや一緒に活動することで「また行きたい」「今度は〇〇〇と一緒にしたい」と児童に思ってもらうことが活動を通して大切であることを実感した。また、時間を共有することで児童同士が互いの関わり方を知り、その学びを少しずつ実践できたことが対面での交流に大きな意味があると感じている。ただ、2回の交流を通して、高学年になると児童同士が自分のできるコミュニケーションを使って関わるの場面が増えている反面、子供同士が考えて話し合うなどの機会の設定は難しかった。

来年度も互いの児童の実態やねらいに応じて検討を重ね、児童の触れ合いを深め、双方の活動の活性化を図り、楽しい時間が過ごせるような有意義な交流会を実施していきたい。

### (2) 中学部

対面での交流を2回、オンラインでの交流を1回実施することができた。回数を重ねることで、1回目の交流会に比べ、2回目の交流会では両校の生徒が互いに主体的に関わろうとする様子が多く見られるようになり、生徒同士の理解を深めることもできた。

2回目交流では本校の生徒が教えてもらうだけでなく、教えるという経験をするために、本校の生徒が音楽で取り組んできた『手のひらを太陽に』を歌う活動を取り入れた。歌唱や手話の手本となることができ、互いのことを知り、理解をより深める良い活動であった。

1回目と2回目の交流の実施日が空いているため、2回目も緊張してしまう生徒が多いため、対面の交流の2週前にオンラインでの交流を行った。休憩時間などには互いに手を振ったり名前を呼び合ったり、雑談を楽しんだりするなど、自然に関わる様子も見られた。そのため、2回目の交流会ではすぐに打ち解け、自然に関わることができていた。

来年度も交流の成果を継続できるよう生徒の実態も踏まえながら活動内容などを再度検討し、両校の生徒の良さを互いに伝え合うことのできる充実した交流会を計画していきたい。

### (3) 高等部

富士北稜高校と対面での交流を2回実施し、各学年1回ずつ行うことができた。実施にあたっては担当者が交流内容やその方法についての打ち合わせを行い、生徒の実態に応じた内容を検討したり安全策を講じたりするなどしたことで、互いを知るよい機会となった。1回目の本校で行った交流会では、活動全般を通して、本校の2年生と富士北稜高校の生徒が混合チームをつくり、ゲームやボッチャを実施したことで互いの仲を深めることができた。また、簡単なゲームや談笑できる休憩時間を織り込んだことで、生徒が打ち解けるまでの時間が短縮できたと感じられた。

富士北稜高校の生徒は、どのように接したらよいかという戸惑いもあったようだが、ゲームを通して、だんだんと楽しく接することができるようになったという感想があった。体を使った活動は、楽しみながら互いを知り、理解を深めたりすることのできるよい交流会であった。

2回目は、富士北稜高校にて1年生と3年生が交流を実施した。富士北稜高校で、クイズや学校見学を計画していただいた。動画での学校紹介や、学校に関するクイズも学校を楽しく理解するための助けとなった。どの生徒も他校の雰囲気を楽しみながら、それぞれの系列の授業を、興味深く体験することができた。同年代の生徒に案内をしてもらいながら、一緒に学校見学をすることで本校の生徒が積極的に見たり・聞いたり・触ったりする姿が多く見られた。「楽しかった」「また来てみたい」「次はふじざくらに来てほしい」などの感想があり、コミュニケーションの力を高めることができた。来年度も富士北稜高校の協力と理解を得ながら互いに協力したり、助け合ったりする中で、人と関わる力を身に付けることのできる交流を実施していきたい。

吉田高校と富士北稜高校に美術で取り組んだ3色版画の作品を展示していただいた。「わくわくしたり、ほっこりしたりできる楽しい作品」「創造力があり、考えさせられる作品」などの感想をいただき、生徒の学習意欲につながった。

## Ⅳ 地域における交流活動（地域交流）

### 1 目的

#### (1) 全体

- ・交流を通して児童生徒の経験を広げ、共に学び合う中で豊かな人間性を育む。
- ・地域の人々と関わる中で、共に助け合い、支え合って生きていくことを学ぶ機会とする。

#### (2) 小学部

- ・活動を通して地域の人と触れ合い、関わりをもつ。
- ・関わりを受け入れ、共に活動することを楽しむ。

#### (3) 中学部

- ・地域の人々と触れ合い、社会で活動しようとする意欲を高める。
- ・活動を通して、関わりを深めていくとともに、人間関係の幅を広げる。

#### (4) 高等部

- ・地域の人々と関わる中で、お互いを理解し合う。
- ・学校周辺の環境や身近な施設等で生活する人と日常的に関わりをもつ。
- ・共に活動を行う中で経験を広げ、社会に参加する気持ちを育てる。

### 2 交流先

| 学 部 | 地域交流先                                                         |
|-----|---------------------------------------------------------------|
| 小学部 | 富士吉田市立図書館このはなさくや、有志の会                                         |
| 中学部 | 富士五湖ウインドオーケストラ、有志の会                                           |
| 高等部 | はまなし寮、富士ふれあいセンター、富士と湖とかかしの里                                   |
| 全学部 | 富士ふれあいセンター<br>富士吉田市、西桂町、富士河口湖町、鳴沢村、忍野村、<br>山中湖村の文化祭や作品展での作品交流 |

### 3 実施状況

| 学部     | 月日  | 地域交流先              | 実施学年 | 教科等区分      | 内容                           |
|--------|-----|--------------------|------|------------|------------------------------|
| 小      | 1月  | このはなさくや            | 全学年  | 国語<br>特別活動 | 絵本の読み聞かせ、<br>パネルシアター、<br>手遊び |
| 中      | 11月 | 富士五湖<br>ウインドオーケストラ | 全学年  | 音楽<br>特別活動 | 音楽鑑賞、合奏                      |
| 小<br>中 | 12月 | 有志の会               | 全学年  | 特別活動       | プラネタリウムの鑑<br>賞               |
| 高      | 5月  | 富士と湖とかかしの里         | 2学年  | 総合         | 花植え作業                        |

|     |                                            |                                                                                     |       |                    |                       |
|-----|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------|-----------------------|
| 高   | 9月                                         | 富士と湖とかかしの里                                                                          | 1・3学年 | 総合                 | 清掃作業                  |
| 高   | 7月                                         | 富士と湖とかかしの里                                                                          | 農園班   | 作業学習               | 野菜の苗植え、種まき            |
| 高   | 12月                                        | 富士と湖とかかしの里                                                                          | 農園班   | 作業学習               | 収穫した野菜を届ける            |
| 高   | 9月                                         | 富士ふれあいセンター                                                                          | 全学年   | 作業学習<br>特別活動       | 作業学習で制作した製品の展示        |
| 全学部 | 9月                                         | 富士ふれあいの村まつり                                                                         | 全学年   | 特別活動               | 発表や作品展示で参加            |
| 全学部 | 7月<br>11月<br>11月<br>11月<br>11月<br>2月<br>2月 | 吉田空襲展<br>忍野村福祉健康まつり<br>山中湖村文化祭<br>西桂町文化祭<br>富士河口湖町文化祭<br>鳴沢村文化祭<br>富士吉田市小中学校図工美術作品展 | 全学年   | 図画工作<br>美術<br>自立活動 | 各市町村に居住している児童生徒の作品を展示 |

#### 4 地域交流の様子

##### (1) 小学部

富士吉田市立図書館おはなし会「このはなさくや」と1、2、3年生、4、5、6年生の2ブロックごとに交流を実施し、読み聞かせを通して交流を広げた。『ももたろう』のエプロンシアターでは、学園祭で演じた経験から、ポケットから人形を出す前に「いぬ」「ねずみ」と登場人物の名前を呼んだり、歌ったりと一緒にエプロン劇を演じる様子が見られた。『ぺったんぺったん』の手遊びでは、手で餅をつき、「いただきます」や「今年もいっぱいいいことがありますように」の掛け声に合わせて頭の上に乗せたお手玉が落ちてくると、一斉に歓声が上がり盛り上がった。

今年度も様々な趣考を凝らし楽しい内容をたくさん用意していただき、絵本を大好きになる有意義な時間を過ごすことができた。



##### (2) 中学部

富士北麓地域で活躍する「富士五湖ウインドオーケストラ」から15名の団員の方に来ていただき交流を実施した。吹奏楽の生演奏を楽しみながら音楽を通して交流をした。富士五湖ウインドオーケストラの皆さんが演奏する『小さな世界』に合わせて鈴やシェイカーを持って一緒に演奏をしたり、『ここにはいつも富士がある』や『ぼよん行進曲』の演奏に合わせて歌ったり踊ったりして大変盛り上がった。楽器紹介では、それぞれの楽器の特徴や短い曲を演奏してもらい、音色を味わったり、楽器の響きを体で感じたりすることができた。交流会終了後も、気になった楽器のところへ行き、「もう1回聞きたい!」とリクエストをする生徒たちの姿も見られ、充実した交流会となった。



### (3) 高等部

NP0 法人富士と湖とかかしの里の方と全学年が実施した。

2年生は花苗をプランターに植える交流を行った。プランターは、富士と湖とかかしの里と、本校のある富士ふれあいの村内のふれあいセンター、はまなし寮のそれぞれの玄関に飾っていただいた。1、3年生の生徒は地域の清掃活動を行う交流を実施した。1年生は、はまなし寮の石のモニュメントを磨き、植栽を清掃する活動をした。3年生は、ふれあいセンター前の歩道の草刈りと落ち葉等を掃く清掃活動を行った。生徒からは「街がきれいになってうれしい」「機会があれば、また参加したい」等の意見が聞かれた。

作業学習・農園班は冬菜の種をまいたり、白菜の苗を植えたりする活動と、収穫した野菜を「富士と湖とかかしの里」へ届けに行く活動を行った。この野菜は「富士と湖とかかしの里」が運営している「ニコニコかし食堂」で提供された。生徒からは「かかしの里さんでのお話が楽しかった」「野菜をおいしく食べてもらえるとうれしい」等の感想を聞くことができた。



### (4) 小学部・中学部

今年で2回目となる星つむぎの村のプラネタリウムの鑑賞会があり、小学部、中学部の児童生徒全員が参加した。有志の会の方々の御厚意で開催されている出張プラネタリウム。体育館に設置された大きなドームの中は、まるで宇宙のように広く、手が届きそうなくらい大きくて無数の星が映し出される、幻想的な空間を体験することができた。



## 5 成果と課題

### (1) 小学部

1、2、3年生、4、5、6年生の2ブロックに分かれて実施した。実物の絵本を使っでの読み聞かせとなり、ページをめくるときどきわくわく感や一緒に言葉のリズムに合わせながら体を動かす楽しさを味わえたことで、いつも以上に絵本の世界を楽しむことができた。また、手遊びやエプロンシアターなどは、みんなで呼吸を合わせて手指を動かしたり、新しい言葉を覚えたりと児童を惹きつける内容だった。また、馴染みのある絵本や季節や行事を感じさせる絵本を取り入れてもらったことで、学校の図書室で同じ本を借りて読んでみようとする児童や校外学習で図書館利用を計画する学年もいた。来年度もより絵本を親しむ中で、児童の好奇心を刺激できる活動内容を検討しながら有意義な会になるよう計画していきたい。

### (2) 中学部

音楽を通した地域交流を学部全体で行った。授業で取り扱った楽曲を演奏してもらい、吹奏楽の生演奏で歌う経験はとても貴重で普段の音楽とは異なる雰囲気味わうことができた。言葉でのやり取りが難しい生徒にとっては一緒に演奏することで楽器を介して関わることができ、よい機会であった。今年度、初めて富士五湖ウインドオーケストラの方々と交流を行ったが、活動内容や楽曲も本校のねらいをもとに組んでもらうことができ、生徒の実態に合った内容で交流をすることができた。ワークショップのような内容も検討したが、富士五湖ウインドオーケストラとの交流が今年度初めてであり、互いに様子が分からなかったことや楽器が高価なものであるため、計画することが難しかった。今年度の交流の様子を踏まえ、来年度は、本校の楽器も活用しながら団員の方と密に関わることができるよう内容を計画していきたい。

### (3) 高等部

今年度「富士と湖とかかしの里」に協力いただき、延べ4回の交流を行った。それぞれの交流実施にあたって内容についての打合せを行うと共に作業安全も考慮し、安全に活動することができた。地域の方に授業に参加してもらい、一緒に清掃活動を行ったり、種まきや苗植えの活動をしたりすることで、地域との自然な関わりが生まれ、生徒の様々な経験を広げることができた。また、育てた野菜を収穫し、寄贈した野菜が富士と湖とかかしの里で運営する子ども食堂「ニコニコかかし食堂」で提供され、社会への参加という成果も得られている。これらの活動では、地域の方と同じ場を共有したり感想を伝え合ったりするなど、交流を深めることができた。また、地域の方からも、生徒との交流が楽しかった等の感想をいただいた。

来年度も地域の方との関わり、「社会への参加」というねらいが達成できるよう交流を進めていきたい。

## V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

### 1 目 的

- (1) 居住地校の児童生徒と共に学び、関係を築いたり、継続したりして相互に理解を深める。
- (2) 本校の児童生徒が、将来、地域で生活するための基盤を作り、社会参加を促進する。

### 2 実施状況

昨年度居住地校交流を実施した児童4名に加え、新たに小学部1年生の児童5名と小学部2年生の児童1名から希望が出され、10名の児童生徒が計20回の交流を行った。全員の児童が居住地校と保護者の理解と協力によって実りの多い交流が実施できた。

| 学部・学年 | 交流及び共同学習先校名    | 実施（活動）内容                  |
|-------|----------------|---------------------------|
| 小・1学年 | 富士河口湖町立船津小学校   | 音楽                        |
| 小・1学年 | 富士河口湖町立勝山小学校   | 音楽                        |
| 小・1学年 | 富士河口湖町立小立小学校   | 生活科                       |
| 小・1学年 | 富士河口湖町立小立小学校   | 図画工作                      |
| 小・1学年 | 富士吉田市立下吉田第二小学校 | 体育                        |
| 小・2学年 | 富士河口湖町立船津小学校   | 特別活動（じゃんけん列車、ゴロゴロドカンなど）   |
| 小・3学年 | 富士河口湖町立河口小学校   | 特別活動<br>（風船バレー、遊具遊びなど）    |
| 小・4学年 | 富士吉田市立下吉田第二小学校 | 図画工作                      |
| 小・5学年 | 富士河口湖町立大石小学校   | 特別活動<br>（椅子取りゲーム、借り物競争など） |
| 小・5学年 | 西桂町立西桂小学校      | 図画工作、体育、<br>特別活動（なぞなど）    |

### 3 成果と課題

全員の児童が居住地校に行き、直接交流を実施することができた。昨年度から継続している児童は、居住地校の児童が覚えていてくれており、スムーズに活動に参加することができていた。新規で居住地校交流を実施した6名の児童も、保育園で一緒に過ごした友達との再会を互いに喜び、慣れない環境で活動する本校の児童を見て友達が優しく教えてくれたり、休み時間には一緒に遊んだり授業以外にもたくさん関わる様子が見られた。活動内容は保護者の意向を本校の担任が聞き取った上で居住地校の担任と打合せを行い、決めている。居住地校の理解を得ることで、本校の児童生徒が無理なく活動に参加できている。保護者からは、「普段あまりしゃべらなくて声を掛けても反応しないことが多いのに、友達の声掛けに応じて楽しみながら活動していて

嬉しかった」「長時間の交流で心配していたが、集中が途切れることなく楽しそうに過ごしていた」「居住地校交流を継続してよかった」などの感想をいただいた。別々の学校で学習することになっても、友達とのつながりを意識できる機会として、また、共生社会の礎として、児童生徒や保護者がお互いに満たされた感情をもつことは大切であると考え。相手校となる居住地校の御理解と保護者の御協力によるところが大きい、来年度もより多くの児童生徒が居住地校交流を実施することができるように努力したい。



## Ⅵ 本年度の交流及び共同学習のまとめ

今年度も交流校や地域交流先と連携し、交流方法や内容などを検討し、児童生徒にとって有意義な時間を過ごせる交流及び共同学習を実施した。

学校間交流では、交流校と密に連絡を取り合って、交流内容、方法について打合せを行い、計画し、実施してきた。1回目は本校、2回目は交流校が主体となって内容を計画していくが、両校の学習内容に応じて、交流内容を検討し、実施した。小学部では、相手校の御理解をいただき、5年ぶりに全学年が2回の対面による直接交流を実施できた。昨年度まで課題として挙げられていた、オンラインでの交流の難しさが解消され、実際に顔を見て、言葉だけではなく、表情や動き、仕草などでもコミュニケーションを図ることができ、互いに表現を発信したり触れ合ったりなどの対面での交流の良さを感じることができた。

地域交流は連携先と打合せを丁寧に行い、児童生徒の実態に合った交流を実施することができた。今年度から高等部が地域の方と一緒に花植え、清掃活動の交流活動を始めた。身近な地域である富士ふれあいの村内の富士ふれあいセンターやはまなし寮とも関わりをもつことができた。清掃活動を通して、身近な地域に関わり、地域の一員である意識をもったり、「きれいにしてくれてありがとう」と感謝される経験をしたりすることができた。

居住地校交流は、10名の児童が1～3回実施した。今年度から交流を始めた児童は、最初は緊張している様子が見られたが、相手校の友達に声を掛けてもらったり、手をつないで一緒に移動したりすることで、少しずつ笑顔が見られるようになってきた。継続して実施することで、集団には入ることが難しかった児童も集団と一緒に活動できるようになったり、自分から話し掛けたりなど、やり取りをする場面も見られるようになった。年に数回の交流ではあるが、継続して実施することで本校の児童だけでなく相手校の児童も交流することを楽しみにしてくれ、交流内容を提案してくれることもあった。共に関係を築き、相互に理解を深めることのできる交流ができるよう、来年度も相手校と保護者の協力を得ながら実施していきたい。

交流先と打合せや反省をする中で、交流内容を検討する際に本校の児童生徒の実態が分からず、具体的な内容を考えることが難しいという声があった。事前に打合せをしたり、相手校と一緒に交流内容を検討したりしているが、障害を知ってもらうこと、理解してもらうことの啓発活動が足りないことを感じた。また、学部や学年の実態に応じた内容の工夫だけではなく、児童生徒が主体となれるよう「どんなことを一緒にしたいか」などの交流内容を児童生徒自身が考えることも、互いのことを知り、考え、理解につなげていくために大切だと考える。今年度の実施のまとめを連携先と共有し、来年度は計画段階から双方が互いのことを考えられる交流及び共同学習を実施していきたい。

## I 学校概要

## 1 学校の概要

|             |                           |
|-------------|---------------------------|
| 学 校 名       | 山梨県立かえで支援学校               |
| 所 在 地       | 〒400-0807 山梨県甲府市東光寺2-25-1 |
| 電話番号        | 055-223-6355              |
| 校 長 名       | 荒川 昌浩                     |
| 交流及び共同学習主任名 | 古屋 藍                      |

## 2 学校教育目標

- － 子どもたちが、幸せな人生を送るために －
- ・心身ともに健康な児童生徒を育成する。
  - ・個々の能力・特性を生かして、基礎的・基本的な確かな学力を育成する。
  - ・働く意欲や喜びをもち、社会の一員として共に生きる力を育成する。
  - ・多くの人たちとの交流を深め、豊かな人間性・社会性・道徳性を育成する。
  - ・子どもの人権を尊び、自己実現に向け、自己選択・自己決定する力を育成する。

## II 交流及び共同学習推進会議の概要

## 1 交流及び共同学習推進会議構成員

| No. | 所 属・職 名                | 備 考 |
|-----|------------------------|-----|
| 1   | 甲府市立里垣小学校・校長           | 会長  |
| 2   | 甲府市立里垣小学校・交流及び共同学習担当   |     |
| 3   | 甲府市立東中学校・校長            |     |
| 4   | 甲府市立東中学校・交流及び共同学習担当    |     |
| 5   | 山梨県立甲府東高等学校・校長         |     |
| 6   | 山梨県立甲府東高等学校・交流及び共同学習担当 |     |
| 7   | 里垣地区社会福祉協議会・会長         | 副会長 |
| 8   | 里垣地区食生活改善推進員会・代表       |     |
| 9   | 里垣地区大正琴サークル「つみき会」・代表   |     |
| 10  | 里垣地区民生児童委員協議会・民生児童委員   |     |
| 11  | 山梨県立かえで支援学校PTA・会長      |     |
| 12  | 山梨県立かえで支援学校・校長         |     |

## 2 年間計画

| 開催時期  | 内 容                           |
|-------|-------------------------------|
| 5月22日 | 委嘱状交付、推進会議の概要、昨年度の活動概要、本年度の計画 |
| 1月29日 | 今年度の活動状況、来年度の課題、意見交換          |

### Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

#### 1 目 的

同世代の児童生徒との様々な交流活動を通して、生活経験を拡大させるとともに相互理解を促し、共に学び共に育ち合う気持ちを育てる。

##### （1）小学部

- ①同世代の児童との交流活動を通じ、一緒に様々な活動に取り組みながら共に学び合う気持ちを育む。
- ②友達とのかかわり方を身に付け、楽しくやりとりを行うことができるようにする。

##### （2）中学部

- ①同世代の生徒との交流活動を行い、一緒に活動する中で共に学ぶ楽しさを味わい、豊かな人間性を養う。
- ②同世代の生徒とのかかわりを広げ、お互いのことを知る中で、自分から人とかかわろうとする気持ちを育む。

##### （3）高等部

- ①同世代の生徒との交流や学び合いを通して、協力してかかわりながら互いに理解を深める。
- ②互いの個性を尊重し、思いやりや感謝の心をもって人と接する態度を育成する。
- ③他校の生徒との作品交流を通して、お互いの理解を深めるとともに自らの表現意欲を高める。

#### 2 提携校

| 学 部 | 交流及び共同学習提携校 |
|-----|-------------|
| 小学部 | 甲府市立里垣小学校   |
| 中学部 | 甲府市立東中学校    |
| 高等部 | 山梨県立甲府東高等学校 |

#### 3 実施状況

| 学部 | 時期     | 提携校             | 実施学年 | 指導区分       | 内容                      |
|----|--------|-----------------|------|------------|-------------------------|
| 小  | 6月～1月  | 甲府市立里垣小学校       | 学年ごと | 各教科及び特別活動  | ゲーム、運動、歌等               |
|    | 11月23日 | 甲府市立里垣小学校       | 全学年  | 特別活動       | かえで祭にて作品展示              |
| 中  | 6月11日  | 甲府市立東中学校        | 1学年  | 特別活動       | 自己紹介、ゲーム等               |
|    | 9月     | 甲府市立東中学校        | 全学年  | 美術         | 東輝祭にて作品展示               |
|    | 11月23日 | 甲府市立東中学校        | 全学年  | 美術         | かえで祭にて作品交流              |
|    | 12月17日 | 甲府市立東中学校        | 1学年  | 特別活動       | ゲーム、運動等                 |
|    | 通年     | 甲府市立東中学校        | 3学年  | 特別活動<br>美術 | 相手校へ向けて、窓ガラスにメッセージを掲示する |
| 高  | 6月     | 山梨県立<br>甲府東高等学校 | 全学年  | 特別活動       | 蒼龍祭にて作品展示               |
|    | 11月23日 | 山梨県立<br>甲府東高等学校 | 全学年  | 特別活動       | かえで祭にて作品展示              |

## 4 学校間交流の様子

### (1) 小学部

#### ①甲府市立里垣小学校との交流会

##### 【1年生】

11月28日に本校にて直接交流を行った。1年生にとっては初めての交流会だったが事前学習や練習をしたことで、交流会に向けて期待感を高めることができた。交流会は、最初に体育の体操で行っている「元気に元気に」体操をみんなで一緒にいき、たくさんの友達と一緒に体を動かす楽しさを味わうことができた。次に里垣小学校の児童たちが「ハロ」というダンスを披露してくれた。里垣小学校の児童と一緒に踊るかえでの児童の姿も見られた。最後には、かえで支援学校の児童と里垣小学校の児童が手をつなぎ一緒にバルーンの中に入る活動も行いみんなで盛り上がった。自然なかかわりがたくさん見られ、6年間の交流の良いスタートを切ることができた。



##### 【2年生】

11月27日に里垣小学校にて直接交流を行った。事前学習を丁寧に行ったことで、いつもと違う場所であっても落ち着いて活動することができた。交流会では、「はじめの会」、「ダンス発表」、「台風の目」、「おわりの会」の活動を行った。「ダンス発表」では、本校は体育で取り組んできたフラッグダンス、里垣小学校は運動会で発表したダンスを発表し合った。どちらの児童も興味をもちながら友達の踊る様子を真剣に見たり、手拍子をしたりしていた。「台風の目」では、1本の棒をかえで支援学校児童1名と里垣小学校の児童2名の3名で一緒に持って走った。自分のチームの友達を応援したり、友達のペースに合わせてスピードを調整したりする様子が見られた。また、休み時間には積極的に会話をする等、活動を通して自然なかかわりをしながら交流を深めることができた。かえで支援学校の児童が帰る時に、里垣小学校の児童が花道を作ってくれ、その中を「また遊ぼうね」「楽しかったね」等と互いに言いながらハイタッチをしてかかわることができた。



##### 【3年生】

11月7日に里垣小学校にて、直接交流を行った。初めは、里垣小学校に行くということで、ワクワクと少し緊張が混ざったような様子が見られた。交流会では、「音楽発表」「台風の目」の活動を行った。「音楽発表」では、朝の運動で取り組んできた「パイナポー体操」と里垣小学校児童が運動会で披露した「花笠音頭」を発表し合った。「パイナポー体操」の2回目は全員で踊り、気持ちもちが1つになった瞬間だった。里垣小学校児童は「花笠音頭」を披露してくれ、気迫あふれる素晴らしい踊りに「すごい!」「やってみたい」との声が上がった。「台風の目」では3人一組で棒を持ち、一緒に走った。待ち時間は積極的に話したり、顔をのぞいたりするなど、自然なかかわりが見られた。事後学習では、児童から「またあそぼうね」「ありがとう」などの言葉からとても良い交流だったと感じた。



##### 【4年生】

10月11日に里垣小学校で直接交流を行った。今年は里垣小学校の児童が中心に企画してくれた。初めての里垣小学校だったが、事前に里垣小学校まで歩く学習を行い、当日は安全に行って帰ることができた。かえで支援学校とは違う里垣小学校の校庭や校舎に児童の目も釘付けだった。交流会では、「はじめの会」、「玉入れゲーム」、「み



んなで歌おう『FRIENDS』」、「おわりの会」の活動を行った。「玉入れゲーム」は、里垣小学校の児童と一緒に棒を持って走った後、ボールを投げてカゴに入れる活動だった。里垣小学校の児童は走る速度を合わせたり、ボールを手渡してくれたりした。ゲームが進むにつれ緊張もほぐれ、応援に熱が入り、一緒に一喜一憂する姿が見られた。「みんなで歌おう『FRIENDS』」では、かえで支援学校の校歌を手話をしながら歌った。里垣小学校の児童も練習を重ねてくださり、「みんなで手を繋ぎ合える」という歌詞では、里垣小学校とかえで支援学校の児童と一緒に手を繋いで歌うことができた。帰る際には、外に出て見えなくなるまで手を振って見送ってくれ、来年を楽しみに交流会を終えることができた。

### 【5年生】

7月2日に直接交流を行った。今年度は里垣小学校で行う初めての交流会であり、緊張する様子も見られたが、里垣小学校の5年生が交流会の司会進行、ゲーム、教室内の飾りつけなどを事前に考えて準備してくれるなど温かい雰囲気でもて迎えていただき、子供たちはとても嬉しそうにしていた。交流会では、音楽発表やゲームを行った。音楽発表では、里垣小学校の友達のリコーダーの演奏に静かに耳を傾ける様子が見られた。また、かえで支援学校の発表では、練習してきた『れつつ・ごー!』を歌った。どの児童も元気に歌ったり手拍子をしたりして日頃の学習の成果を発表することができた。ゲームでは、じゃんけん列車と椅子取りゲームを行った。「じゃんけんしよう」と声を掛け合ったり、肩を組んだりしているうちに自然と笑顔が増えていき、笑い声があふれる楽しい交流会となった。帰り際には、「また来年」「楽しみにしているよ」とハイタッチをして再会の約束をし、来年の交流会も楽しみとなった。



### 【6年生】

1月22日に里垣小学校にて直接交流を行った。里垣小学校に行くのは1年生の時以来であったが、事前学習を行ったことで戸惑うことなく落ち着いて参加することができた。交流会は里垣小学校の児童が企画や進行をしてくれた。まずは学習してきた音楽発表やダンスを披露し、里垣小学校のリコーダーやダンスの発表に見入って「すごいね」と感動する姿が見られた。猛獣狩りゲームでは、3人、4人、5人組を作り、できた組でその都度自己紹介を行ったが、里垣小学校の児童が優しくリードしてくれたことで、児童同士で仲を深めることができた。台風の目は楽しい雰囲気のなかで行い、息を合わせて走ったり、走り終わった後には自然にハイタッチをしたりしていた。里垣小学校の児童がとても温かい雰囲気でもて迎えてくれたことで、「楽しかった」「また会いにいきたい」と感想を伝える子が多く、良い交流会であったと感じた。



### ②作品交流（かえで祭）

今年度も里垣小学校の図工作品を12作品お借りし、かえで祭で展示させていただいた。友達作品を見て「すごい」「きれい」などの感想が多く聞かれました。また、多くの学年が直接交流だったこともあり、児童たちはより、興味深く作品を鑑賞することができた。

## (2) 中学部

### ①甲府市立東中学校との交流会 1 年生

#### 【直接交流 1 回目】

6 月 11 日に東中学校との交流 1 回目を本校グラウンドで行った。17 グループに分かれ自己紹介やレクレーション『繋いで・くぐって・GO! GO! GO!』をした。初めはお互いに緊張した様子だったが、活動を通して生徒同士のかかわりも生まれ、お互いに声を掛け合ったり、活動を楽しんだりする様子が見られた。活動が終わり、東中学校の生徒を見送る際には、「また 12 月にね!」と 2 回目の交流を楽しみにしている生徒もいた。



#### 【直接交流 2 回目】

12 月 17 日、待ちに待った 2 回目の交流が東中学校の体育館で行われた。クラスにわかれて『ジェンカリレー』をしたり、『マイムマイム』を踊ったりと活動を通して生徒たちが互いにかかわり合う姿が多くみられ、1 回目よりも更に交流を深めることができた。会の後半には両校が 2 学期に取り組んだ学習発表を行い、かえでは、かえで祭で披露した『武田節』を、東中学校は合唱祭で歌った『栄光の架橋』を披露し合った。迫力のある歌声に感動し、「歌上手だったよ」と声をかけている生徒もいた。



### ②メッセージ交流：3 年生

校舎の向かい合う窓を使って、メッセージを貼り気持ちを伝えあった。本校では、3 年生がメッセージの作成を行った。『東とかえで チーム友達』（東中学校）『仲間と共に限界突破!』（かえで支援学校）のメッセージを送りあった。メッセージ交流は、本校の開校の際に東中学校からメッセージを貼っていただき、それ以来毎年続けられている。生徒たちも毎日メッセージを見ることができるので、直接会えなくても「次いつ会えるかな。」「元気かな。」など友達を思い浮かべる良い機会となっている。交流を深めるために良い取り組みだと思うのでこれからも続けていきたい。



「東とかえで チーム友達」



「仲間と共に限界突破!」

### ③作品交流（東輝祭、かえで祭）

互いの学園祭で作品交流を行った。本校からは、主に中学部 2 年生が美術の時間に制作した作品を東輝祭で展示していただいた。かえで祭では、東中学校の美術作品を展示させていただいた。バラエティーに富んだ作品が多く、興味深く鑑賞する様子が見られた。また、沢山の作品のおかげで、かえで祭を盛り上げていただいた。

## (3) 高等部

### ①甲府東高校との作品交流

#### 【蒼龍祭】

本校高等部の作品を、甲府東高校の学園祭（蒼龍祭）で展示していただいた。本年度は、各学年の美術作品（絵画・立体作品等）と、作業学習で作った製品（木工班：木箱、食品加工：チョコチャンクスコーン、クラフト班：カレンダー等、陶芸班：皿、農園班：じゃがいも、手工芸班：ティッシュケース等）を展示していただいた。展示教室にメッセージボードを掲示していただき、「丁寧に作ってあ



り、素晴らしいです！」「すごくてきです。」「機会あればぜひ購入したいです。」等、感想をたくさんいただくことができた。メッセージボードは、本校の廊下に掲示し、多くの生徒が嬉しそうに読む様子が見られた。

#### 【かえで祭】

甲府東高校生徒会が厳選した切り絵、クラス新聞、似顔絵を貸していただいた。切り絵は、児童生徒玄関に掲示し、クラス新聞と似顔絵は高等部棟に掲示した。どの作品も色鮮やかで精巧に作られていて、興味深く鑑賞する姿が見られた。展示場所にメッセージカードを用意し、甲府東高校生へのメッセージを書けるようにした。「すごい！」「上手ですね！」「素敵な作品をありがとうございます。」等、多くのメッセージが寄せられた。作品やメッセージを介して、交流を深めることができた。



## 5 成果と課題

### (1) 小学部

#### ①甲府市立里垣小学校

コロナ禍が明けて直接交流 2 年目ということで、今年度は 1 年生以外里垣小学校にて行う計画を立てた。丁寧に事前学習を行ったり、里垣小学校の児童が交流会の司会進行や飾りなどを行ってくれたりしたことで、期待感をもちながらも落ち着いて参加することができた。各学年学習で学んだダンスや歌を発表したり、一緒にゲームをしたりと、楽しみながら交流を深めることができた。里垣小学校に行くこともとてもよい経験だったので、今後も交流場所については相談して決めていけるとよい。6 年生は互いに行事が多く、日程の調整が難しく 1 月の予定となった。

### (2) 中学部

#### ①甲府市立東中学校

昨年度の反省を生かしながら、コロナ禍前と同じような学習のねらい、計画を立てた。テスト期間や行事等で日程調整が難しかったが、こちらの希望に合わせて柔軟に対応をしてくださりありがたかった。会の進行や活動内容はなるべく生徒主体で決めていけるよう両校で取り組むことができた。その際、かえで支援学校の生徒が取り組める内容を考えてくださり、当日は全員で活動を楽しむことができた。2 回の交流を通して互いを知り、受け入れ、理解を深めることのできた交流会となった。今後も同じ地域に属する学校同士、交流活動を進めていきたい。

### (3) 高等部

#### ①甲府東高校

作品交流では、互いの学園祭でそれぞれの作品を展示し、メッセージ交換を行った。今年度も緻密に作られたダイナミックな作品をお借りすることができ、展示した際には、多くの生徒が足を止めて、興味深そうに鑑賞していた。間接的な取り組みとなるため、相手を少しでもイメージできるように、甲府東高校に展示された自分たちの作品を写真で紹介したり、甲府東高校からのメッセージをわかりやすく言葉で伝えたりすることで、甲府東高校の生徒を少しずつ意識する姿が見られた。美術で制作した作品や作業班の製品を展示させていただくことで、甲府東高校の生徒や保護者に本校を知っていただく貴重な場となった。来年度もお互いの行事や学習を通して、よりよい交流の機会を設定したい。甲府東高校との交流では、甲府東高校の生徒たちからあたたかいメッセージをたくさんいただき、かえでの生徒たちにとって大きな励みとなった。作品を通しての交流であるため、相手を意識できるような支援について模索し、お互いに高め合ったり、認め合ったりする交流にしていきたい。

## Ⅳ 地域における交流活動（地域交流）

### 1 目 的

地域の人々とふれあったり、学校を取り巻く環境を体感したりすることにより、地域社会の中で共に豊かに生きていく力を身に付ける。

#### （1）小学部

①地域の方々とのおいさつや交流会で生活経験を広げ、様々な人と楽しくやりとりを行うことができるようにする。

②地域の方々と身近な食材や季節の食べ物を扱うことで、食生活の経験を拡大させる。

#### （2）中学部

①地域の方々と活動を共にし、ふれあいを楽しみ、お互いに理解を深め合う。

②生活経験や対人関係を広げ、地域社会の中で生きていく力の基礎をつくる。

#### （3）高等部

①地域の方々と共に活動する中で、自分たちが人のためになっているという意識を持ち、奉仕の心を育てる。

②地域の方々とのおいさつを通し、お互いを理解する。

### 2 交流先

| 学 部 | 地域交流先                                       |
|-----|---------------------------------------------|
| 小学部 | 里垣地区社会福祉協議会、里垣地区食生活改善推進委員会<br>里垣地区民生児童委員協議会 |
| 中学部 | 中澤ぶどう園、松永ぶどう園                               |
| 高等部 | 大正琴サークル「つみき会」                               |
| 全 校 | ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ                            |

### 3 実施状況

| 学部 | 時期         | 地域交流先                        | 実施学年  | 指導区分   | 内容             |
|----|------------|------------------------------|-------|--------|----------------|
| 小  | 4、7月       | 食生活改善推進委員会                   | 3学年   | 生活単元学習 | トマトの苗植え・収穫     |
|    | 12月        | 里垣地区民生児童委員協議会<br>里垣地区社会福祉協議会 | 1、2学年 | 生活単元学習 | 焼き芋会           |
| 中  | 6月～<br>12月 | 中澤ぶどう園<br>松永ぶどう園             | 2学年   | 生活単元学習 | ぶどう園作業体験       |
| 高  | 12月        | 大正琴サークル<br>「つみき会」            | 1学年   | 音楽     | 大正琴演奏鑑賞等       |
| 全校 | 10月        | 社会福祉協議会                      | 全校    | 特別活動   | ぶどうの贈呈式        |
|    | 11月28日     | ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ             | 全校    | 特別活動   | 全体会<br>各学年での交流 |

### 4 地域交流の様

#### （1）小学部

##### ①里垣地区食生活改善推進委員会との交流

今年度は4月と7月に里垣地区食生活推進委員会の方々と地域交流を行った。1回目はトマト、ミニトマト、オクラの苗植えをした。地域の方々と言葉のやりとりをしながら楽しく活動できた児童もいた。2回目は収穫した野菜でベーコン巻きを作った。野菜が苦手な児童もいたが、地域の方と一緒に作ったベーコン巻きは特別だったようで、自分から食べようとする姿が見られた。



②里垣地区社会福祉協議会及び里垣地区民生児童委員協議会との交流  
地域の方が8名参加し、焼き芋会を行った。火をおこしたり、児童が投げ入れたさつまいもを食べ頃に焼いてもらったりした。児童にあたたかい声をかけていただきながら、ふれあい遊びを一緒に楽しんだりすることができた。出来上がった焼き芋を一緒に食べて、交流を深めることもできた。普段、さつまいもを口にできない児童が焼き芋を食べる姿も見られた。焼き芋会が終わった後に、児童から「たのしかった」「おもしろかった」などの声も自然に聞かれ、良い地域交流となった。



## (2) 中学部

### ①ぶどう園との交流

2年生が2グループに分かれて、松永ぶどう園と中澤ぶどう園に3回訪問させていただき、葡萄の栽培体験を通じて交流を行った。葡萄の傘かけ、収穫、収穫後の枝拾いの体験を重ね、葡萄がどのように栽培されているのか、美味しい葡萄を育てるために葡萄園の方々がどのような思いで栽培をしているのかを学ぶことができた。複数回の体験により、地域の名産である葡萄の栽培過程を知ると共に、農家の方や自然の恵みに感謝する機会にもなった。また、活動を通して葡萄園の方々から優しく言葉を掛けられたり、事前学習で学んだことを聞いたり確認したりすることで、お互い積極的にかかわりを持ちながら貴重な体験をすることができた。



## (3) 高等部

### ①大正琴サークル「つみき会」

大正琴サークル「つみき会」との交流を行った。校歌『フレンズ』や『ビリーブ』など生徒に馴染みのある曲を演奏していただいた。演奏を聴きながら手を叩いたり、踊ったりして楽しむことができた。演奏を聴くだけでなく、一人ずつ大正琴に触れる機会を設けていただき、意欲的に取り組む生徒の姿が見られた。初めて大正琴に触れる生徒がほとんどだったが、丁寧に教えていただいたことで、音の響きや大正琴の感触を楽しむことができた。



## (4) 全体

### ①ぶどうの贈呈式

今年度も、里垣地区社会福祉協議会から、里垣地区で栽培されたぶどうを全校児童生徒に届けていただきました。2種類の立派なぶどうに児童生徒は「大きいね。」「食べるのが楽しみ。」「とても喜んでいました。山梨県の特産物でもあるぶどうに親しみをもつ機会となった。



### ②ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブとの交流

昨年度に引き続き今年度も、学校全体でヴァンフォーレ山梨スポーツクラブとの交流会を実施することができた。開校当初から継続して交流を重ねており、児童生徒が毎年楽しみにしている学校行事の一つである。昨年度は、全体交流会をオンラインで実施したが、今年度は体育館で行った。交流当日は、ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブから10名の選手とヴァン君に来校していただき、各学部、学年で実態に応じた交流を行った。普段テレビで見る憧れの選手たちとサイン会やパス回しなどの交流をすることで、児童生徒から輝く笑顔が見られ、有意義な時間を過ごすことができた。全体交流会では、選手たちのパフォーマンスを見たり、入退場時にハイタッチを交わしたりして、選手と児童生徒が互いにパワーを送り合う交流会となった。



### ③校歌『フレンズ』

校歌『フレンズ』は、作曲家の杉本竜一氏に作詞・作曲していただいた曲です。杉本氏の「多くの方々にこの曲を知ってもらいたい。」という考えから、希望する方にはCDや楽譜を差し上げるようにしている。今年度も校内で実施した大正琴コンサートの際に演奏していただいたり、学校間交流や地域交流の際に合唱したり、行事の際、BGMで使用したりと、関係する方々



と一緒に様々な場面で歌うことができた。この曲は、本校の児童生徒のありのままの姿の美しさや心の素直さを表現した曲で、聴く人に優しさを伝えてくれる。また、歌詞を手話で表現でき、本校の児童生徒も曲が流れると自然に身体を揺らしたり手を動かしたりする姿が見られる。今後も自分達の校歌を大切に歌っていくと共に、多くの方々に聴いていただけるよう、校歌『フレンズ』の交流を広げていきたい。

## 5 成果と課題

### (1) 小学部

今年度は、低学年（１・２年生）が焼き芋会、中学年（３年生）が、トマトの苗植えや調理活動を通して、地域の方々と交流することができた。焼き芋や調理活動などの交流は、各学年の授業計画に沿って内容と日程を決めている。こちらの希望に合わせて交流をしてもらうことができ、ありがたかった。地域の方々のお力をお借りし、季節を味わえる貴重な学習の場となり、普段できない経験をすることができている。今後も授業計画に沿った形で、交流を進めていきたい。

### (2) 中学部

実施にあたっては、昨年度の反省を生かしながら、今年度の生徒の実態や学習のねらいを考慮して計画を立てた。毎年、地域の方々の協力を得て、スムーズに交流を行うことができた。また、地域の方々が生徒の実態に配慮し、かかわり方を工夫してくださったり作業をし易いように整えてくださったりしたおかげで、生徒たちが積極的にかかわったり作業したりする様子が多く見られた。帰りには、お土産や試食のぶどうも沢山いただき、生徒たちも喜んでいました。毎年交流が滞りなくできていることに感謝している。

### (3) 高等部

大正琴サークル「つみき会」との交流では、昨年度に引き続き直接交流を実施することができた。生徒たちが普段なかなか触れることができない楽器のため、興味深く演奏を鑑賞したり、つみき会の方の指導の下直接大正琴に触れて演奏する機会をいただき、意欲的に参加することができた。将来を見据えながら、自立や社会参加について学ぶ生徒たちにとって、貴重な経験となっていることに感謝申し上げたい。

## V 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

### 1 目的

居住する地域の様々な人々とふれあうことにより、生涯を通じて地域と結び付いていく基盤をつくるとともに、地域の中で共に生きていくことができる力を培う。

### 2 実施状況

| 学部・学年  | 交流及び共同学習先校名 | 回数 | 実施（活動）内容                                                                                                                                                                    |
|--------|-------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学部・1年 | 笛吹市立一宮西小学校  | 1  | 特別支援学級の自立活動でおはなしすごろく、通常の学級の体育でボール運動をした。保育園からの友達が多く、相手校の児童から本児に積極的に関わる様子がみられ、すぐに溶け込んでいた。休み時間も一緒に過ごし、友達に声を掛けられたり手を引かれたりしながらグラウンドの遊具で楽しく遊ぶ姿が見られた。                              |
| 小学部・2年 | 笛吹市立春日居小学校  | 3  | 今年度より交流を行った。1回目の交流では、特別支援学級の自立活動の授業に参加し、身体を使った活動やルールのある活動を友達と一緒に楽しむ様子が見られた。2回目の交流では、学年で行う生活の授業に参加し、お店屋さんごっこやゲームを通して様々な友達と交流することができた。回数を重ねるごとに友達と仲良くなり、休み時間は鬼ごっこを楽しむ様子も見られた。 |
| 小学部・3年 | 笛吹市立富士見小学校  | 2  | 3年目の交流で、今年度は、2回（12月、1月）の交流を行った。休み時間や音楽の授業を通じて交流を行った。本児が入りやすい活動での交流をという配慮や回数を重ねお互いに慣れてきたこともあり、安定した気持ちで、楽しく交流することができた。                                                        |
| 小学部・3年 | 甲府市立東小学校    | 2  | 昨年度の3学期から交流を開始し、今年度の1、2学期に各一回交流を実施した。学年全員で、台風の日や猛獣狩りなど、体を動かす活動を中心に体育館で交流を行った。2学期は運動会の花笠音頭を一緒に踊り、楽しく活動に参加することができた。                                                           |

|        |            |   |                                                                                                                                                                                        |
|--------|------------|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学部・4年 | 甲府市立国母小学校  | 1 | 3年目の交流であった。回数を重ねてきたことでお互いに慣れた様子ですぐに溶け込むことができ、学年全体の演奏会へ参加した。トライアングルを演奏し、同じ楽器担当の児童に優しく声をかけられたり、事前に練習した成果も見られたりする中でリラックスして楽しく合奏をすることができた。                                                 |
| 小学部・4年 | 甲州市立塩山南小学校 | 1 | 3年目の交流であった。回数を重ねてきたことや双子の妹が学級に在籍していたため、安心して参加することができた。当日は体育に参加した。『よさこい』の曲に合わせて鳴子を鳴らしたり、新聞紙を使ったしっぽとりゲームをしたりした。どの活動も笑顔で活動することができた。友達の名前を呼び、返事が返ってくることが嬉しく、妹を通して多くの友達とコミュニケーションをとることができた。 |
| 小学部・4年 | 山梨市立山梨小学校  | 1 | 昨年まで在籍していた学校のため、期待感をもって参加することができた。当日は、図画工作で、段ボールを用いた創作活動を行った。本人が使い慣れている、はさみとのりを使用する授業内容で積極的に参加することができた。友達にも声をかけられ、嬉しそうな様子で交流することができた。                                                  |
| 小学部・6年 | 笛吹市立一宮西小学校 |   | 2月13日実施                                                                                                                                                                                |
| 中学部・1年 | 笛吹市立一宮中学校  | 1 | 中学部に進学し、初めての居住地校交流であったが、特別支援学級(昨年と同じ生徒たち)との交流だったため、程よい緊張感で臨むことができた。数学ではかけ算九九、国語では文章づくりに関するプリントに集中して取り組むことができた。休み時間もゲーム等の話題でコミュニケーションをとることができた。                                         |

### 3 成果と課題

今年度の居住地校交流は、継続の児童5名に新規の児童3名、生徒1名を加え、計9名の実施となった。年度初めに居住地校と打ち合わせを行い、居住地校交流のねらいや意義、保護者の願いなどについて丁寧に確認したことで、交流を円滑に進めていくことができた。打ち合わせの際に個別の教育支援計画を活用することにより、本校児童生徒の実態や、交流場面以外の全体的な目標についても共通確認することができ、児童生徒の理解が深まった。学習活動の検討や配慮事項など、必要に応じて事前に担任間で連絡をとりあうことで、より良い交流を計画することができたと考える。居住地校交流は、将来、児童が居住地で生活していくことを踏まえ、居住地域の子供達や地域の方々に児童のことを理解してもらいたいという願いをもちながら実施している。地域との結びつきを深めながら育ってほしいという保護者の願いを学校も支援し、来年度も居住地校交流の機会を大切にしていきたいと考える。

## I 学校概要

## 1 学校の概要

|             |                             |
|-------------|-----------------------------|
| 学 校 名       | 山梨県立高等支援学校桃花台学園             |
| 所 在 地       | 〒406-0026 山梨県笛吹市石和町中川1400番地 |
| 電話番号        | 055-263-7760                |
| 校 長 名       | 木村 則夫                       |
| 交流及び共同学習主任名 | 丸尾 祐己                       |

## 2 学校教育目標

生徒に誇りと自信をもたせ、他者への思いやりや協調性を培うとともに、職業教育を通じて、意欲的に社会参加する力を養成する。

## II 交流及び共同学習推進会議の経過

## 1 交流及び共同学習推進会議構成員

| No. | 所 属・職 名                   | 備 考 |
|-----|---------------------------|-----|
| 1   | 笛吹市石和町中川地区・区長             | 会長  |
| 2   | 山梨県立笛吹高等学校・校長             | 副会長 |
| 3   | 笛吹市立石和東小学校・校長             |     |
| 4   | 山梨県立笛吹高等学校・教頭             |     |
| 5   | 山梨県立高等支援学校桃花台学園・校長        |     |
| 6   | 山梨県立高等支援学校桃花台学園・教頭        |     |
| 7   | 山梨県立高等支援学校桃花台学園・主幹教諭      |     |
| 8   | 山梨県立高等支援学校桃花台学園・総務部主任     |     |
| 9   | 山梨県立高等支援学校桃花台学園・総務部副主任    |     |
| 10  | 山梨県立高等支援学校桃花台学園・総務部交流教育担当 |     |
| 11  | 山梨県立高等支援学校桃花台学園・コース主任代表   |     |

## 2 経過

| 開催時期  | 内 容                                                               |
|-------|-------------------------------------------------------------------|
| 5月28日 | 第1回交流及び共同学習推進会議<br>委員委嘱状及び任命書の交付、推進事業の説明、運営要項の説明、本年度の活動計画の説明、意見交換 |
| 2月25日 | 第2回交流及び共同学習推進会議<br>本年度の活動状況、次年度への課題、意見交換                          |

### Ⅲ 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

#### 1 目 的

- (1) 同世代の生徒及び異世代の児童との交流を通して、互いを理解し、助け合いや支え合って生きていくことの大切さを学ばせる。
- (2) 間接的な交流に加えて直接交流を通して、同世代の生徒及び異世代の児童の活動の様子を見たり触れ合ったりするなかで、共に学び合い、高め合う機会とする。

#### 2 提携校

| 交流及び共同学習提携校 |
|-------------|
| 山梨県立笛吹高等学校  |
| 笛吹市立石和東小学校  |

#### 3 実施状況

| 月日              | 提携校                  | 実施学年等               | 教科等区分 | 実施内容                                                       |
|-----------------|----------------------|---------------------|-------|------------------------------------------------------------|
| 5月31日<br>11月12日 | 笛吹市立<br>石和東<br>小学校   | 農業生産コース             | 専門教科  | (小1) 石和東小学校にて、5月にサツマイモの苗植えの方法を教えた。<br>11月はサツマイモの収穫を一緒に行った。 |
| 9月 3日           |                      | 農業生産コース<br>食品加工コース  |       | (小2) 本校にて、桃花ダイスキマーケットの案内・販売・接客                             |
| 11月29日          |                      | 環境メンテナンスコース         |       | (小6) 本校にて、花苗の植栽・清掃                                         |
| 6月26<br>～28日    | 山梨県立<br>笛吹高等学校       | 美術部                 | 特別活動  | 笛吹高校にて、笛吹祭での作品交流                                           |
| 6月27日           |                      | 生徒会役員<br>1、2学年学級委員長 | 特別活動  | 笛吹高校にて、笛吹祭の見学                                              |
| 9月13<br>～14日    |                      | 美術部                 | 特別活動  | 本校にて、学園祭での作品交流                                             |
| 12月 3日          |                      | 食品加工コース             | 専門教科  | 本校にてグループワーク                                                |
| 9月27日           | 山梨県立<br>やまびこ<br>支援学校 | 食品加工コース             | 専門教科  | 喫茶店営業の交流                                                   |

## 4 学校間交流の様子

### (1) 石和東小学校との交流



サツマイモの苗植えの説明



サツマイモの収穫

#### ① サツマイモの定植と収穫

5月に農業生産コース2年生12名が、石和東小学校へ出向き、1年生27名にサツマイモの定植を教えるという交流を行った。本校の生徒は、どのように教えればわかりやすいかを考えて準備や練習をした。しかし、当日は雨天となり定植の実施ができなかったため、1年生の教室でサツマイモや定植について説明をした。児童が説明に興味をもって一生懸命に聞く姿に、充実感や達成感を味わうことができた。

定植活動の代替として11月に行った、サツマイモの収穫作業では、交流後に絵と文で書いた感想や、収穫したサツマイモに関する手紙を送ってもらった。多くの感謝の言葉を受け取ることで、自身の行動の振り返るとともに充実感を味わうことができた。

#### ② 買い物学習

9月に石和東小学校2年生26名が、本校の桃花ダイスキマーケットに合わせて来校し買い物体験をした。来校した児童が1年生の時にサツマイモの定植で交流をした農業生産コースの3年生が中心となり、会場準備や案内・販売活動を行った。

あらかじめ児童から注文をとり、パンや焼き菓子、野菜をスムーズに購入できるよう準備をした。また、小学生が買いやすいサイズや価格に変更した商品を用意した。

本校生徒は、児童の視線やペースに合わせて、接客の仕方を工夫し、かかわりを楽しみながら交流することができた。また、自分たちの作った商品を真剣に買い物する姿や、購入して喜ぶ姿を見て、満足感ややりがいを感じていた。

児童が商品について家族に話をすることで、本校の取組の様子が自然に地域に広がることが期待できる交流であった。



プランターへの植栽



窓ふき清掃

### ③ 花苗の寄せ植え、窓清掃

11月に石和東小学校6年生17名が来校し、花苗の寄せ植えと窓清掃体験を行った。

本校環境メンテナンスコースの生徒が各グループに入り花苗をプランターに寄せ植えする方法や窓清掃の実技を指導した。

本校生徒は、活動の手順や楽しさなどをどのように伝えたらよいか考え、交流会に臨んだ。児童全員に実技をしてもらうことで児童とたくさんのやりとりを行うことができた。窓清掃道具のスクイージーは、はじめて使う児童も多く、きれいに窓ふきできた喜びを感じてもらうことができた。本校生徒は相手に合わせたやり方で教えることの大切さを学ぶことができた。

## (2) 笛吹高等学校との交流



笛吹高校生徒会長が案内



ステージ発表の見学

### ① 笛吹祭（笛吹高校学園祭）での交流

6月に本校2年生の生徒会役員と、1・2年生の学級委員長が学園祭「笛吹祭」の見学をした。笛吹高校生徒会長の案内で、体育館で行われたクラス発表や、校内に展示されている各部活動やコースの展示物を見学した。

本校生徒は同年代の生徒のステージ発表を観覧し、「自分たちも同じようなステージ発表をしてみたい」などの意見を交わしながら楽しんでいた。また、部活動やコースの展示見学では、案内の笛吹高校の生徒や職員の方の話に熱心に耳を傾けていた。本校にはない部活動やコースの話に、特に関心を持ったようである。

美術部は、作品展示という形で参加した。前日に搬入・展示をした生徒たちは、校内を見学し、笛吹祭前日の雰囲気を楽しむこともできた。



本校での笛吹高校美術部作品展示

### ② 部活動の交流

9月に本校の学園祭「桃翔祭」に笛吹高校美術部が作品展示をした。同年代の生徒が描いた絵画は、美術部員に限らず、多くの生徒たちにとって刺激になった。ノートに感想を書き、笛吹高校に送り、感謝を伝えた。また、今年度は3月に笛吹高校で共同制作活動を予定している。その活動が次年度も継続し、生徒同士の直接交流が充実するとよい。

### ③食品化学科との交流



食品加工コースと食品化学科との交流

12月に笛吹高校食品化学科の2・3年生10名が来校し、本校食品加工コース2・3年生9名と交流を実施した。互いに「食品」を取り扱っていることから授業の様子を紹介し合ったり、班に分かれてグループワークを行ったりした。グループワークでは、互いの学校で製造している加工品を組み合わせでコラボ商品考えた。笛吹高校製造のワインを入れたカップケーキや、マーマレードを使ったパンなど魅力的な商品がいくつも考案された。

始めはお互い緊張した様子だったが、簡単なゲームで打ち解けた後は、自然と会話が生まれ和やかな雰囲気交流する姿が見られた。授業での交流会は初めての取り組みとなった。来校した笛吹高校の生徒から「自分のしていることに誇りを持っている」「遠くから通いながら、一生懸命に勉強している」「手際よく動いていて無駄な動きがなかった。私たちもできるようにになりたい」などの感想をもらった。

来年度以降も学習日程を調整して、共に学ぶ交流としてさらに発展し続けていくようにしたい。

### (3) その他



やまびこ支援学校との交流

#### ① やまびこ支援学校との交流

9月にやまびこ支援学校高等部サービス班 9名が来校し、食品加工コースのカフェ販売部生徒と合同授業を行った。昨年度までは、感染症予防の必要性からリモートでの交流であったが、今年度は対面での合同授業が実施できた。授業では、食品加工コースの業務説明や、互いのカフェの運営についての質問タイム後、実際に桃カフェを利用してもらった。やまびこ支援学校には「カフェベル」という地域のお客様に人気のカフェがあり、桃花台学園の焼き菓子を定期的に納品している。今後も互いの理解を深める機会として、交流を継続していきたい。

## 5 成果と課題

石和東小学校との交流では、予定していた交流をすべて実施することができた。サツマイモの定植・収穫と花苗の植栽・清掃の交流では、児童へのわかりやすい教え方やかわり方の工夫を事前に考え、準備を重ねた。悩んだり考えたりして準備をすることで、教えることの難しさを学ぶことができた。石和東小学校の児童にとっても、農作業や清掃と一緒に体験することで、地域にある特別支援学校を身近に感じる機会になり、農作業等について学習することができた。

笛吹高校との交流では、食品化学科との授業交流、笛吹祭への見学、美術部の作品交流という3つの活動を実施することができた。特に、食品化学科との交流においては、「授業を通して生徒同士が直接かかわる交流」を初めて実現することができた。同年代の生徒同士の交流については不安な点もあったが、アイスブレイクのゲームで打ち解けた後は笑いあったり、自然と会話が生まれたりして、和やかな雰囲気の中、心の触れ合いができたように思えた。農業生産コースと環境メンテナンスコースでは両校の職員がそれぞれの授業を見学する機会を持った。次年度は授業を通して生徒同士が直接かかわる交流が実施できるように計画を進めていきたい。

部活動を通しての交流は、次年度も作品交流を続けるとともに、合唱部や美術部との直接交流も進めていきたい。スポーツや芸術活動を頑張っている同世代の仲間がいるということを双方の生徒が実感できる機会であり、将来の共生社会へつながる取組であると感じた。

## IV 地域における交流活動（地域交流）

### 1 目的

- (1) 地域の方々とともに活動するなかで相互扶助の経験を通して協同の大切さを学ばせる
- (2) 学校で学習した内容を、社会の中で活用する経験を通してより確かな力に高める。
- (3) 地域の人々とのふれあいを通して、卒業後の就労に必要なコミュニケーション能力を実践的に育成する。

### 2 交流先

| 地域交流先      |
|------------|
| 笛吹市石和町中川地区 |

### 3 実施状況

| 月日              | 地域交流先        | 実施学年        | 教科等区分 | 実施内容            |
|-----------------|--------------|-------------|-------|-----------------|
| 5月～2月<br>(9回実施) | 中川地区         | 2学年・<br>3学年 | 専門教科  | 桃花ダイスキマーケット     |
| 5月～2月<br>(8回実施) | 中川地区         | 広報委員会       | 特別活動  | 桃花ダイスキマーケット告知放送 |
| 6月26日<br>6月27日  | 中川地区<br>藤巻農園 | 1学年         | 専門教科  | ぶどうのかさかけ        |
| 11月3日           | 中川地区         | 美術部         | 特別活動  | 中川地区公民館祭での作品交流  |

## 4 地域交流の様子



マーケットオープニング



駐車場案内



桃カフェ



パンの販売



ブドウのかさかけ

### (1) 「桃花ダイスキマーケット」

桃花ダイスキマーケットを5月から2月にかけて9回開催した。中川地区の方々に、マーケット開催日時を回覧板や前日の放送で知らせるとともに、石和東小学校へのチラシ配布をしたことにより、学校周辺の住民がおおく来場した。マーケットが地域の方に周知され、学校への問い合わせも多く寄せられている。知り合いからの紹介や広報を見て来場したという方もおり、客層の広がりを感じる。

本校の生徒は「全校でお客様をおもてなしする日」という気持ちをもって、全校体制でマーケットの準備をしている。

生徒が丁寧に育てた野菜や、工夫して製造したパン、焼き菓子を地域の方々に購入してもらうことを通して、生徒の学習の成果を知ってもらう良い機会となった。毎回お客様アンケートを実施し、意見をもらっている。お客様の感想や要望をもらって生徒達は励みに思い、さらにマーケットを良くしていきたいという気持ちが高まる様子が見られた。



野菜などの販売



### (2) ぶどうのかさかけ

6月に1年生の農業生産の授業において、本校農場隣にある藤巻農園でぶどうのかさかけ実習を実施した。農園の方でぶどうにかさをかける意味やその方法を教えてもらい、かさかけを体験した。生徒からは、ぶどう栽培に関する質問が多数出るなど充実した活動ができた。地域の世代の違う方とかかわり、働くことに対する意識や心構え等のお話を聞くことができ、大変勉強になった。

後日、生徒達がかさかけをしたぶどうを農園の方が収穫して本校に届けてくださり、全校生徒で味わうことができた。農園の方には、生徒の感想やお礼の手紙をお渡しした。

### (3) 中川地区公民館祭への作品展示

中川地区公民館祭では、今年度も公民館で、美術部の作品を展示した。「毎年楽しみしている」「生徒たちのがんばりが伝わってくる」などの感想が地域の方から寄せられ、部活動の取組への励みになった。

## 5 成果と課題

桃花ダイスキマーケットでの地域の方々に向けた成果物の販売や、ぶどうのかさかけの作業を地域の方とともにする中で、地域とつながり、共に生活しているということを実感することができた。また、自分も誰かの役に立っているということを感じることで自己肯定感を高められる機会となった。

今後も、本校や特別支援教育への理解がさらに促進できるように、交流する内容を工夫していきたい。地域交流の充実により、さらなる地域に根ざした学校として認知されるよう努力していきたい。

# 令和6年度交流及び共同学習実施報告書 山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園

## I 学校概要

### 1 学校の概要

|             |                         |
|-------------|-------------------------|
| 学 校 名       | 山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園      |
| 所 在 地       | 〒400-0851 甲府市住吉2丁目1番17号 |
| 電話番号        | 055-288-1628            |
| 校 長 名       | 伊藤 太一                   |
| 交流及び共同学習主任名 | 横山 明子                   |

### 2 学校教育目標

一人ひとりの心に寄り添った学習活動を通して、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図り、自信をもって様々な事柄に意欲的に取り組む態度を養い、社会の中で主体的に生きていくために必要な「生きる力」を育む。

## II 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

\*本校の児童生徒の実態から、現在のところ学校間交流は実施していない。

## III 地域における交流活動（地域交流）

### 1 目 的

・緑化活動や作品展示などの地域の人々とふれあう機会から、社会参加の意識を育てる。

### 2 交流先

| 学 部 | 地域交流先           |
|-----|-----------------|
| 小学部 | 甲府伊勢四郵便局（甲府市伊勢） |
| 中学部 | 同上              |

### 3 実施状況

| 時期             | 地域交流先    | 実施学年 | 指導区分 | 実施内容              |
|----------------|----------|------|------|-------------------|
| 5月13日          | 甲府伊勢四郵便局 | 全学年  | 特別活動 | 花のプランターの贈呈        |
| 9月24日          | 甲府市住吉地区  | 全学年  | 特別活動 | 清掃活動              |
| 12月 2日         | 甲府市住吉地区  | 全学年  | 特別活動 | 緑化活動<br>(花いっぱい運動) |
| 6月10日<br>1月30日 | 甲府伊勢四郵便局 | 全学年  | 特別活動 | しおりの贈呈            |

### 4 地域交流の様子

#### (1) 甲府伊勢四郵便局への花のプランターやしおりの贈呈

1学期は、小中学部合同で花の寄せ植えプランターを作り、学園近くの伊勢四郵便局へ寄贈した。今年で2回目の寄贈となる。郵便局を利用する地域の方々の目を楽しませられるように、色の組み合わせや花の配置を考えながら作業を行った。郵便局のご協力もあり、

玄関前の目立つ場所にプランターを飾っていただいた。しおり作りも昨年度に引き続いての活動となった。地域の方々に楽しんで手に取ってもらえるよう、折り紙を丁寧に折って絵をかき、オリジナルのしおりを作った。郵便局の方から、「毎回好評です。」との言葉をいただき、児童生徒の励みとなった。



## (2) 植栽活動

2学期は花いっぱい運動として、チューリップの球根を学園の外の道からも見える花壇に植えたり、学園の玄関前に飾れるようにプランターに植えたりした。学部や学年の垣根を越えて、プラザや学園をきれいにするために協力して作業を行うことが出来た。毎年子球が増え続け、今年は例年より大量の植え付けとなったが、来年の春にはきれいな花をたくさん咲かせ、地域の方々に喜んでもらうことを意識しながら、土づくりや球根植えに励んだ。



## 5 成果と課題

本校は児童生徒の実態や、個人情報に配慮が必要なため、直接の交流は実施できない状況がある。今年度は緑化活動や、近くの郵便局への花のプランターやしおりの贈呈を通して、地域を知ることや地域の方々と間接的でも触れ合う機会ができればと考え、計画・実施を行った。また、学校の外に出て、学校周辺の清掃活動を行うことで、近くに住む地域の方々とあいさつなどで交流する機会を設けた。今後も、児童生徒の状況に合わせた触れ合いの機会をもつとともに、ホームページ、作品展示、地域だよりを通して地域とつながりを広げていくことや、さらなる交流の可能性を探っていくことが望ましい。

## IV 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

\* 本校の児童生徒の実態から、現在のところ居住地交流は実施していない。

## I 学校概要

### 1 学校の概要

|             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 学 校 名       | 山梨大学教育学部附属特別支援学校      |
| 所 在 地       | 〒400-0006 甲府市天神町17-35 |
| 電話番号        | 055-220-8282          |
| 校 長 名       | 田中 武夫                 |
| 交流及び共同学習主任名 | 数野 久実                 |

### 2 学校教育目標

「自ら考え、行動し、まわりの人と助け合いながら生き生きと生活できるたくましい心と体を養う」

- ・心身を鍛え、健康を維持し、つよい心と体を持つ。
- ・身のまわりのことが自分でできる。
- ・人とのかかわりが持て、集団に参加し、仲間と協力できる。
- ・自ら考え、持てる力を精いっぱい出して行動できる。
- ・幅広い視野を持ち、心豊かで文化的な生活を営む。

## II 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

### 1 目 的

#### （1）小学部

- ① 同世代の友達と関わり、一緒に様々な活動に取り組もうとする態度を養う。
- ② とともに活動することを通して、自分なりに表現し、相手と自分から関わろうとする態度を養う。

#### （2）中学部

- ① 同世代の生徒と交わり、共に活動する中で、互いに理解し合う。
- ② 様々な活動を通して、コミュニケーション能力を身につけながら生活経験の拡大を図る。

#### （3）高等部

- ① 同世代の生徒と関わり、交流することで、互いに理解を深める。
- ② 文化的な交流及び共同学習を通して、豊かな心を育てる。

## 2 提携校

| 学 部 | 交流及び共同学習提携校             |
|-----|-------------------------|
| 小学部 | 山梨大学教育学部附属小学校           |
| 中学部 | 山梨大学教育学部附属中学校、甲府市立北東中学校 |
| 高等部 | 学校法人日本航空高等学校            |

## 3 実施状況

| 学部 | 月日    | 提携校                         | 実施学<br>年 | 指導区分                    | 内容                                                                                        |
|----|-------|-----------------------------|----------|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小  | 4 月   | 山梨大学教育学部<br>附属小学校<br>(4 年生) | 全学年      | 生活単元<br>学習              | 校外学習として附属小学校へ行き、「よろしくねの会」を集団で、対面形式で行った。                                                   |
|    | 6 月   | 山梨大学教育学部<br>附属小学校<br>(4 年生) | 全学年      | 図工(低)<br>音楽(中)<br>体育(高) | 附属小学校の児童が支援学校の各学級の教科授業に参加し、活動を行った。                                                        |
|    | 1 1 月 | 山梨大学教育学部<br>附属小学校<br>(4 年生) | 全学年      | 生活単元<br>学習              | 附属小学校の体育館に行き交流会を行った。本校 1 名の児童と附属小 2 名のグループで、9 つの遊びのブースを回った。また、日頃取り組んでいる合唱や踊りを発表し合うこともできた。 |
| 中  | 6 月   | 甲府市立<br>北東中学校<br>特別支援学級     | 全学年      | 保健体育                    | 北東中学校の生徒が来校し、中 3 とゲーム交流などを行った後、体育館でボッチャを行った。                                              |
|    | 1 0 月 | 山梨大学教育学部<br>附属中学校           | 全学年      | 総合                      | 本校学園祭「きりの子まつり」における舞台看板を手紙で依頼した。看板と励ましのメッセージをいただき、学園祭終了後に本校生徒から礼状を送った。                     |
| 高  | 9 月   | 学校法人<br>日本航空高等学校            | 全学年      | 音楽科                     | 和太鼓の生演奏を聴き、パチの持ち方や構え方など、演奏のアドバイスをもらった。                                                    |

## 4 学校間交流の様子

### (1) 小学部

附属小学校 4 年生との活動について

4 月に 1 回目の交流では、小学部の校外学習「あるいていこう」で学校間交流の始まりとして、附属小学校の 4 年生児童と「よろしくねの会」を行った。それぞれの学校の代表が

挨拶をし、本校からは、高学年（５・６年生）児童が、「よろしくね」の文字付きの団扇を附属小学校児童に見せながら挨拶をした。また、自己紹介カードを作成し、一人ずつ直接渡した。渡すときは「なかよくしてね」「よろしくね」などの思いを言葉や握手で伝えて交流をすることができた。

６月の２回目の交流では、各学級の授業に参加してもらい活動を行った。低学年は図工で「夏の木をつくろう」という題材で大きな壁画を作成した。花紙をちぎったり、丸めたりし壁画に貼りつけた。ちぎった花紙をお互いにかけて遊ぶなどして遊んだり、振り返りでは、グループごとに１枚の画用紙に楽しかったことなどを書いたりして交流を行った。中学年は音楽「音楽に合わせて歌おう鳴らそう」という題材でデスクベルやトーンチャイムで演奏したり、パラバルーンを全員で行ったりした。高学年は体育でドッジボールを行い、チームに分かれてゲームの対戦を行った。授業を通じて直接交流し、楽しい時間を過ごすことができた。

１２月の第３回目の交流では、附属小学校が計画した９つの遊びの活動ブースを両校の児童をグループに分けて回りながら、楽しく活動することができた。後半では附属小学校が連合音楽会に向けて取り組んでいる学年合唱を聴いたり、本校がきりの子まつりで取り組んだ踊りや歌唱を披露したりと学習の成果を発表し合うこともできた。

## ２）中学部

６月に北東中学校特別支援学級の生徒と本校中学部生徒全員で交流をした。最初に、中学部３年生のみと交流を行い、自己紹介で好きなものを互いに発表し、あいさつゲームやダンスで交流を深めた。その後、中学部生徒全員と北東中学校の生徒でボッチャを行った。二グループに分かれて北東中学校の生徒の意見も聞きながら順番決めをしたり、「〇〇さん、がんばれ！」と声援を送ったりしながら楽しい一時を過ごすことができた。

附属中学校とは、本校学園祭「きりの子まつり」の劇発表用看板作成を通して交流を行った。本校からストーリーのあらすじを付けた手紙を送って看板の作成依頼をした。附属中学校２年生の１学級が代表で作成してくれた。看板はデザインが凝っていて、生徒たちは「すごいねえ」と感心していた。一緒に届けられたメッセージにも励まされ、当日は、舞台に看板を飾り、附属中学校生徒の思いに見守られながら発表した。学園祭終了後には礼状を書いて附属中学校に送った。「看板がかっこよくて頑張れました」など、感謝の言葉がたくさん書かれていた。

## （３）高等部

### 日本航空高校太鼓隊との活動について

コロナ禍ではビデオレターなどの交流を行ってきたが、昨年に引き続き直接交流することができた。日本航空高校太鼓隊の方には、日本一決定戦に向けてお忙しい時期にもかかわらず日程調整していただき、夏休み明けに実施することができた。太鼓隊の生演奏は本当に素晴らしく、あまりの迫力に驚き、楽しみながら身を乗り出して聴き入る生徒もいた。また太鼓隊の生徒が本校生徒の隣で一人一人に優しく対応しながら演奏のアドバイスをしてくれた。本校生徒も進んで関わりをもとうとすることができた。学校にはない太鼓の打ち方を

教えてもらったり、音を鳴らして楽しんだりして憧れの存在から大きな刺激を受け交流する様子が見られた。

## 5 成果と課題

### (1) 小学部

4月の交流では、附属小学校の代表者と顔合わせ程度の短い時間だったため、次回からの交流に向けて児童を知ってもらうために、自己紹介カードを作成した。自己紹介カードは、小学校に掲示してもらい、次の交流会に期待感をもつことができた。また、保護者の目にも触れ、保護者同士の話題となり、支援学校の児童を知ってもらう良い機会となった。

6月の交流では、1時間の授業を通して交流ができたことで、児童同士の関わりが多く持てた。支援学校の児童にとっては、普段より多い人数の中での活動であったが、物おじせず堂々と活動できる子や不安ながらも勇気を振り絞って一緒に活動する子といつもとは違う面が見られた。支援学校の授業を体験し、活動する支援学校の児童の様子を見たりする中で、附属小学校の児童にも多くの気づきがあり、よい機会となった。

12月の交流では、6月に交流した児童とグループを組み、一緒に活動をした。6月に児童と関わった経験をいかし、支援学校の児童がより楽しめるように附属小学校の児童がゲームを精選したり内容を工夫したりして企画運営し、みんなが楽しく活動することができた。案内の際には、視覚資料を使って、児童同士でコミュニケーションをとりながら店回りをすることができた。

3回の交流会を通して、回を重ねるごとに交流が深まり、互いにとって学びがあったと思う。

### (2) 中学部

北東中学校とは、対面による交流授業を実施することができた。「ボッチャ」を通して交流を行ったが、本校の生徒は、体育の授業で学習している内容だったため、積極的に作戦を提案するなど主体的に活動することができた。北東中学校の生徒に話しかけたり、声援を送ったりして、生徒同士で関わりをもつこともできた。全体交流の前に3年生との交流を行ったことで、北東中学校の生徒の緊張感も少し和らぎ、互いに笑顔で、楽しく活動することができた。課題としては、年1回の交流では関係を深めることは難しいため、交流機会を増やすことを検討する必要がある。

新型コロナウイルスの感染防止や本校校舎改築で活動場所が限られるなどの理由により、附属中学校とは今年度も、本校学園祭の看板作成を依頼するという内容の交流になった。交流が途切れることがなかったのは成果と言えるが、やはり間接的な交流だけでは互いに交流相手という意識をもちにくいところがあった。直接関われる交流活動を実施していくことが今後の課題である。

### (3) 高等部

迫力ある日本航空高校太鼓隊の生演奏を聴いたり、バチの持ち方や演奏のアドバイスなどをもらったりするなどの直接交流となった。本校生徒達は10月の「武田きりの子太鼓」

の発表会に向け、日本航空高校太鼓隊の所作を模倣し、バチの構え方を揃えることや掛け声は大きな声を出すことなどに精一杯励み、とてもよい刺激を受けることができた。同世代の全国で活躍する仲間との交流を通して、学校の中では得られない幅広い視野での経験を深めることができ、豊かな心を養うことが出来た交流であった。

課題としては、お互いの学校行事の間で調整することが大変であった。今年度も当初予定していた日が合わず、（交流校の）大会直後という忙しい中での交流であった。そのため来年度は交流校の都合を優先して交流日を設定していきたい。

### Ⅲ 地域における交流活動（地域交流）

#### 1 目 的

##### （１）小学部

- ① 地域の方々と関わり、一緒に様々な活動に取り組もうとする態度を養う。
- ② 共に活動することを通して、自分なりに表現し、相手と自分から関わろうとする態度を養う。

##### （２）中学部

- ① 地域の方々と交わり、共に活動する中で、互いに理解し合う。
- ② 校内外での活動を通して、コミュニケーション能力を身につけながら生活経験の拡大を図る。

##### （３）高等部

- ① 地域の方々とのふれあいの中から、豊かな心を育てる。
- ② 協力し合い、共生することの大切さに気づく機会を作る。

#### 2 交流先

| 学 部 | 地域交流先          |
|-----|----------------|
| 小学部 | 甲府市新紺屋地区シニアクラブ |
| 中学部 | 甲府市新紺屋地区シニアクラブ |
| 高等部 | 甲府市新紺屋地区シニアクラブ |

#### 3 実施状況

| 学部 | 月日  | 地域交流先             | 実施学年 | 指導区分   | 内容                                                        |
|----|-----|-------------------|------|--------|-----------------------------------------------------------|
| 小  | 9月  | 甲府市新紺屋地区シニアクラブ連合会 | 全学年  | 生活単元学習 | 小学部全体で手遊び歌を行った後で、学級ごとにボッチャゲームを行った。                        |
| 中  | 12月 | 甲府市新紺屋地区シニアクラブ連合会 | 全学年  | 保健体育   | 保健体育の授業で取り組んでいた「ボッチャ」を通して交流活動を行った。また、作業学習で作成した製品をプレゼントした。 |

|   |     |                       |     |            |                                                                          |
|---|-----|-----------------------|-----|------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 高 | 11月 | 甲府市新紺屋地区<br>シニアクラブ連合会 | 全学年 | 生活単元<br>学習 | 「武田きりの子太鼓」と手話入り「空であそぼう」の合唱を披露したり、全員で「ふるさと」を合唱したりしながら交流し、作業学習の製品をプレゼントした。 |
|---|-----|-----------------------|-----|------------|--------------------------------------------------------------------------|

## 4 地域交流の様子

### (1) 小学部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの活動について

今年度は9名のシニアクラブの方が参加してくださり、午前11時から1時間ほど行った。児童はプレイルームで「敬老の日」の学習を行った後、シニアクラブの方々の自己紹介を聞いたり活動をしたりした。手遊び歌「グーチョキパーでなにつくろう」では、児童とシニアクラブの方が隣同士で座ることで、顔を見合ったり話しかけたりしながら一緒に手遊びを楽しむことができた。その後、各学級に移動してボッチャを行った。より交流を深めることができるように、1学級3名ずつシニアクラブの方に入っていただき、応援し合ったり拍手をし合ったりする温かい雰囲気の交流となった。

### (2) 中学部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの活動について

今年度は、生徒が保健体育の授業で取り組んだ「ボッチャ」を通して交流活動を行った。グループごとに自己紹介や練習をする中で、話したり教え合ったりして関りを深めることができた。また、試合の際には、「〇〇さん、頑張って!」と声援を送ったり、投げた後は必ずハイタッチをしたりすることで試合が盛り上がり、楽しい交流となった。また本校から、シニアクラブの方々に作業で作成した製品とお礼のメッセージをも贈った。メッセージでは、「学校に来てくれてありがとうございます」「応援してくれてうれしかったです」など、生徒たちが活動を楽しめた様子が伝わる内容が多かった。

### (3) 高等部

甲府市新紺屋地区シニアクラブとの活動について

シニアクラブの方は9名参加してくださり、午前10時40分から1時間ほど交流を行った。

初めはお互いに自己紹介をし、それぞれの趣味や特技を伝え合った。その後、「武田きりの子太鼓」と、手話入りで「空であそぼう」の合唱を披露した。シニアクラブの方からの感想を聞き、作業学習の製品をプレゼントし、喜んでいただいた。

最後にハイタッチを交わしながらお互いに声をかけ合い、別れを惜しみながら会を閉じた。

## 5 成果と課題

### (1) 小学部

「9月のわくわく集会」の「季節の話」の中で「敬老の日」を学び、その1週間後に地域の方々と一緒に活動する交流を行った。昨年度と同じシニアクラブの方々と、対面で交流をすることができた。児童も教職員も昨年度も参加してくださっている方を覚えていたことや、名札をつけていただき呼びかけやすかったことで、より親しみをもって関わる様子が見られた。また、会話や遊びを通して、地域の方々の学校や児童への関心が高まったことも成果である。障害者スポーツであるボッチャを楽しむ機会にもなった。シニアクラブの方々から、「孫みたいで嬉しい。毎年楽しみにしている。」などの感想が寄せられ、双方にとって有意義な機会であることを感じたため、今後も地域交流としての活動内容や流れを更に工夫しながら継続していきたい。

### (2) 中学部

今年度も甲府市新紺屋地区のシニアクラブの方を学校に招き、対面による交流を行うことができた。シニアクラブの方々は、「ボッチャ」をするのは初めてということだったが、みなさんからは「楽しかった」という感想をいただいた。本校生徒にとっても授業で取り組んだ内容であったため、互いに活動しやすい交流になった。試合の際は、一人一人に必ず声援を送り、投げた後は、うまくいってもいなくても互いにハイタッチで讃え合うなど関わり方を工夫することで、交流会が楽しい雰囲気になった。シニアクラブの方々には、全学部と交流していただいているので、負担にならないよう、来年度も早めに日程や内容などについて検討を行い、有意義な交流を行ってきたい。

### (3) 高等部

本校の特色である「武田きりの子太鼓」や、作業学習のことを理解してもらいたいという目的で地域交流を行ってきた。現在、高等部では半数近くの生徒が自主通学しているため、地域の方々に学校のことや生徒達のことを知ってもらうためにもこの交流の意義を感じている。交流を終えシニアクラブの方々からは「太鼓の演奏を聴くことができよかったです。若いパワーをもらい元気が出ました。素晴らしい製品ですね。」との言葉をいただき、とても良い時間を過ごすことができた。シニアクラブからの発信やふれ合える活動を取り入れ、もう少し深い交流会ができるよう検討していきたい。

また、地域のいくつかのシニアクラブを順にお招きし、多くの方々に本校を知っていただける機会となるよう担当を中心に取り組んでいきたい。

## Ⅳ 居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）

### 1 目 的

- （１）同年代の小中学校の児童生徒と共に活動することにより、相互理解を深める。
- （２）居住地における交流及び共同学習を通し、日常的な交流場面への発展を導く。
- （３）将来的な視点に立ち、より充実した人間関係の基盤を整える。

### 2 実施状況

| 学部・学年    | 交流及び共同学習先校名 | 回数  | 実施（活動）の内容                                        |
|----------|-------------|-----|--------------------------------------------------|
| 小学部 6 学年 | 甲斐市立双葉東小学校  | 2 回 | 昨年に引き続き交流を行った。体育の授業や全校集会、学級活動のレクリエーションを通して交流をした。 |

### 3 成果と課題

昨年度の交流で楽しい時間を過ごし、交流がきっかけで現在も近所で遊ぶこともある。昨年度の良い交流ができたことを踏まえて、さらに交友関係が広がるようにと、昨年度とは違う学級と交流を行った。昨年度の学級の友達にも会いたいという本児の希望から、1回目の交流は、昨年度に交流した学級と今年度に交流する学級と合同で行った。内容は、体育の授業でドッジボールを行った。双葉東小学校では、どうしたら本児が楽しく取り組めるかと話し合いを行い、「本児が学校で行っているルールでやったほうがいいのではないか。」ということで本児に合わせたルールに替えてもらい、本児が生き生きと活動に参加することができた。当日、全校集会があり、児童の中に入ってリズム遊びを行った。大人数の中でも物おじせず、保護者が見つけられないくらい、双葉東小学校児童の輪の中に溶け込んで楽しみながら活動に参加することができた。

2回目の交流は、学級活動に参加し、レクリエーションを行った。昨年度行った「なんでもバスケット」や本校で行っている「風船バレー」を取り入れてもらい、双葉東小学校の児童と会話を交わしながら楽しく活動に参加することができた。事前打ち合わせには、副校長と担任が参加した。本児や保護者の交流に対する思いを交流先の先生と話したり、本児が環境や人に慣れるための配慮や情報共有を行ったりしたことで、とても安心した様子で当日を迎えることができた。本児の実態を伝え共有する中で、一緒に活動できる内容での交流となった。また、交流した学年は、特別支援学級がないため、2年間継続の交流において、関わり方を学んだり、共同のために本児の立場になって考え行動することができたりし、互いにより学びとなった。



## 令和6年度交流及び共同学習実施報告書

山梨県教育委員会